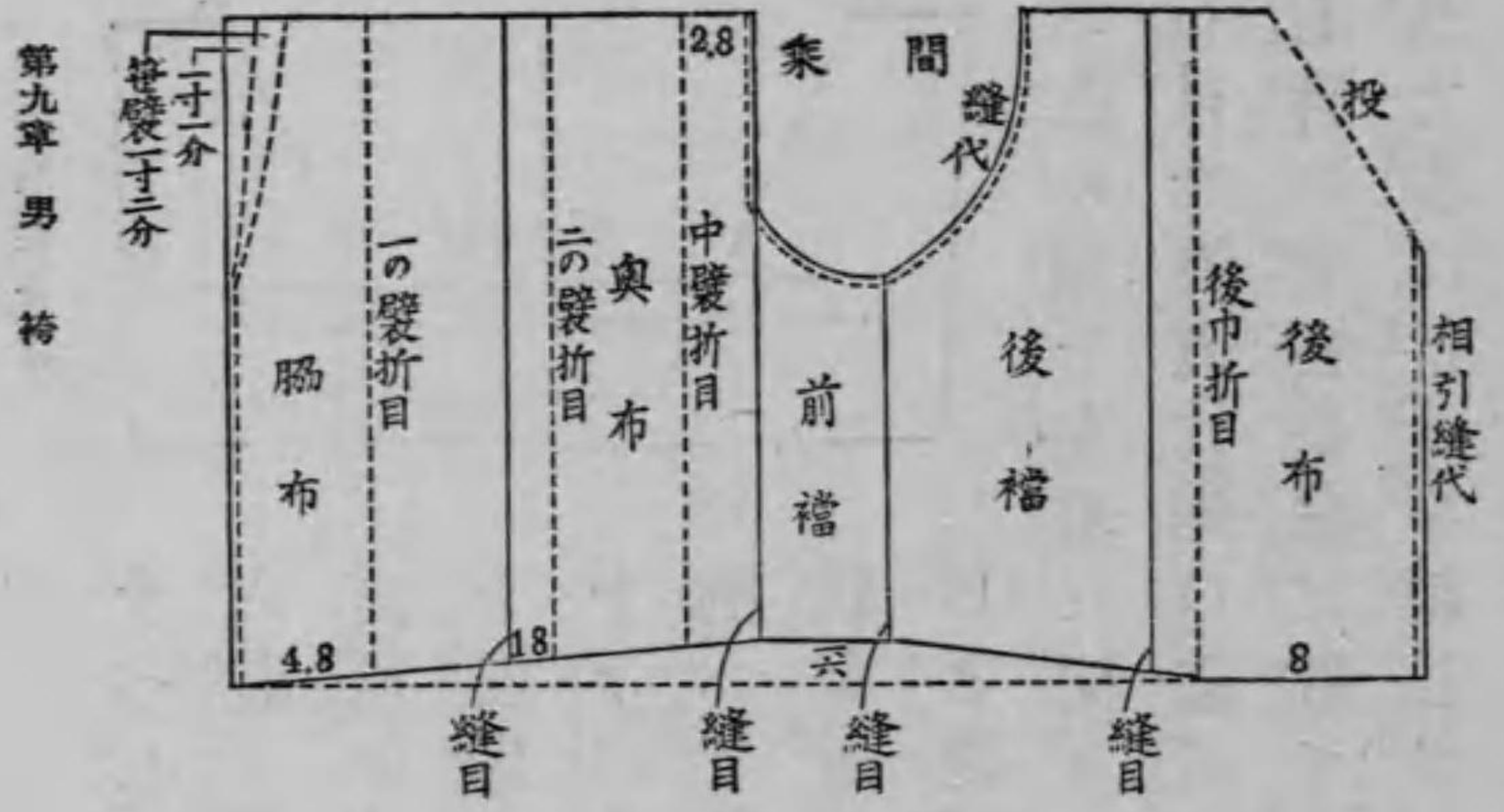


の方に折りて隠躰を掛け置くべし。  
 三襠及び相引 左右とも後襠と前襠とを合せて之を縫ひ縫込  
 を前襠の方を折りて隠躰を掛け次に後布と脇布とを合せて相  
 引を縫ひ縫込を脇布の方に返して相引の上に女袴の如く門留  
 をなすべし。

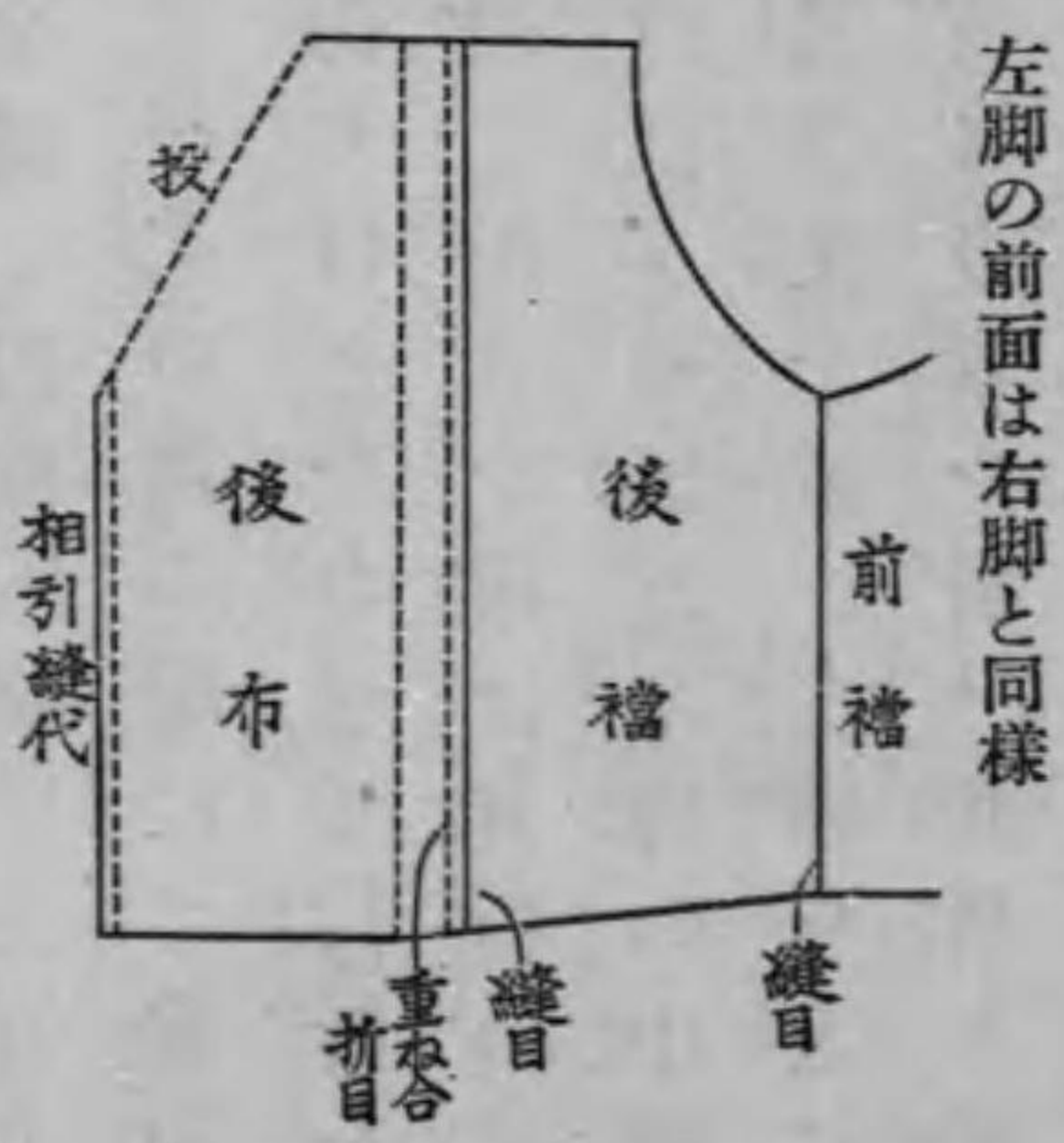
四蹴廻し 裾を五分度りて折を付け、後幅の角の處にて一分程  
 撮み之を切上の附きし方に折り伏せ、之を三つ折になし相引の  
 處より折け始め、後幅の角の處は表裏に針を出し裾折けをなし  
 一方も同様になすべし。  
 絹物なれば紙を六分幅に切りて其一方の端に淺く糊を付け、  
 之を裾口の裏側に貼り然る後三つ折折になすべし。

縫ひ合せ及び襠の取り方圖 (右脚)



第九章 男袴

(左脚の後面)

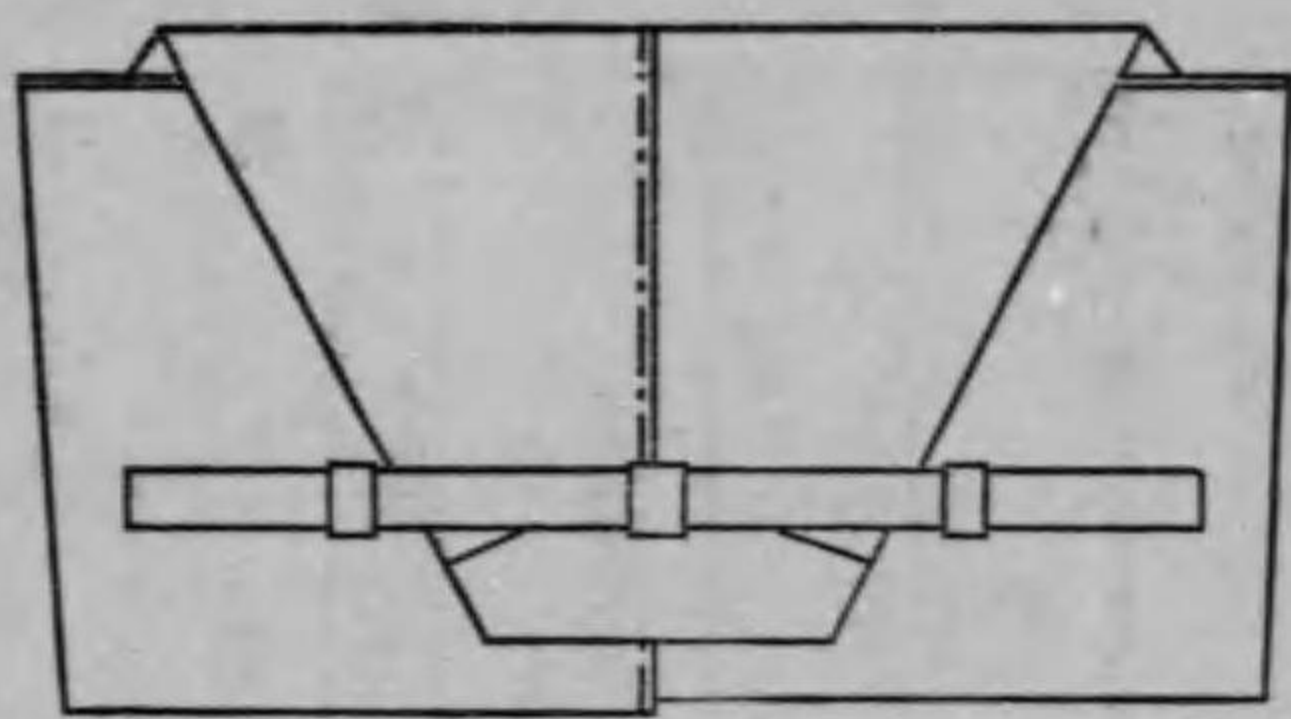


左脚の前面は右脚と同様

五乘間 右右の乘間を外表にな  
 し縫目を合せて裾口を揃へて引  
 き合せ待針を刺し、一分位の縫代  
 にて縫ひ之を裏に返し二本の燃  
 り合せ糸にて袋縫になし表に返

(一七七)

男袴仕立上りの図



後襠の上の幅を左右に開きて、両端に折りを附け、其折の縞目若くは布目を真直に裾口迄折を附け置き、前襠は左脚の中襠の折目を右脚の中襠の處に當て、裾口及び丈を揃へ、左脚を上になし、三枚とも待針を刺して上の方より、膝を掛け、其折と乗間を

すべし。

六襠、襠取り方圖の如く各襠の折を附け、襠附の時に附け置きたる、右脚の後幅の折を左脚の後幅の處に當て、右を上に、左を下に八分重ねて、裾口及び丈の處を能く揃へて待針を刺し、四枚一緒に上の方より、膝を掛け、次に後丈の處の所にて乗間の縫目と後襠の折り目とを合せて待針を刺し、

合せたる縫目とを合せて、懷二寸八分の處を二つ折になし、次に裾口を右にして下に置き、後襠の左右に開きたる折を平になし、前襠を手前の方に例し、夫より後襠と前中襠の折目とを合せて、正しく引合せ、次に紐下を中襠の處にて度り、糸印を附け、それより二の襠一の襠と順次に上下を寸法通り離して、襠を取り、上下に待針を刺し、上下を引合せて中央にも待針を刺し、上は衽下印より一寸位下りし處、下は裾口より二寸位上りし處及び其中央に千鳥掛けの綴ちをなし、上下の待針の處をも假に、膝にて留め置き、笹襠を寸法通りにして、女袴の如く取り、絹物なれば火熨斗を掛け、夫より相引の中央より五分程上りたる處にて、裾を上の方に折り、其裾口より五分程離して、上部を其上に折り重ね、三つに疊み壓をなし置くべし。

七 前紐の長きものを中央となし、紐附の處に接ぎを出さぬやう其兩端にかけはぎにて各々縫ひ合せ縫目を割りて鍔を掛け、次に兩先を裏より縫ひ置き紐芯を紐の仕立上り幅より五厘狭く切り、其端を紐先の縫込に縫ち附け、之を表に返し中央を一尺程残して紵け、終りの一尺程手前まで紐紵をなし、一方の紐先の縫込に芯布の端を縫ち附け、之を表に返し然る後紐を紵け、次に後紐の先を二本とも一方丈裏より縫ひ前紐の如く其縫込に芯布の端を縫ち附け、之を表に返し一方は芯を手前に一方は向側に入れて先を二寸程残して紐紵をなすべし。

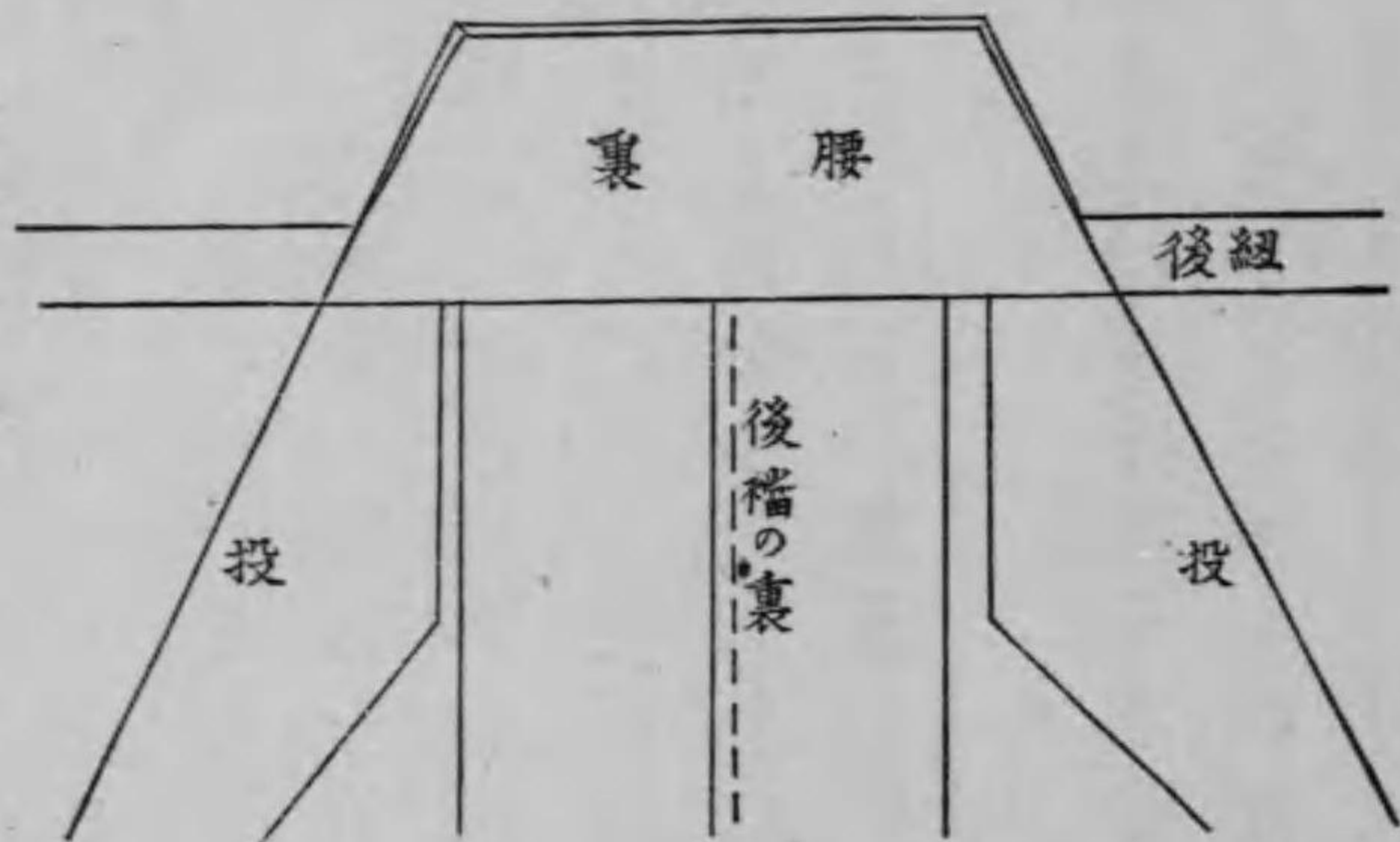
八 表腰 共通要項に示せる如くなし、腰板を貼り附菱及後紐を附け置くべし。

九 前紐附 前紐丈の中央に半紙を横に四つ折になしたるもの

を綴ち附け、其中央を中襷の紐下印の處に當て左右とも一の襷迄真直になして待針を刺し、一の襷より笹襷の端迄を自然に一部若くは一分五厘位上て待針を刺し、二本糸にて針目二三分に一針抜になし、襷の折目にて一針づゝ返して縫ひ附け、縫込の薄き處には紙或は布を入れて平になし裏にて紵るべし。

十 腰附 裏腰布を縫代を二分五厘に折りて之を後布の裏の腰附印の處に當て、襷にて假に縫ち置き、次に表を出し上部を手前になし、小布團様のものを下に敷き、布團を敷きたるは待針をなすに具合能き爲め、腰附印の處に腰板を當て布目を真直に中央と兩端に待針を刺し、附菱を離して裏腰布の方を見て二本撚り合せ、糸にて第一圖の如く右の端より1の處にて確と留め、夫より234は附菱の中に出し、5は附菱の左上角に腰板裏より針を

裏腰を貼るたりる圖



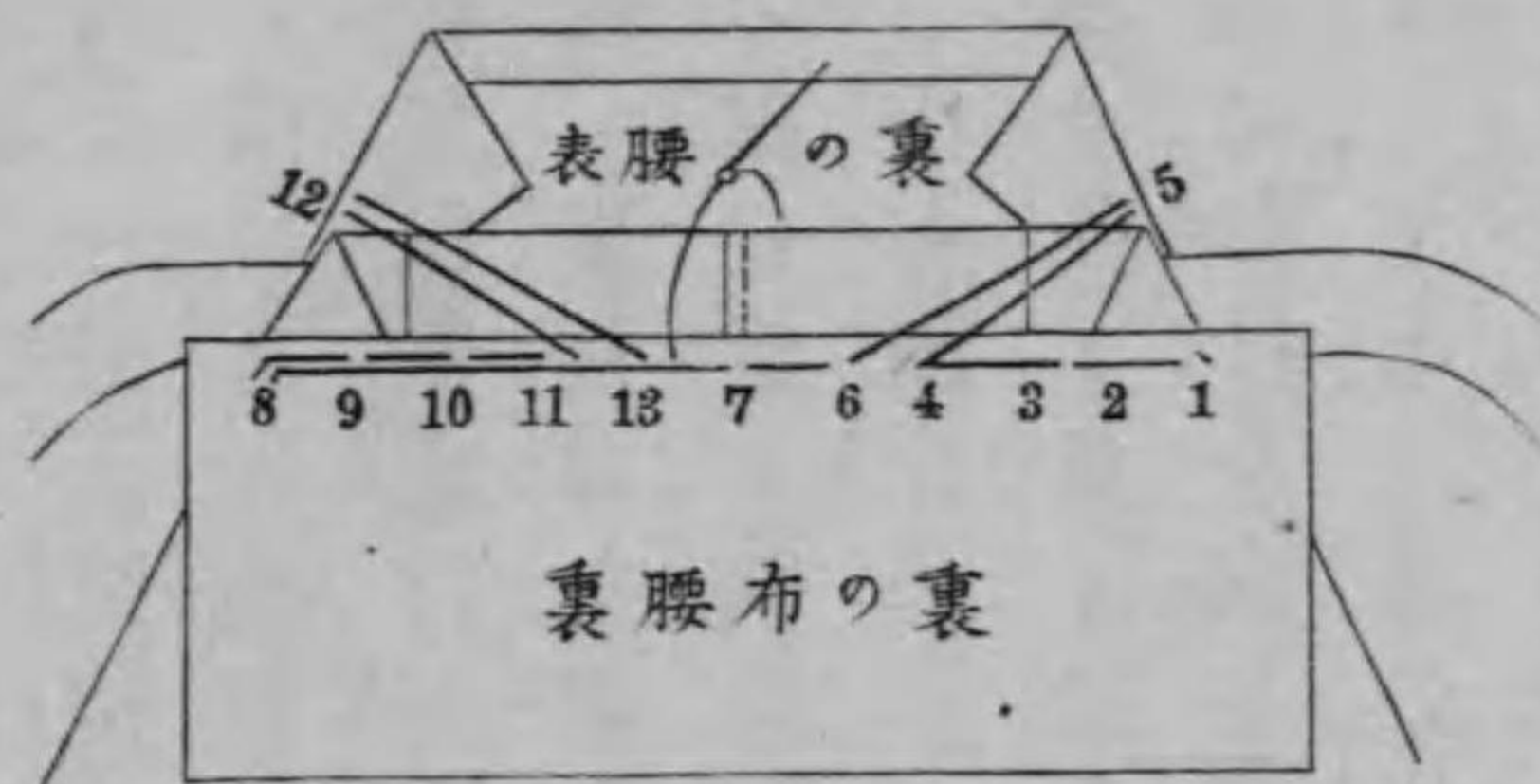
表に小針に出し、夫より左の端より

に出し、12は5と同様の仕方にて附  
 け、13は表に小針に出し、14は紐附の  
 際に裏より斜に針を出し、14は紐及腰  
 板に通して附菱の内側を少しく抄  
 ひ次に第二圖の如く裏腰布の横を  
 表腰に做ひて折り、之を紐附際にて  
 折山を抄ひ腰板を通して斜に内側  
 に抜き出し、15は14と同じ仕方に  
 し、14より15に渡りしは少しく釣  
 加減になす、16は第三圖の如く14と  
 15に渡したる糸に掛け後布の縫込

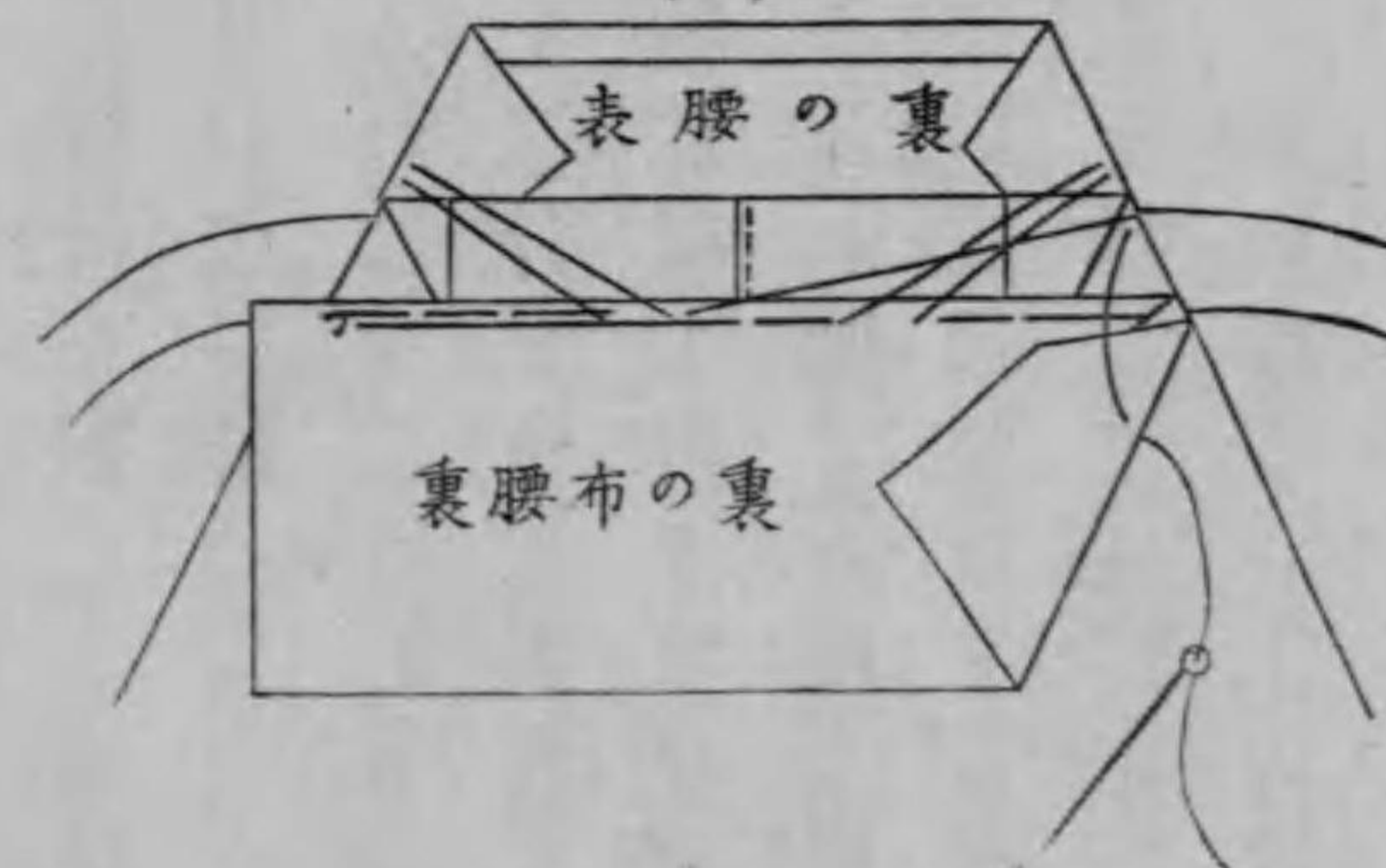
(一八三)

腰板針出しの順方圖

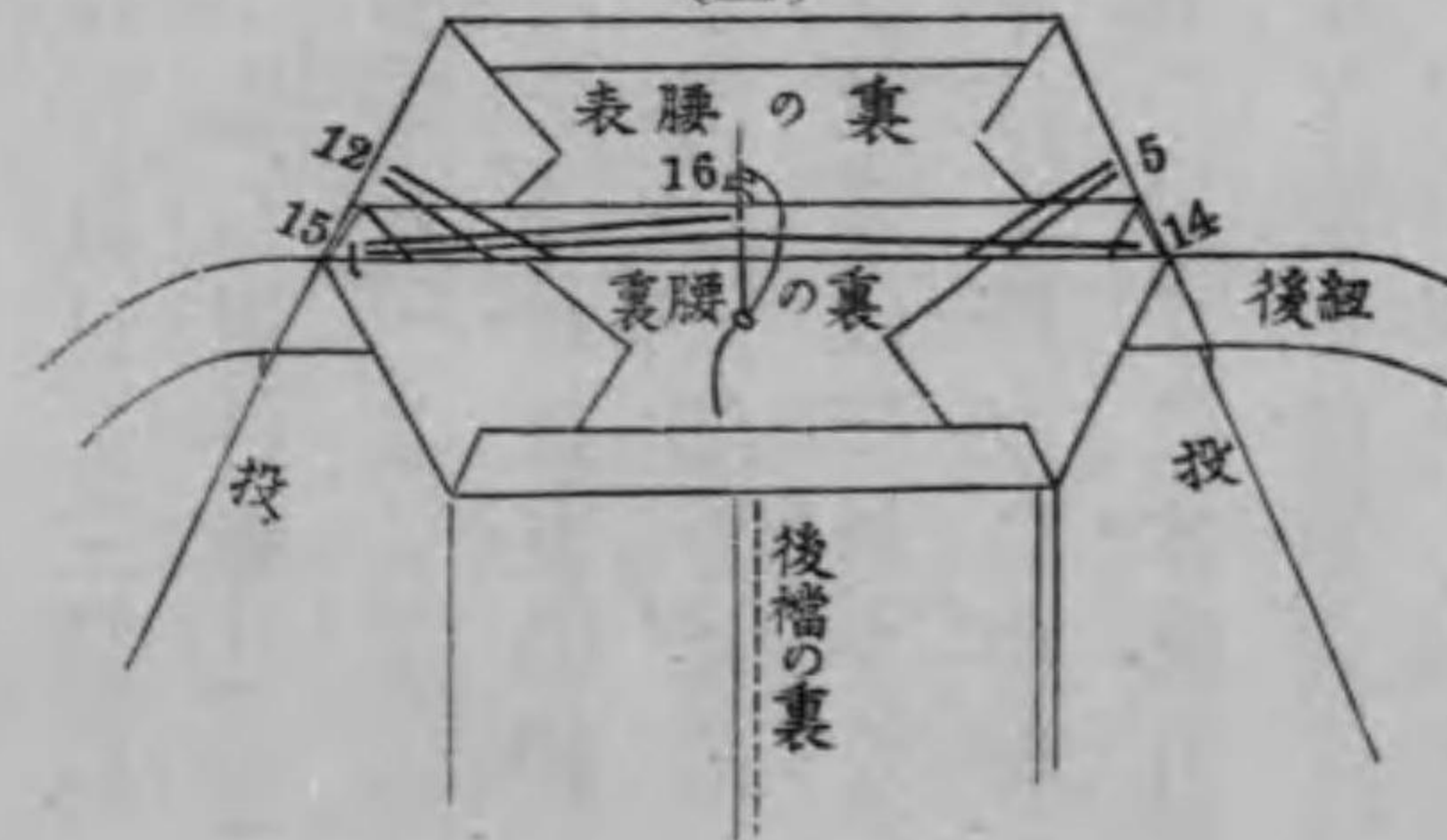
(一)



(二)



(三)



斜に抜き出して、夫より再び斜に腰板裏に針を抜き出し、6、7は

を抄ひて當め、裏腰の兩側及び上部を一分引きて之を折り裏腰の周圍に糊を附け之を表腰に貼り附け、夫より股上を三分の一位置にして乗間の縫込を真綿にて包み、縫目の外に出でざる様まといひ縫にて附け、絹物なれば火熨斗を掛け然る後之を疊み、前後の紐を揃へて左右交互に折り重ね、左右の端及び中央の三ヶ所紙幅左右四分中央六分に紙を巻きて留め置くべし。

第五

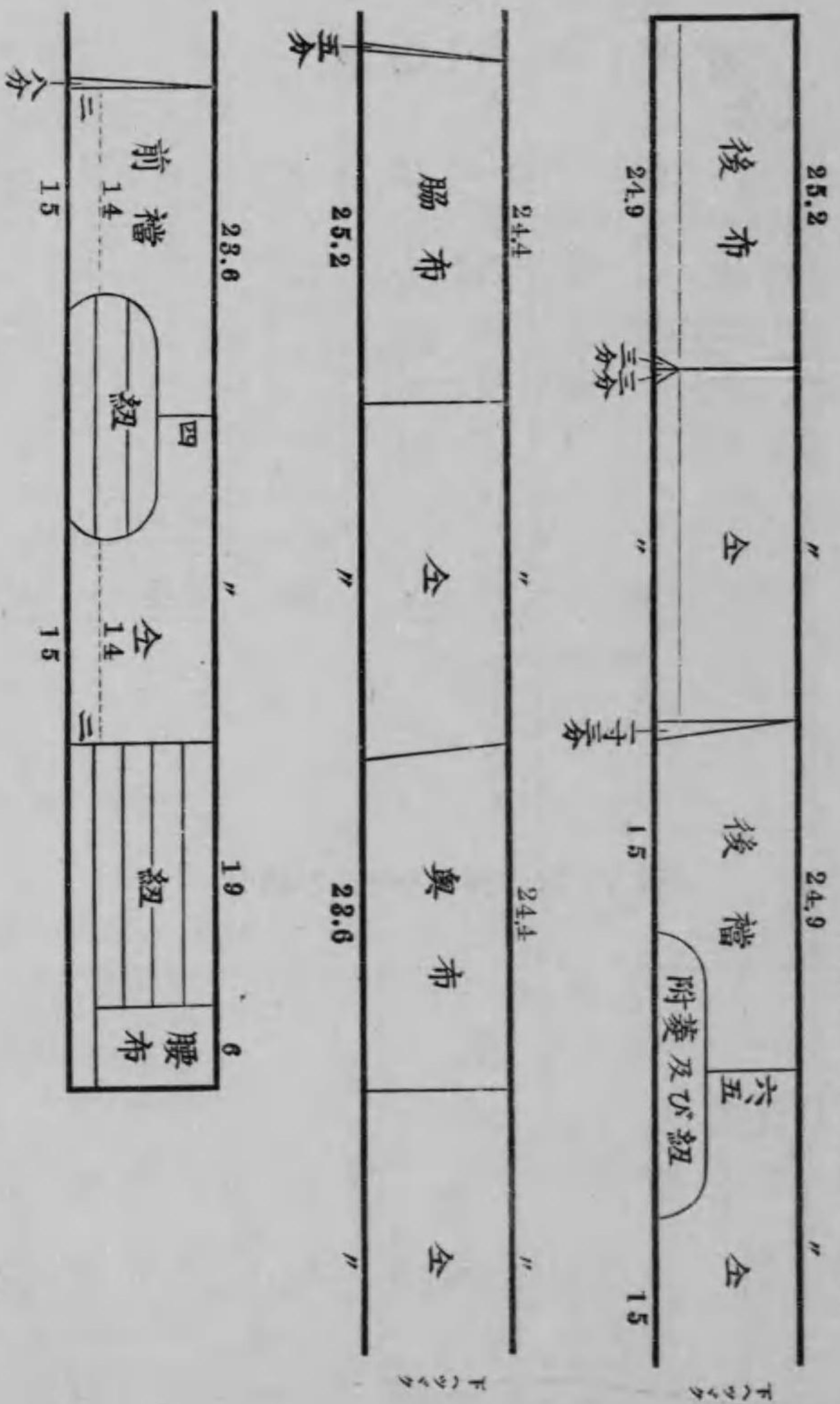
一尺幅二丈七尺の袴地にて十布遣男袴の裁ち方及び積り方

此裁方は用布充分なれば前襠を一幅にて取り其端二寸程を後襠のたしとなすもの故、其考へにて前襠を繰る時寸法に注意して裁つべし。

一尺幅長さ二丈七尺の袴地にて十布遣男袴の裁ち方

1  
25

後紐丈 一尺八九寸  
前紐丈 九尺内外



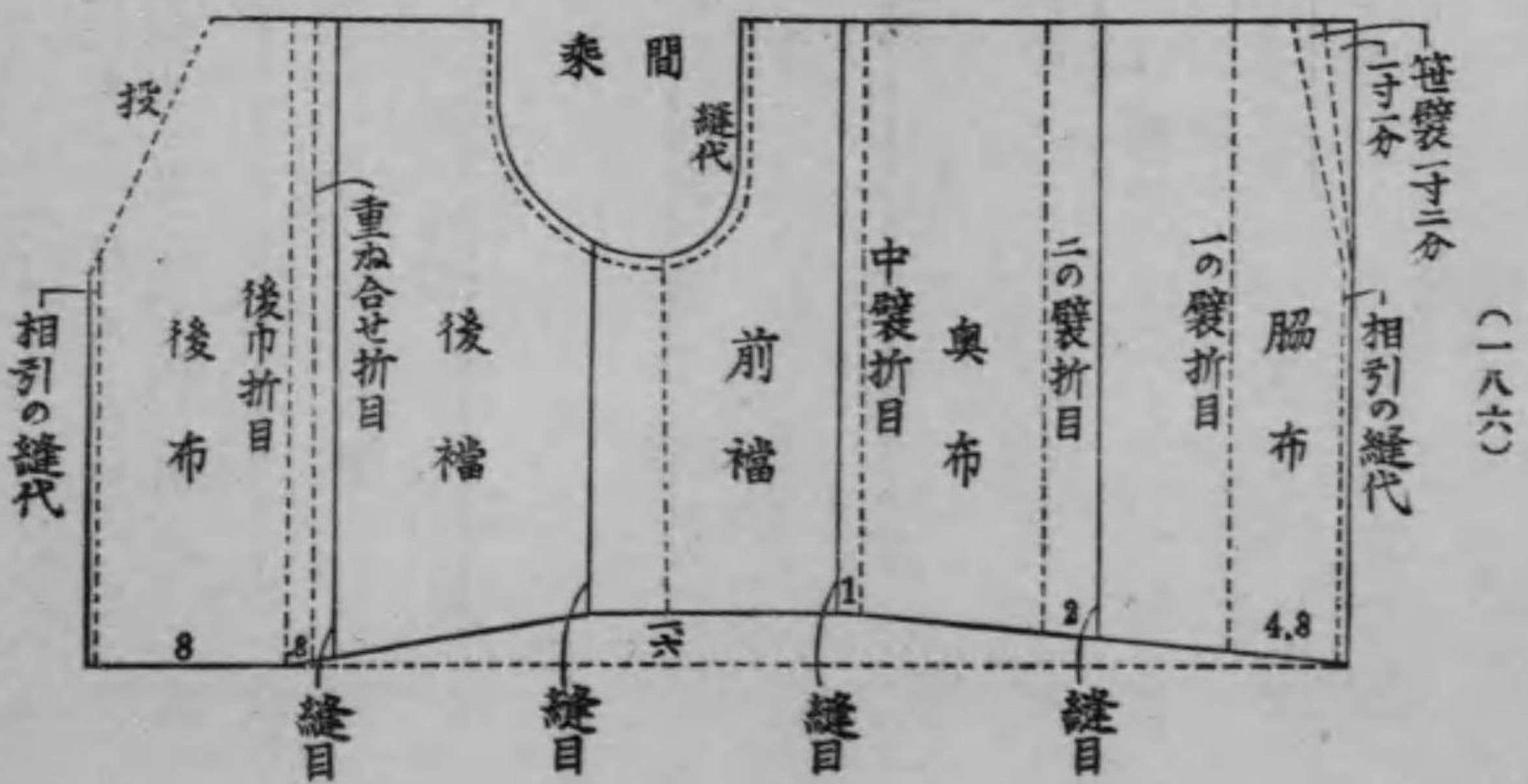
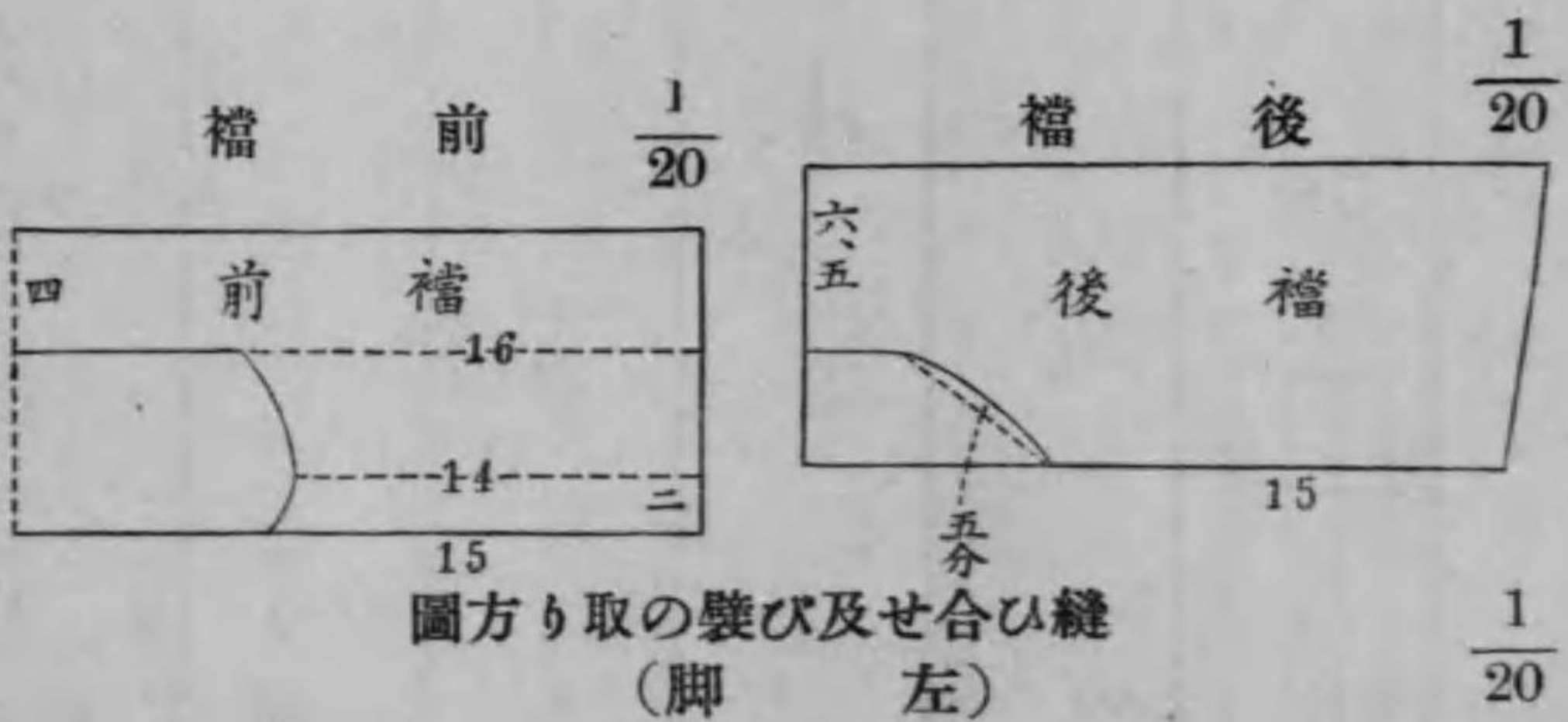
積り方

粗 腰  
 $19 + 6 = 25$   
 $270 - 25 = 245$   
 $245 + 7 = 252$   
 縫線  
 $252 + 10 = 25.2$  後丈

切り離し方箋の附  
 方各布の縫合せ及び  
 襷取り方順序等總て  
 並物に做ふべし。

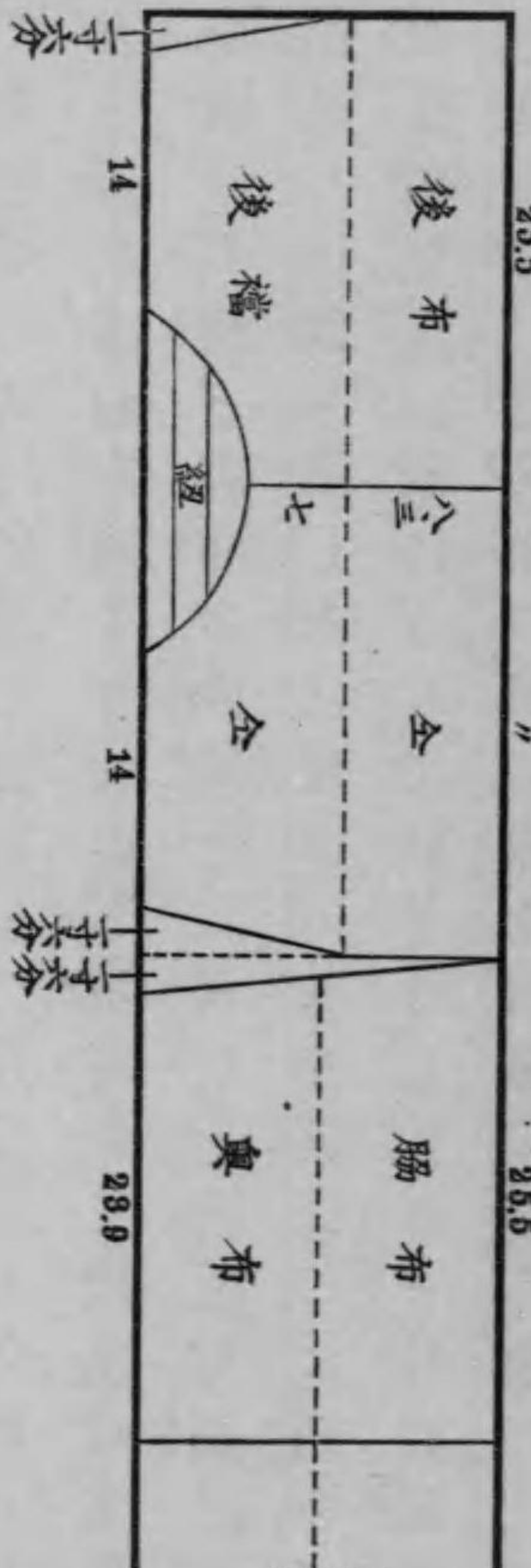
第六

十布遣男袴  
 縫合及び襷  
 の取り方圖



第七

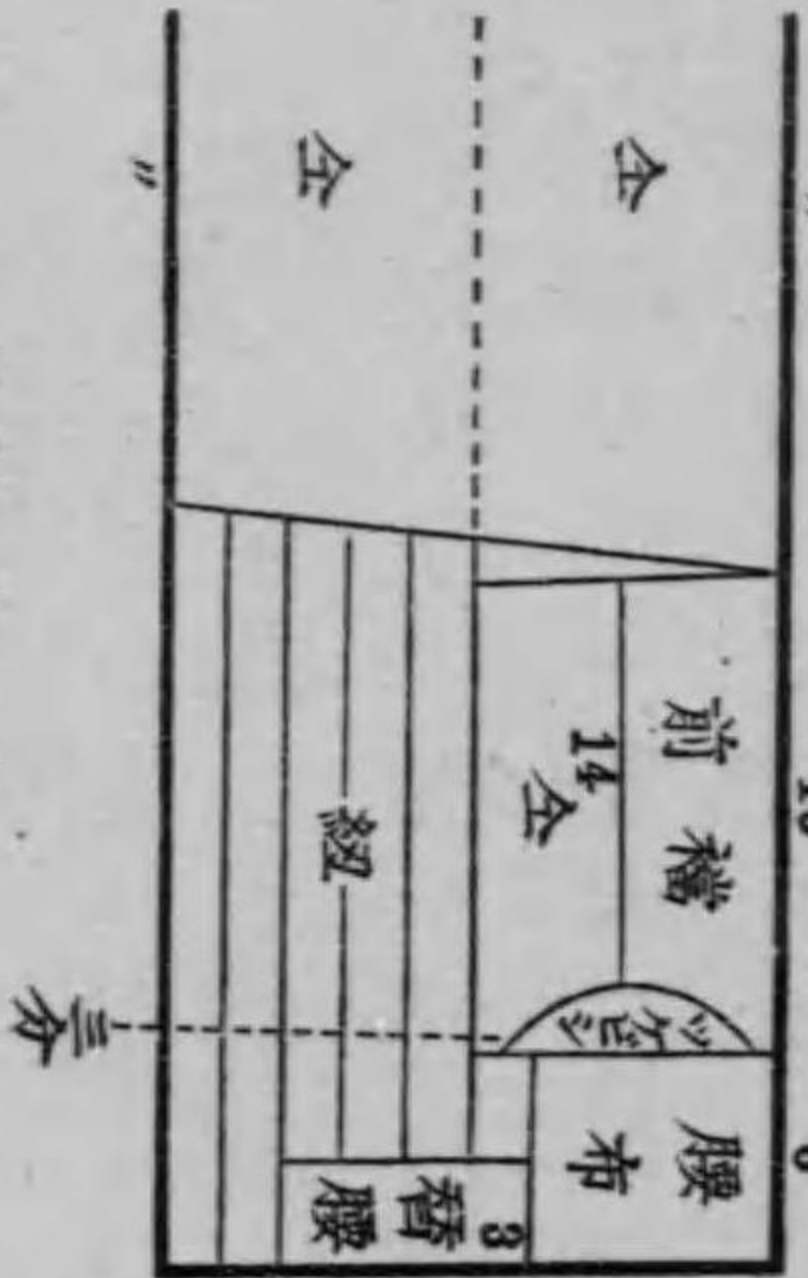
二尺幅長一丈二尺四寸の袴地にて本  
 裁男袴の裁ち方積り方及び切り離し方



後紐丈一尺八寸  
 前紐丈九尺内外

積り方

$16 + 6 = 22$   
 前 腰 布  
 $124 - 22 = 102$   
 $102 \div 4 = 25.5$  後布丈

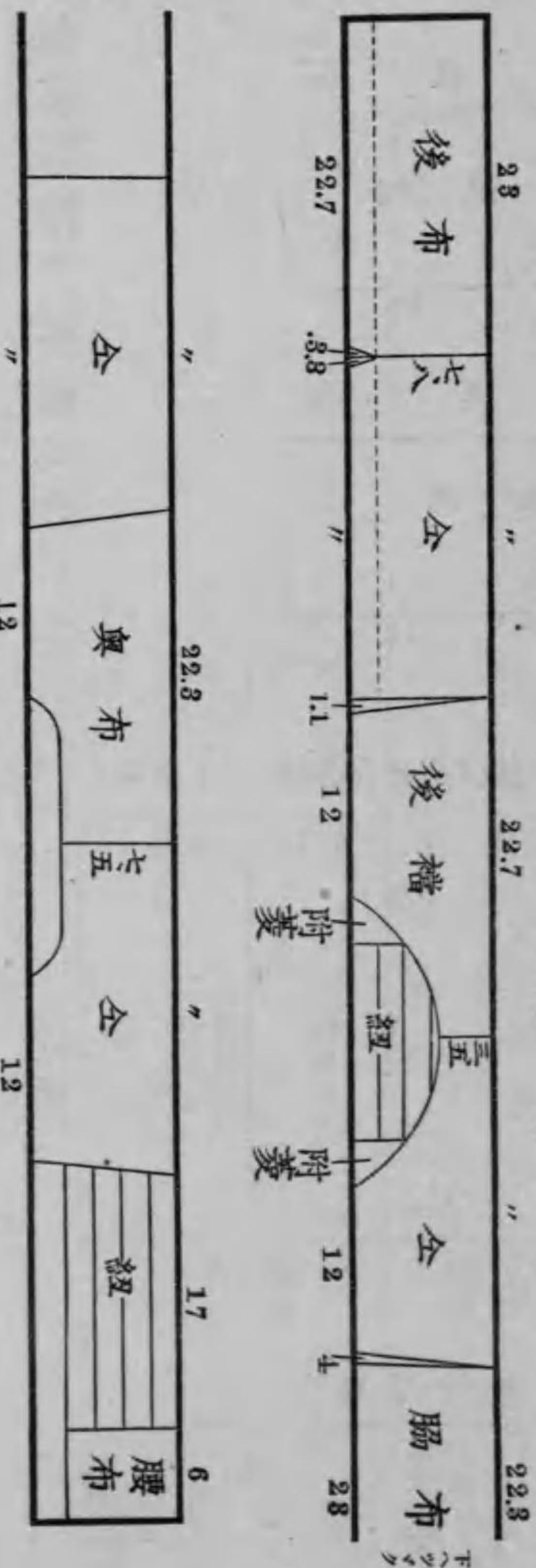


切り離し方

布の表を出して左端より後丈の二尺五寸五分を度りて其處より右の方へ折り重ね向端より八寸三分度りて箆を付け手前の右端より一寸六分の處に箆を付け八寸三分の處より斜に通し箆を付けて裁ち落とし後襟の繰り方は並幅の時と同様になし切り離し次に向端に脇布丈二尺五寸五分度り其處より右の方へ折り重ね左端より輪の方奥布の二尺三寸九分を度りて箆を付け其箆と脇布の向端とに尺度を渡して斜に通し箆を付け箆通りに裁ち落とし次に残りの布を縦二つに折りて切り離し一枚は幅を五つ割になして紐となし他の一枚の端より腰布六寸を切り離し前襟布の斜の處を真直に裁ち縦に二つ折りになし操り方は並幅物と同様になして裁ち落とし之を附菱となすべし。

各布の縫合せ及び襞の取り方(二の襞は一の襞と中襞との中間縫方順序等は凡て並幅物に倣ふべし) 第八 四布遣男袴の裁方(十八九才用)

1 四布遣男袴の裁ち方 紐下二尺上りと假定す 前後紐丈 八尺 以七寸上



積り方

紐下  
20+3=23  
23×8=184

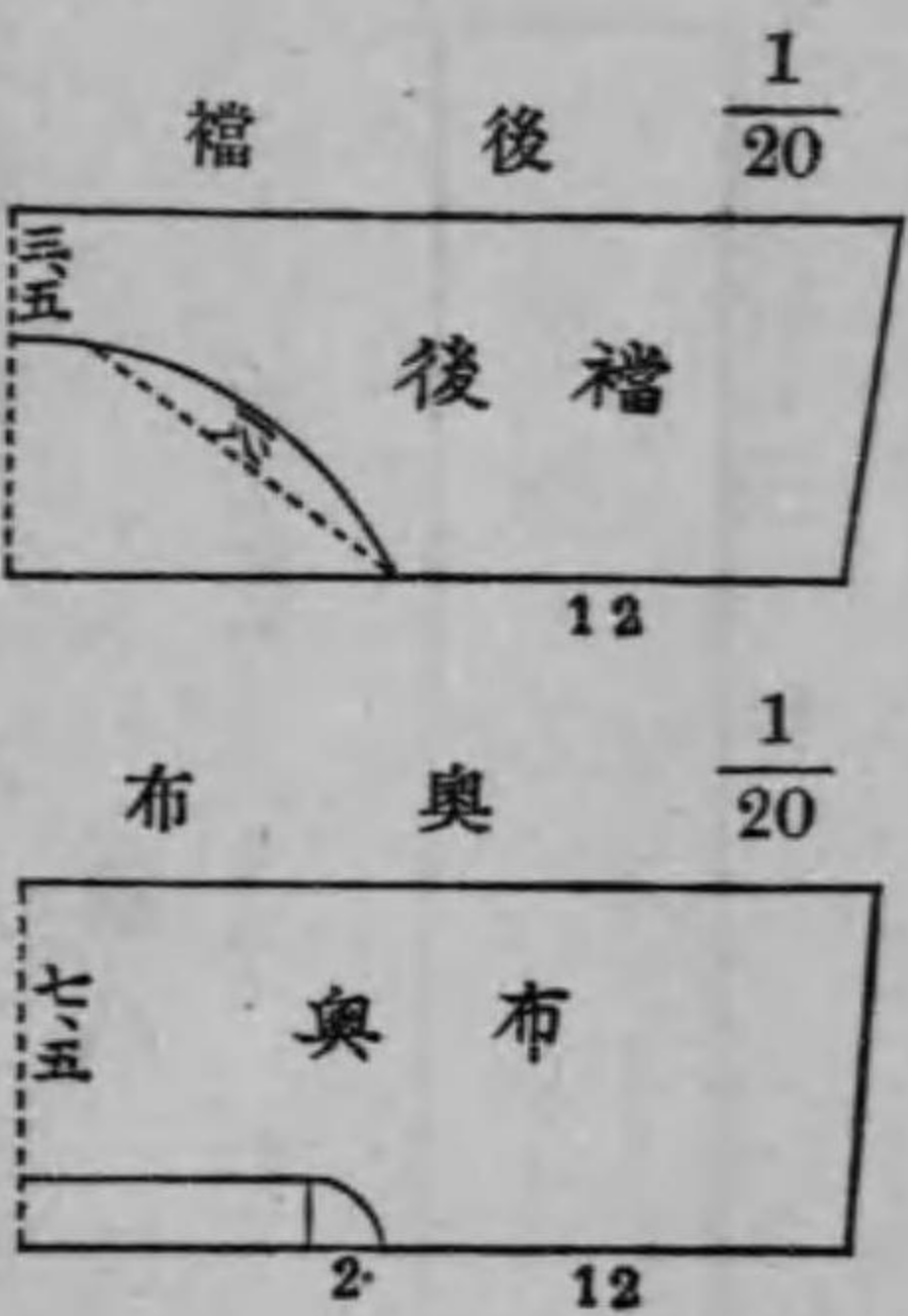
184+17+6-3.4=203.6  
紐腰切  
裁縫違ひ

切り離し方箋の附方各布

の縫合せ及び襷取方縫方

順序等總て本裁に倣ふべ

し。

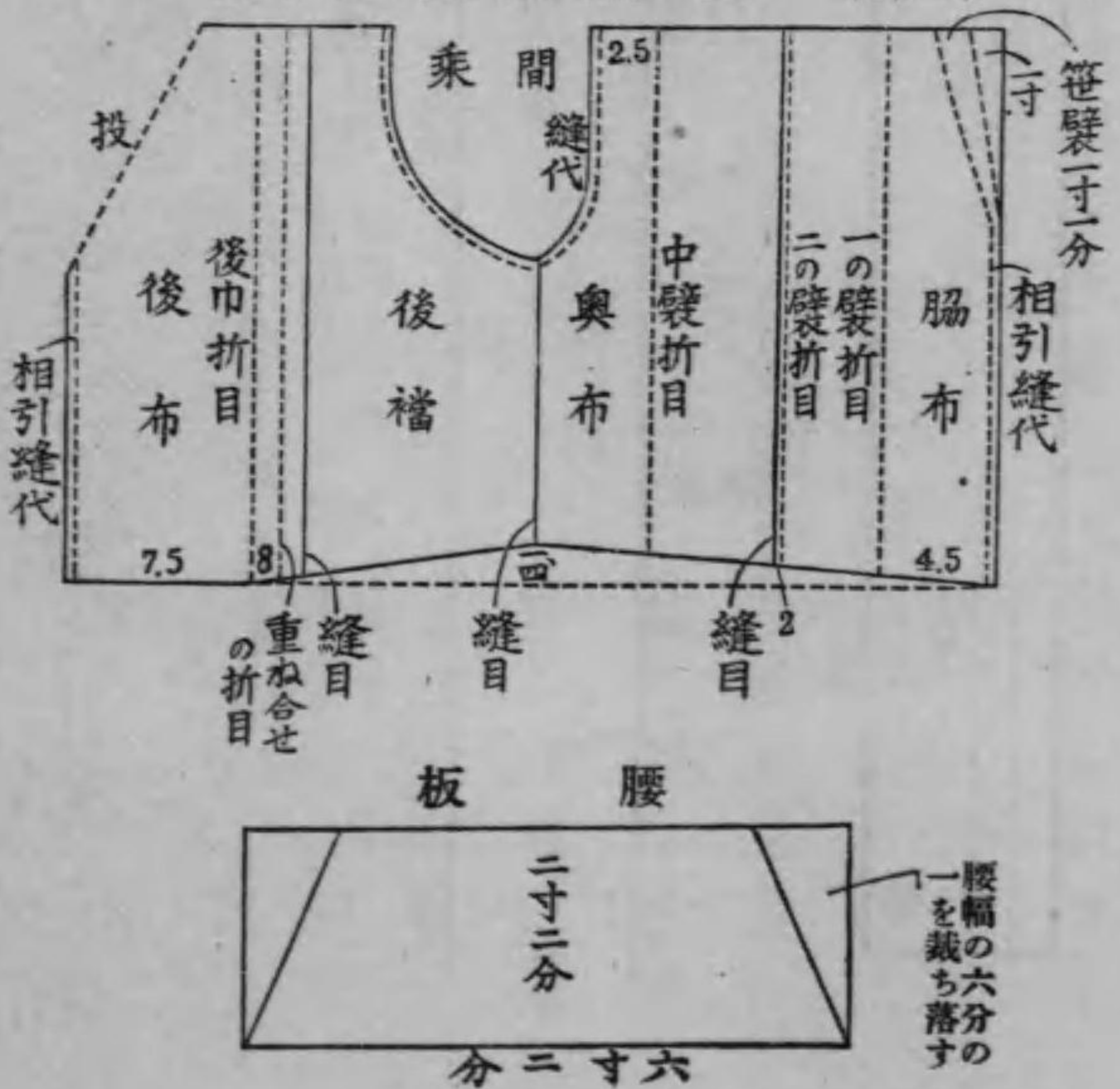


第九

四布遣男袴の縫合せ及び襷の取り方圖

(一九〇)

方り取の襷び及合せ縫 (脚左)



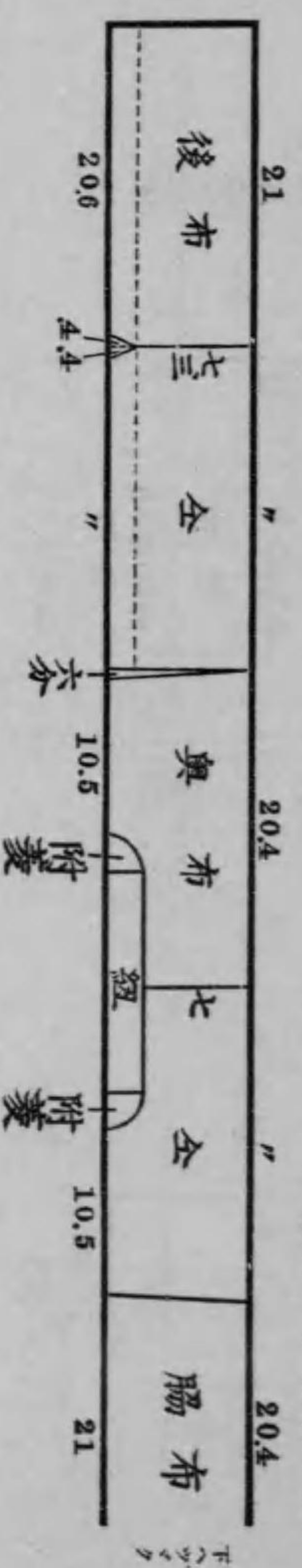
第二節 中裁及び小裁

第一 十三四才用男袴の裁ち方積り方及び縫合せ襷取の圖

紐下一尺八寸上りと假定す

後紐丈 一尺六七寸

前紐丈 七尺五寸以上



積り方

紐下 18+3=21後丈

21×8=168

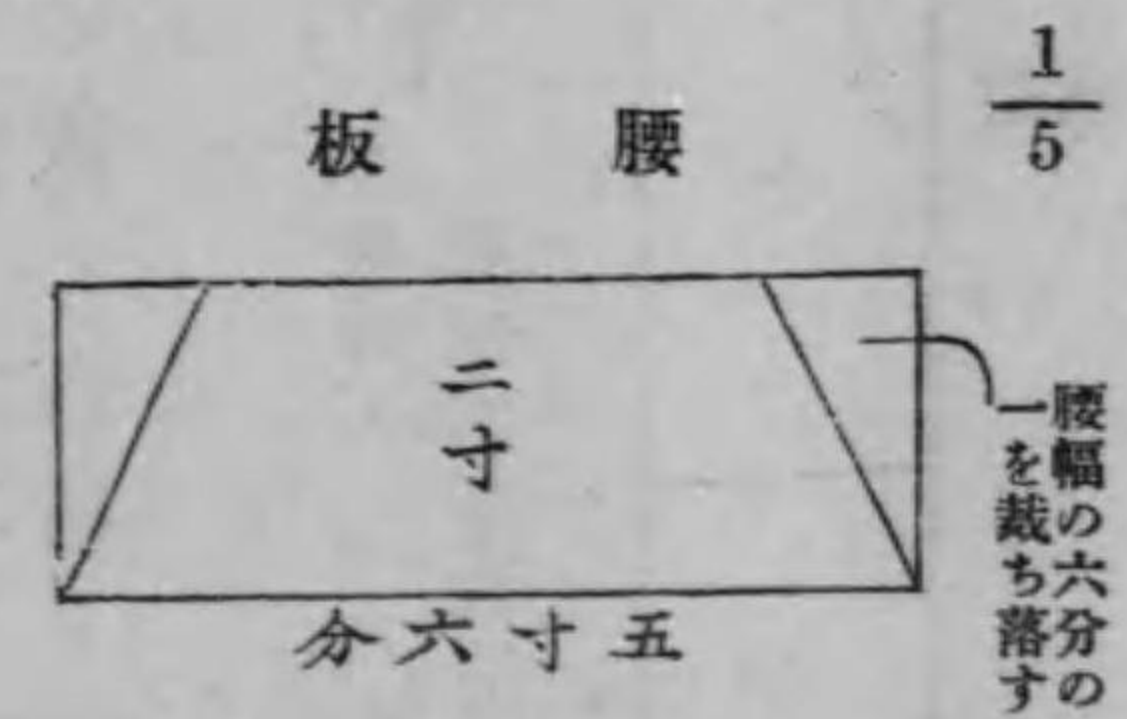
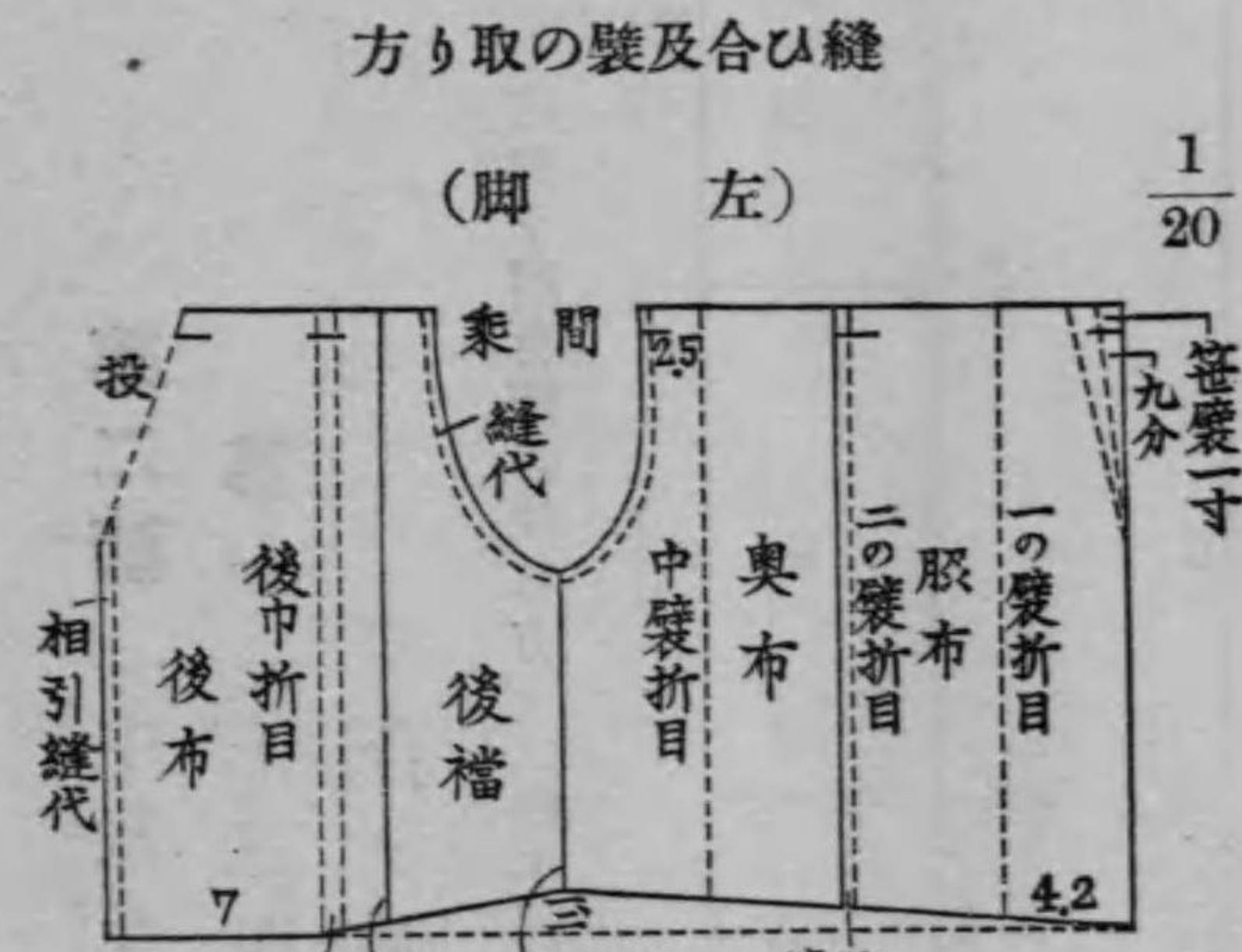
168+5.8-3.2=170.6

腰切 用布

(一九一)

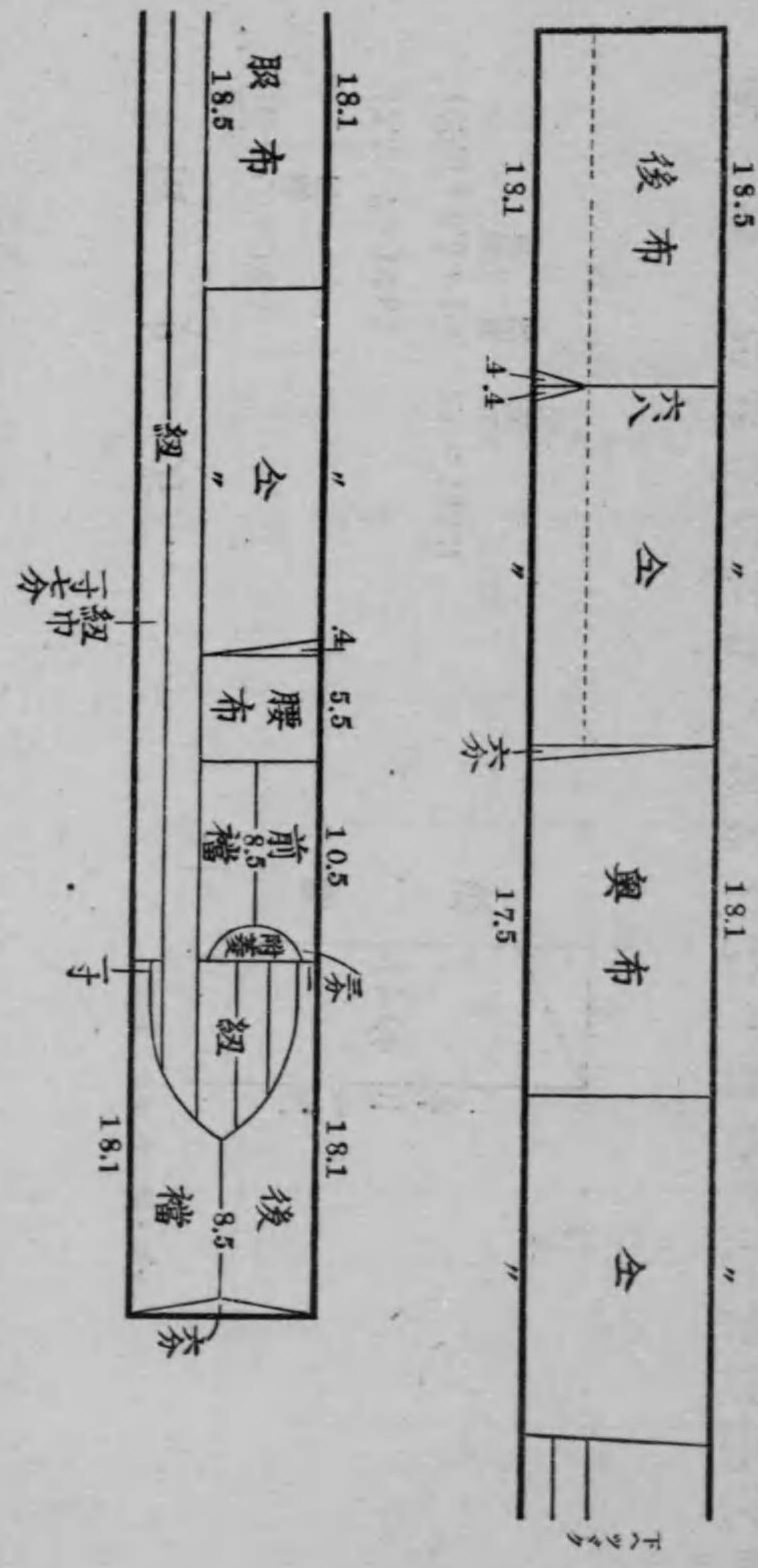


切り離し方箋の附方各布の縫合せ及び襷取り方縫方順序等  
總て本裁ちに倣ふべし。  
縫合せ及び襷の取り方圖



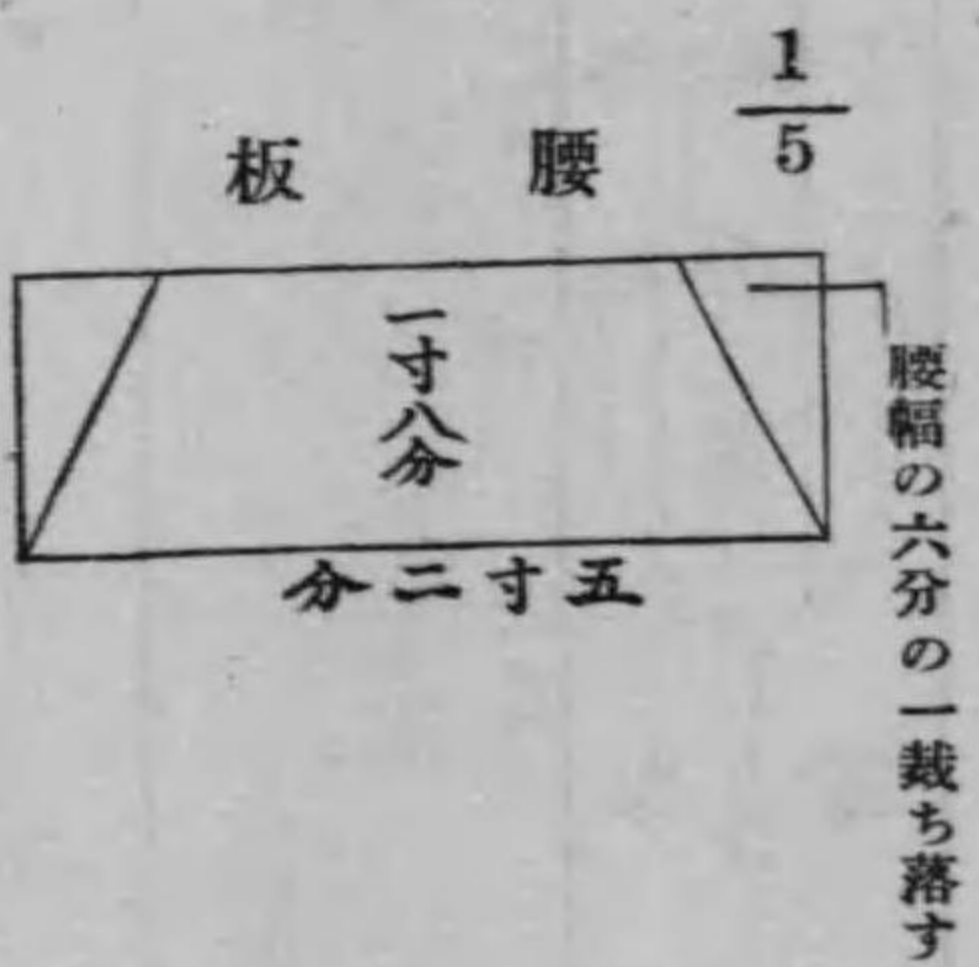
### 第二 十才用男兒袴の裁方積り方及び縫合せ 襷取りの圖

十才用男兒袴の裁ち方 紐下一尺六寸上りと假定す  
後紐丈 一尺六寸  
前紐丈 七尺位



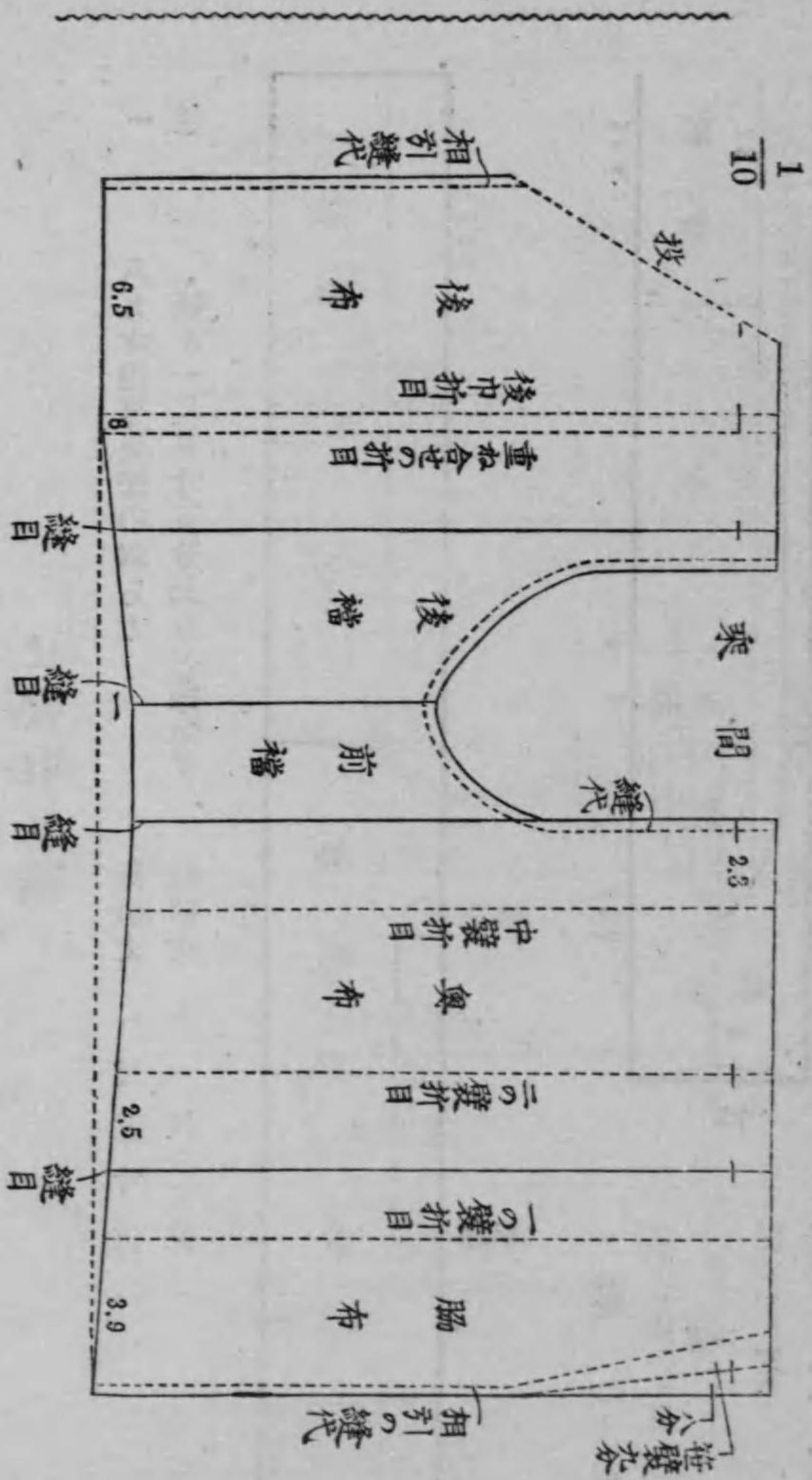
積り方

粗下  
 $16 + 2.5 = 18.5$   
 縫代  
 $13.5 \times 7 = 129.5$   
 $129.5 + 5.5 + 105 - 1.6 = 143.9$   
 縫代  
 腰切  
 前襟  
 縫込み



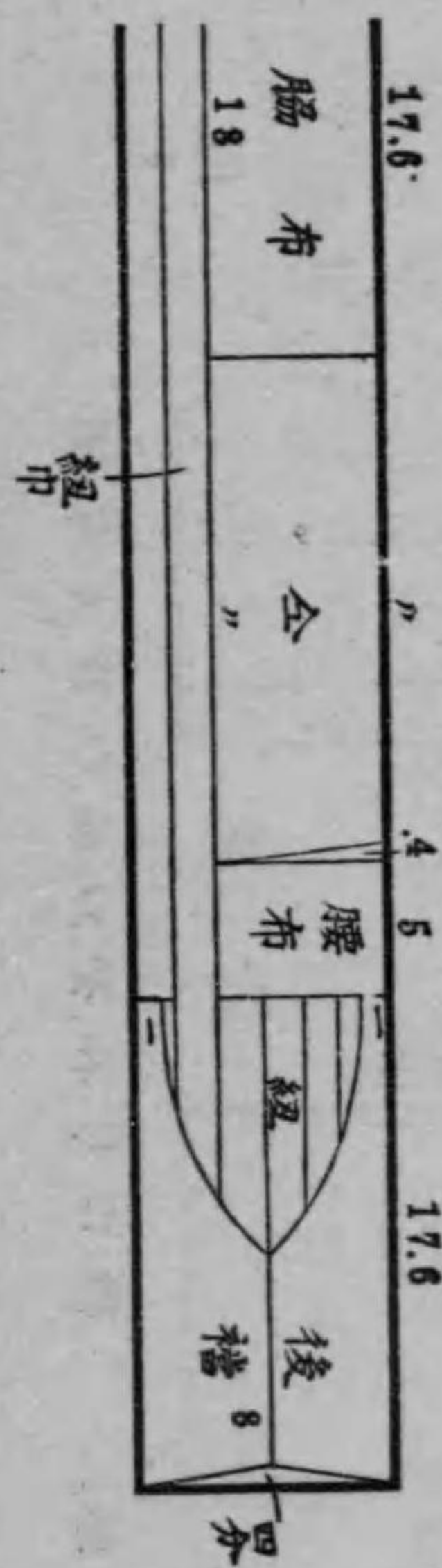
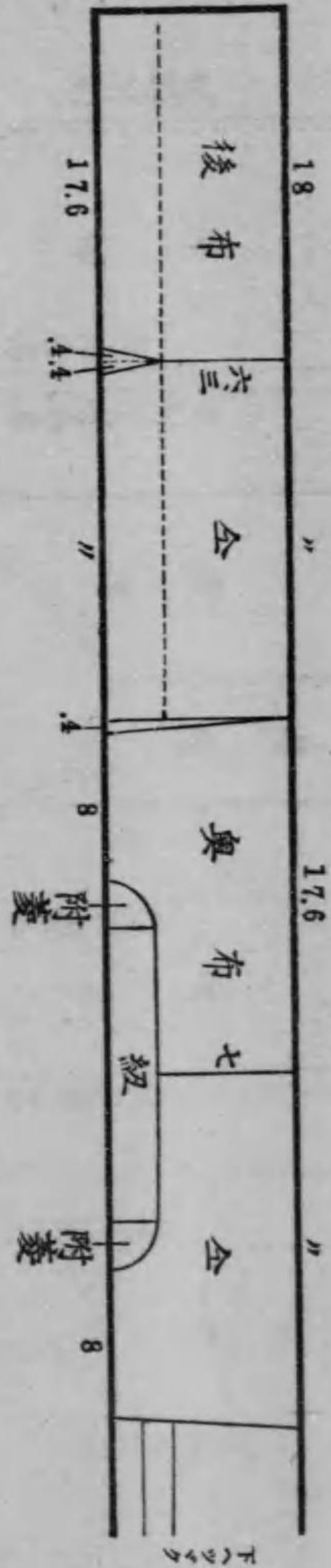
切り離し方 附方各布の縫合せ及び襷取り方 縫方順序等 總て本裁ちに倣ふべし。

圖方り取の製び及せ合ひ縫 (脚左)



### 第三 八九才用男兒袴の裁方積り方及び縫合せ襲取り圖

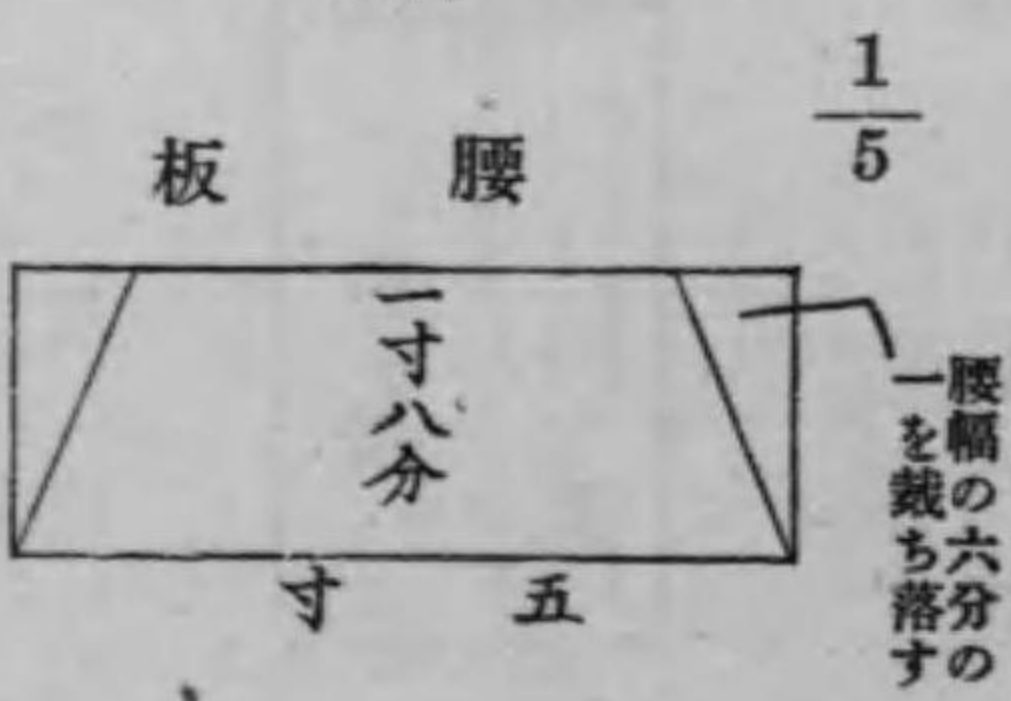
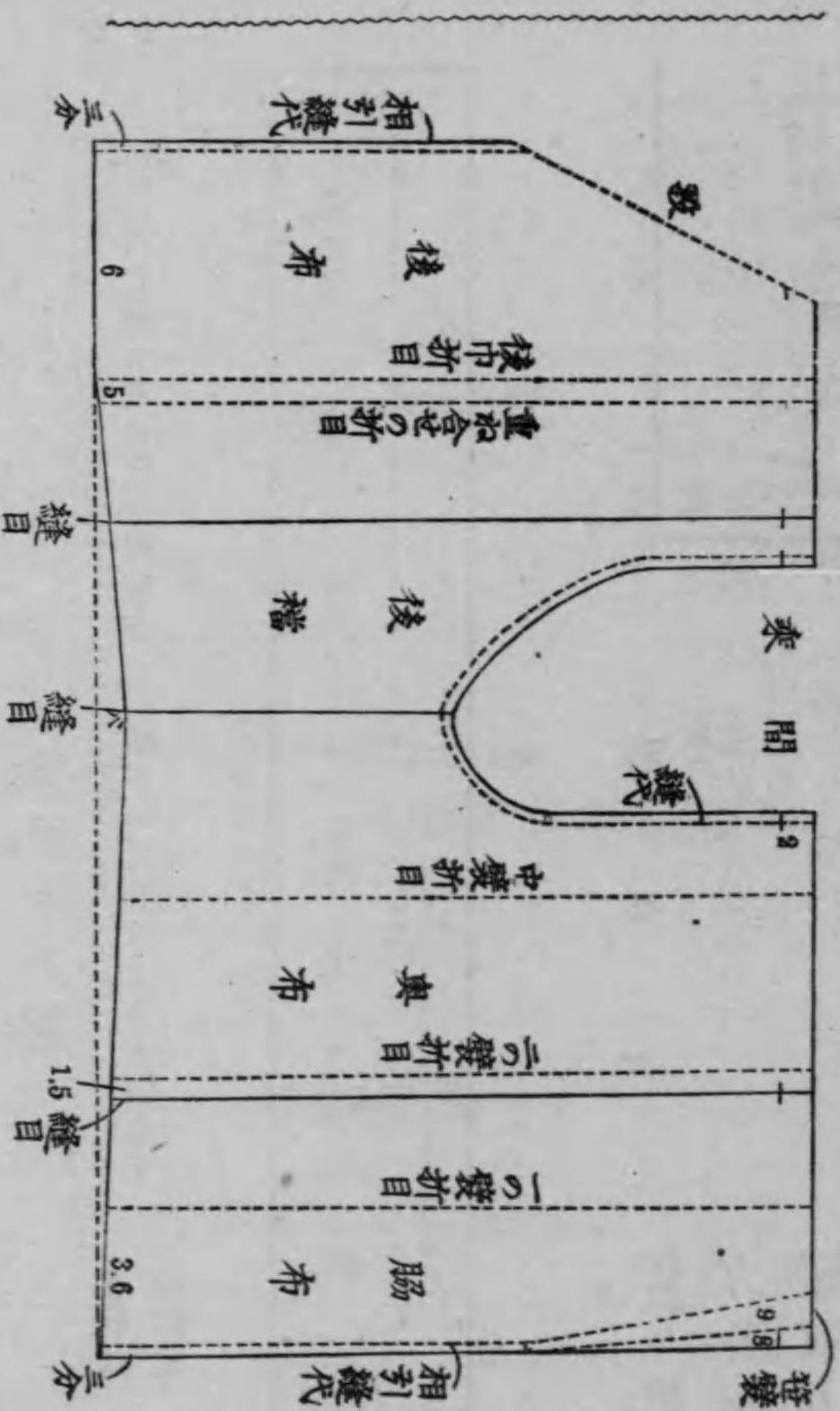
八九才用男兒袴の裁ち方  
 紐下一尺五寸五分上りと假定す  
 後紐丈 一尺五寸位  
 前紐丈 七尺位



#### 積り方

腰代  $15.5 + 2.5 = 18$   
 脇布  $18 \times 7 = 126$   
 前布  $126 + 5 - 1.6 = 129.4$   
 腰切

1/10 方り取の襲び及せ合ひ縫 (脚左)



第四 六七歳用男児袴の裁方積り方及び縫合

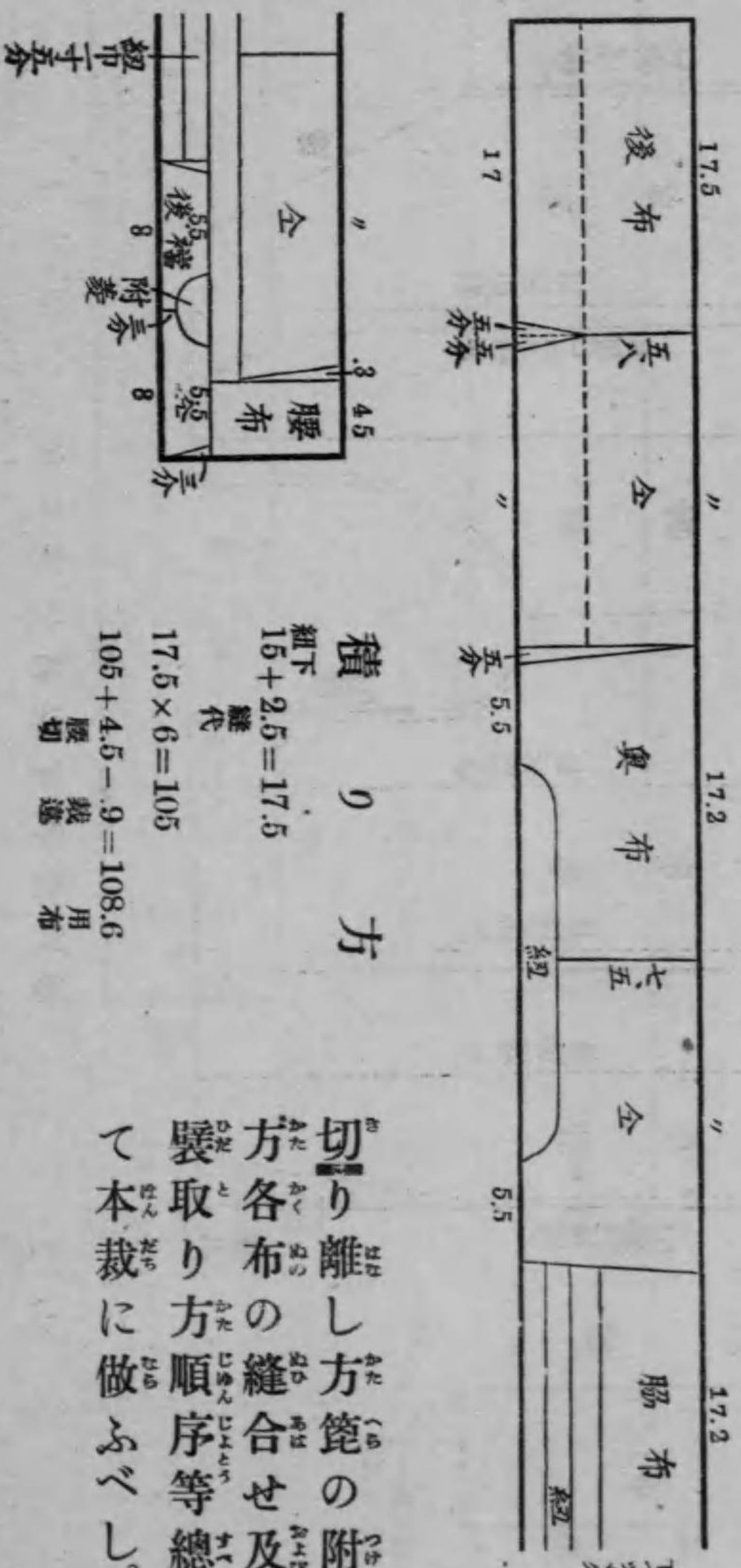
(一九八)

せ襲取りの圖

1/20 六七歳用男児袴の裁ち方

紐下一尺五寸上りと假定す

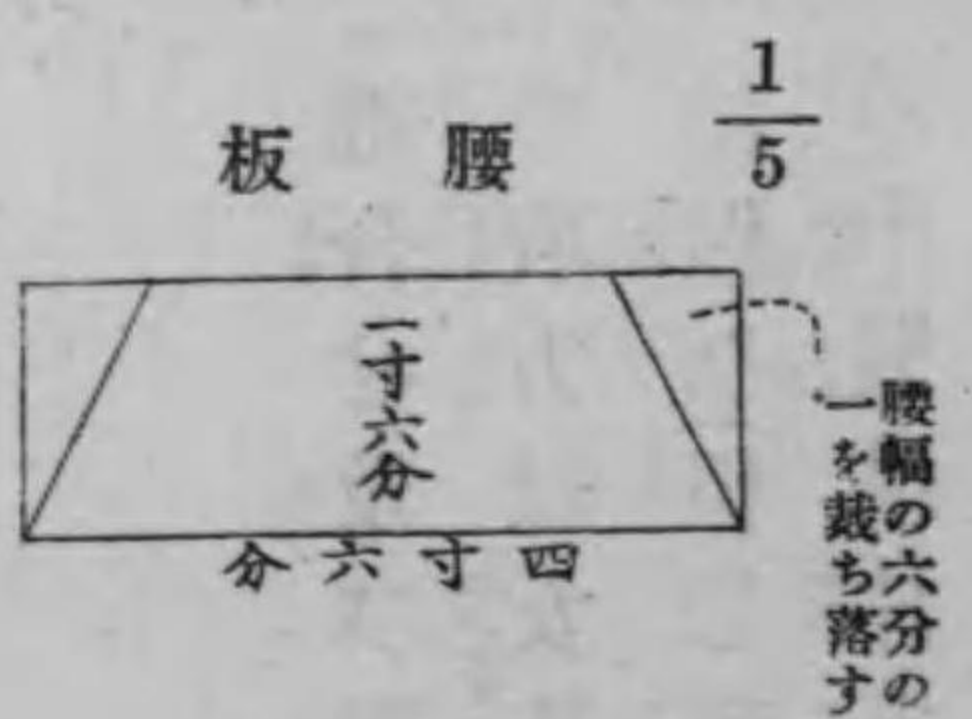
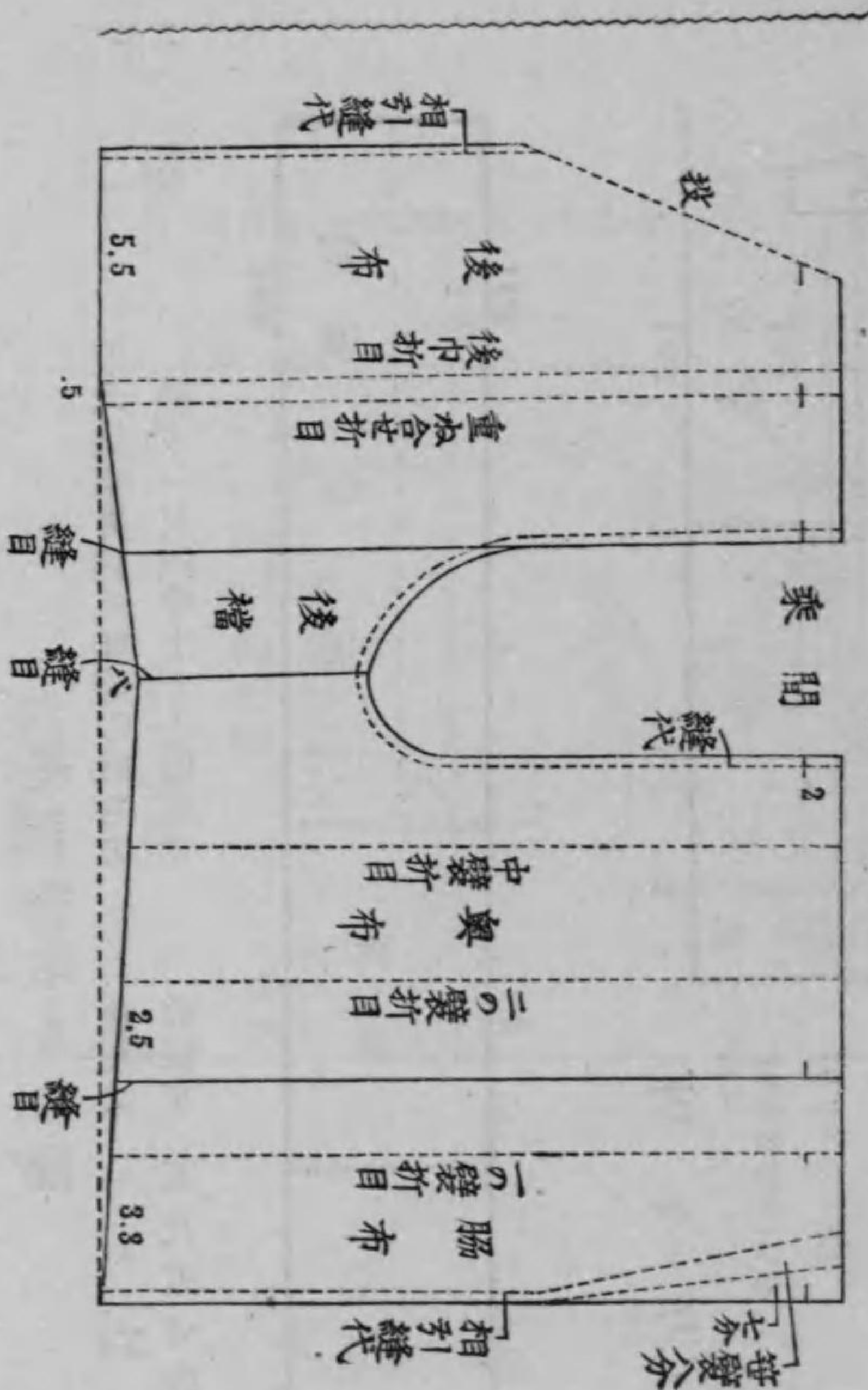
後紐丈 一尺四寸五分  
前紐丈 六尺位



積り方  
紐下 15 + 2.5 = 17.5  
縫代 17.5 × 6 = 105  
105 + 4.5 - .9 = 108.6  
用布 腰切

切離し方の附  
方各布の縫合せ及  
襲取りの順序等總  
て本裁に依るべし。

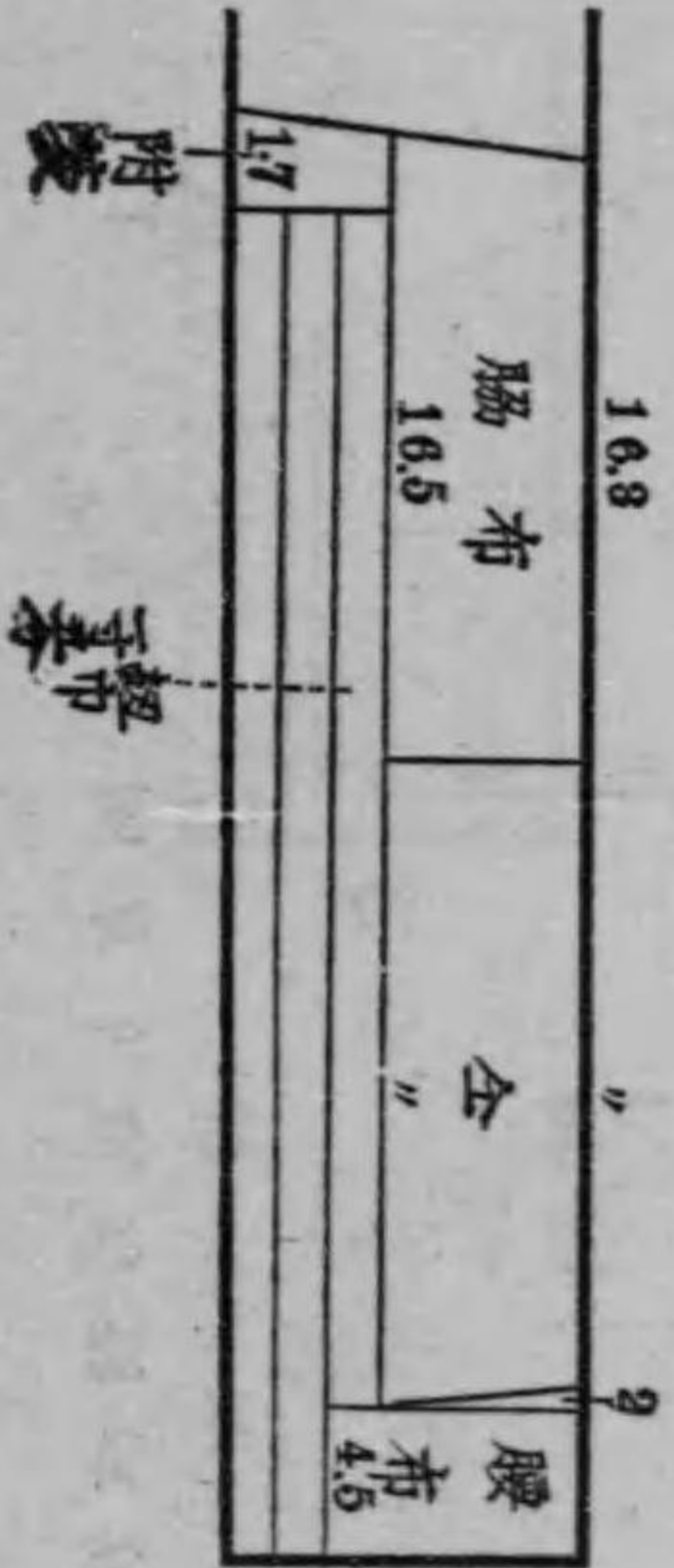
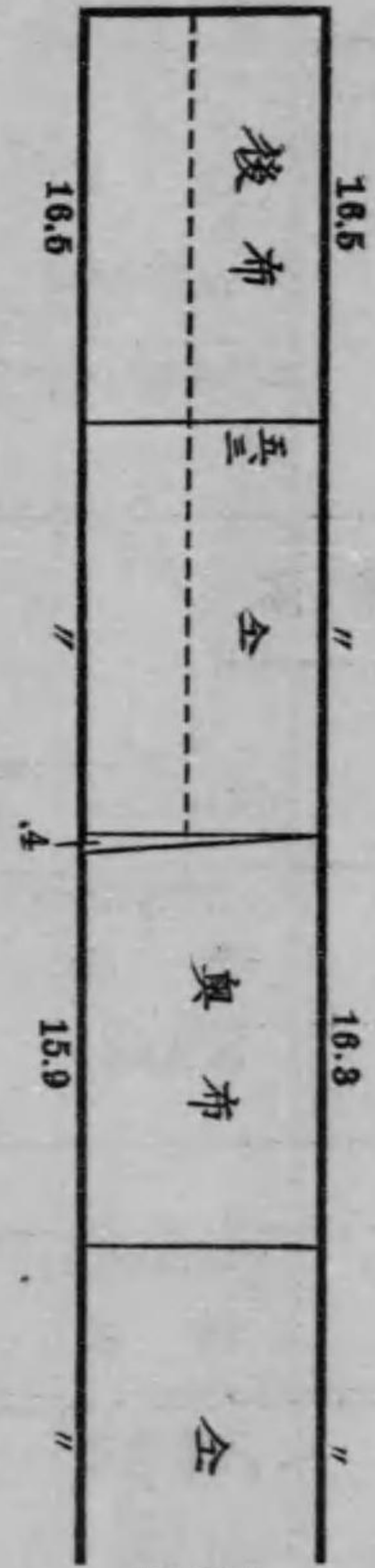
1/10 圖方り取の襲び及合せ縫合 (脚左)



第五

五六歳用男児褌無袴の裁方積り方及び縫合襷取りの圖

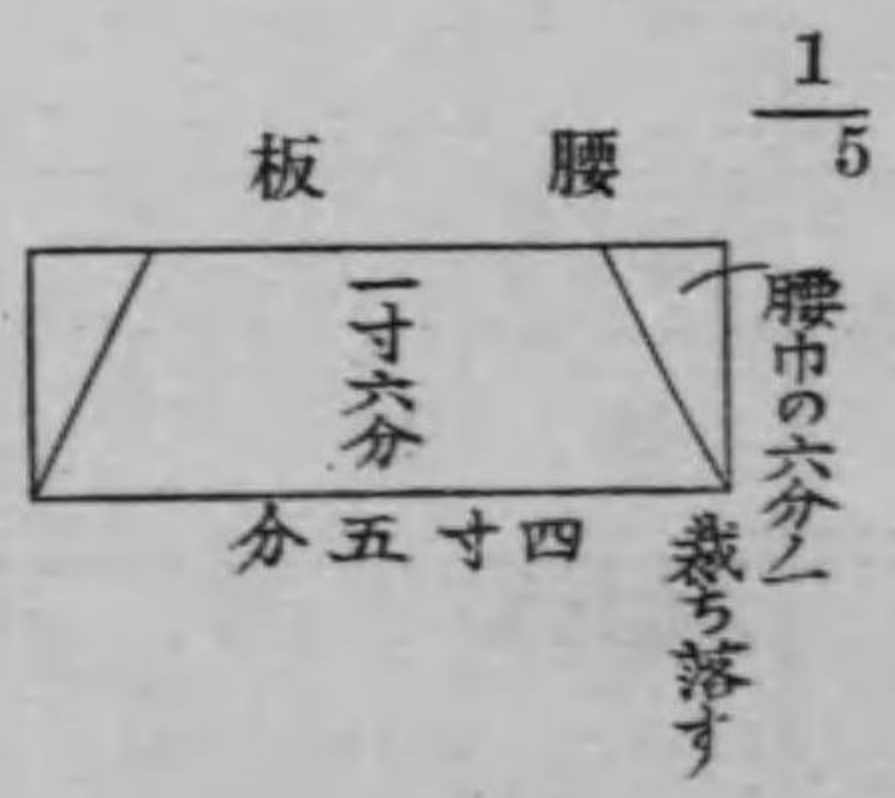
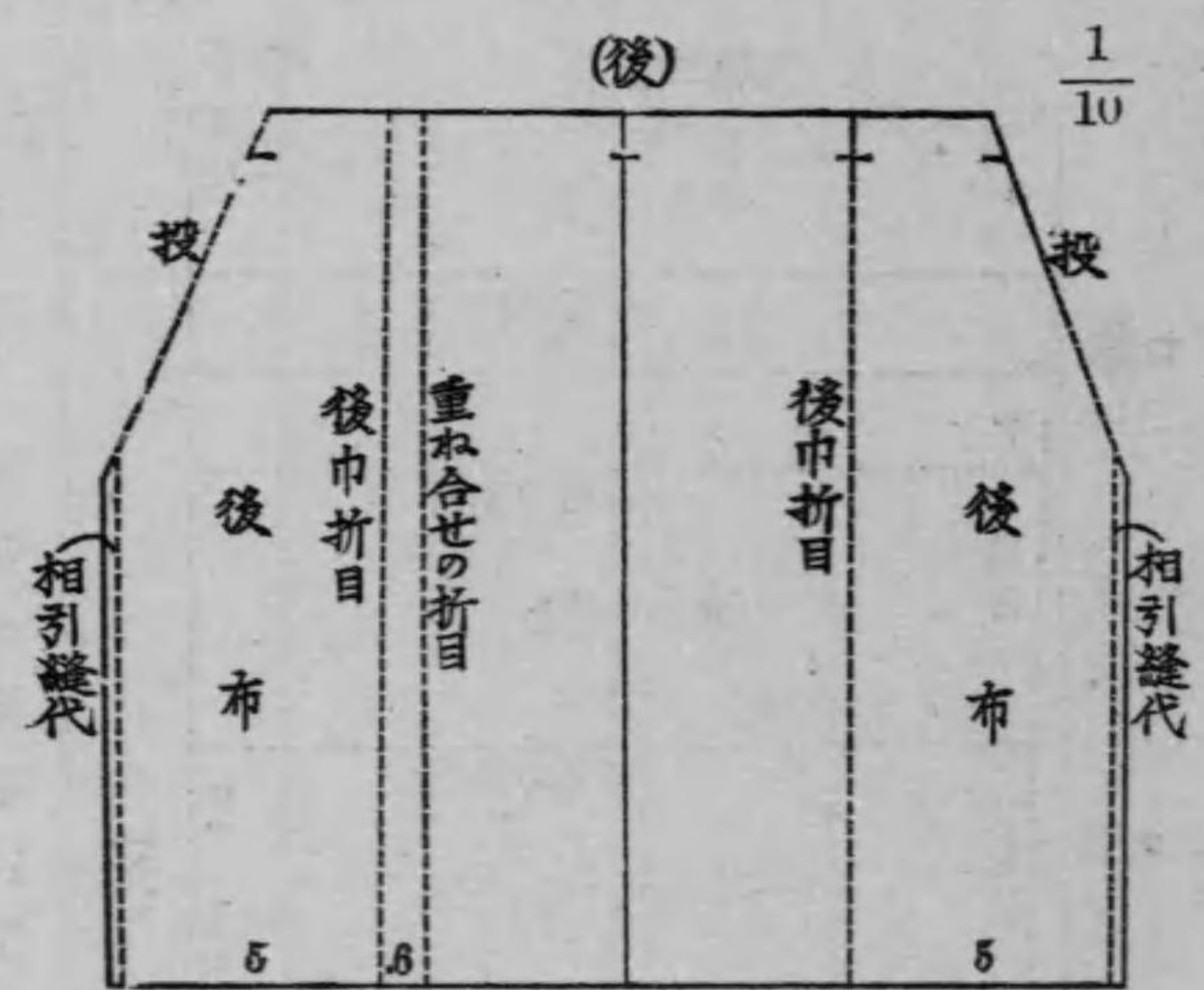
五六歳用男児褌無袴の裁ち方  
紐下一尺四寸上りと假定す  
後紐丈一尺四寸  
前紐丈五尺五寸内外



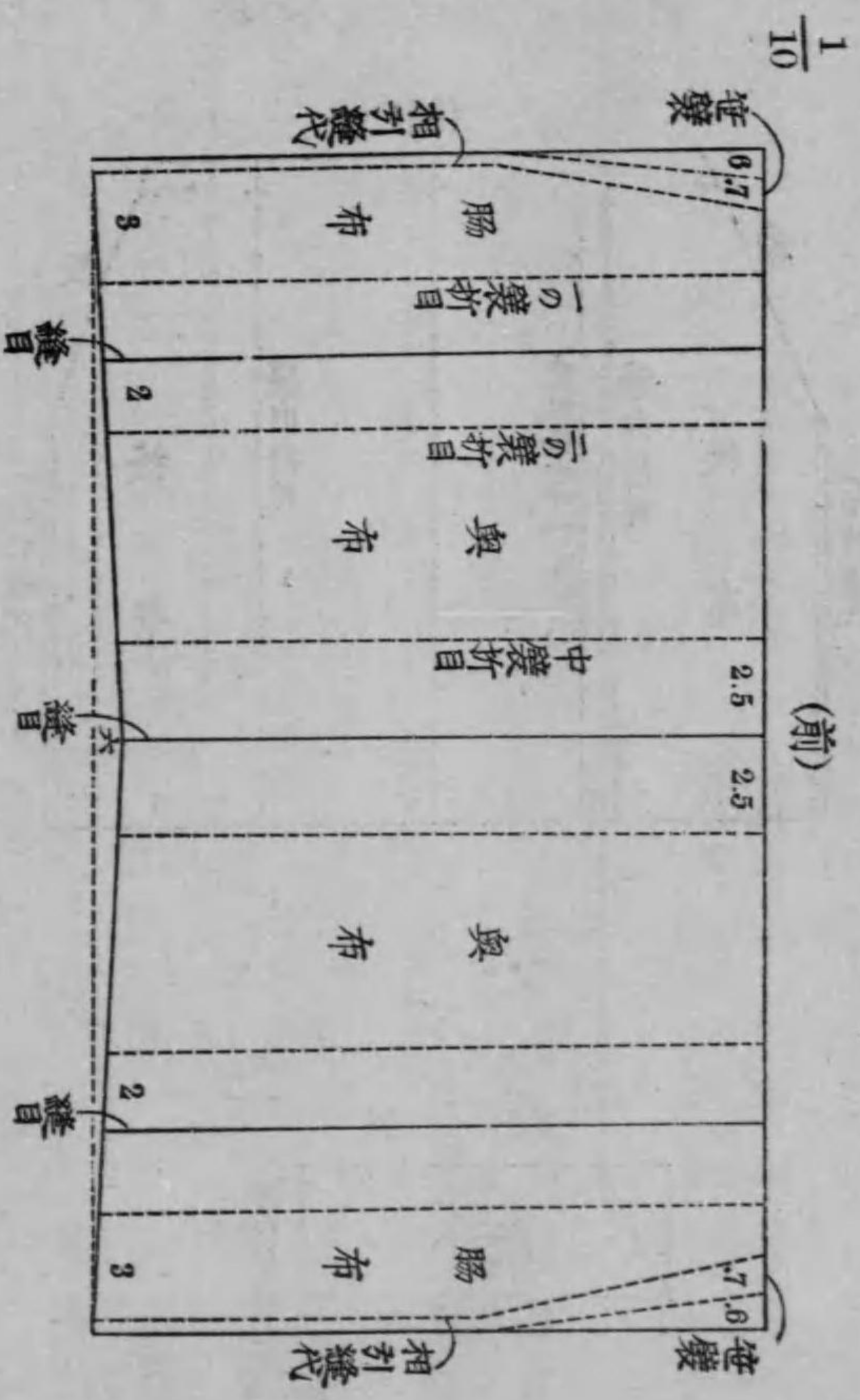
積り方  
紐下  
 $14 + 2.5 = 16.5$   
 $16.5 \times 6 = 99$   
 $99 + 4.5 - .6 = 102.9$   
用布

縫合せ及び襷取りの取方は女袴の取方は但し前に做ひ(但し前の中襷は片返し)其他は總て男本裁袴に做す。

縫合ひ合せ及び取の方り圖



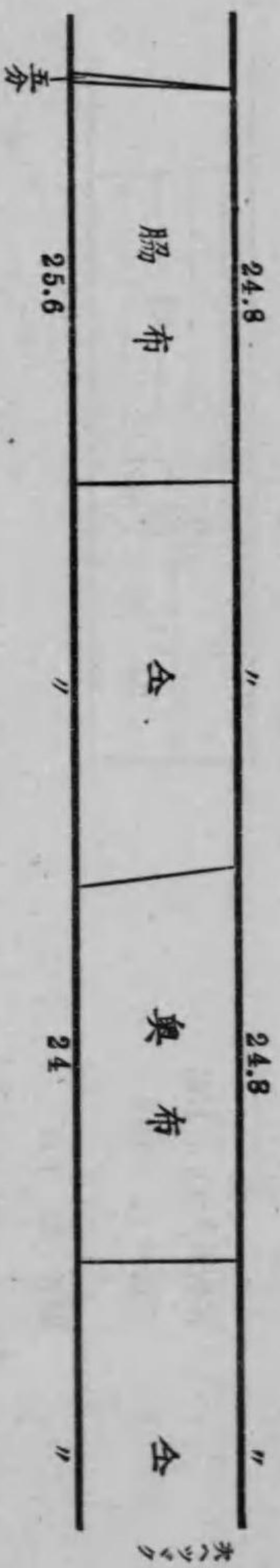
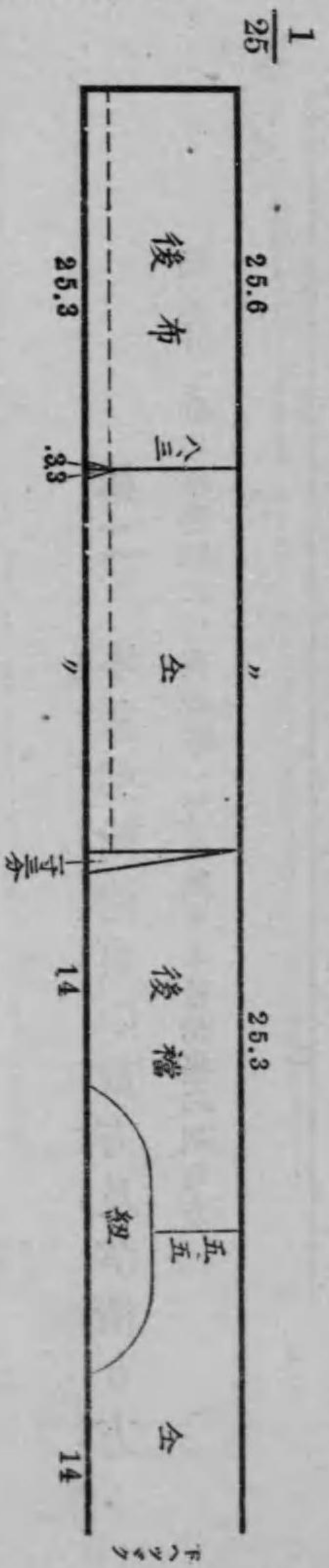
圖方り取の並び及せ合ひ縫



第三節 本裁男袴袴

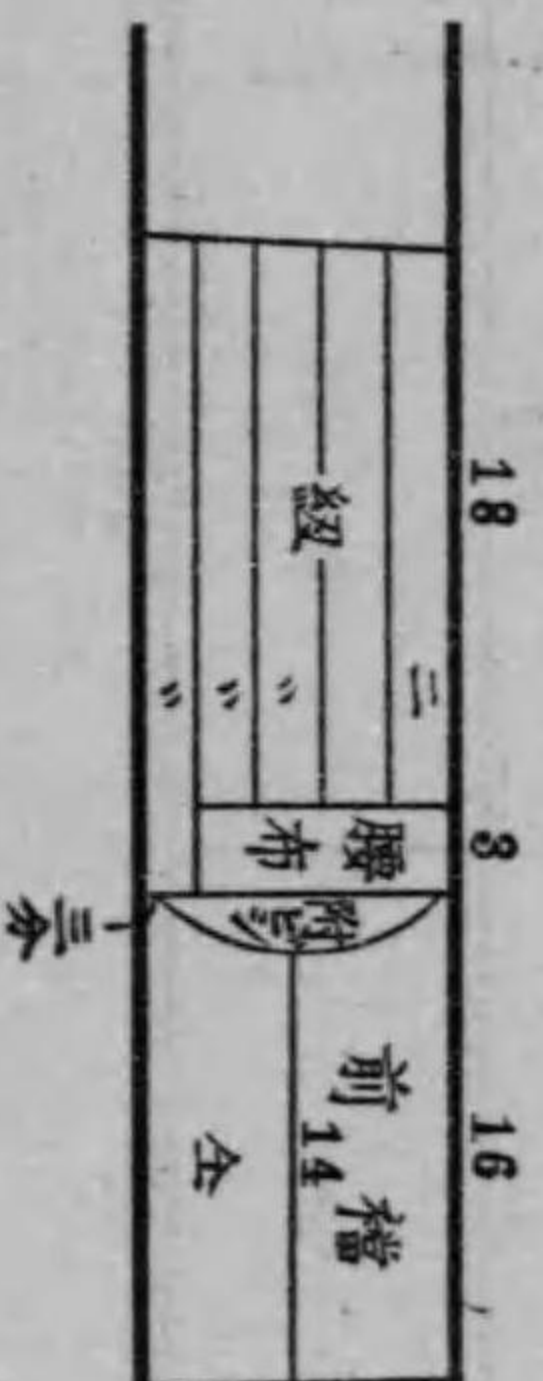
第一 本裁男袴袴表の裁方及び積り方

幅一尺長さ二丈三尺八寸の袴地にて男袴袴表の裁ち方



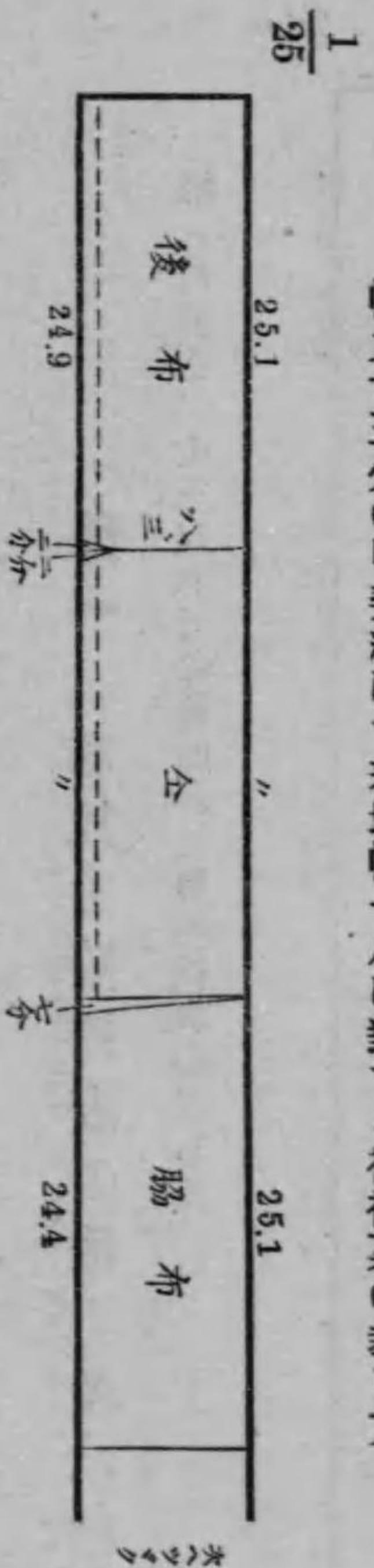
表の積り方

裄丈 腰 前襟  
 $18 + 3 + 16 = 37$   
 $238 - 37 = 201$   
 $201 + 38 = 204.8$   
 裁縫  
 $204.8 \div 8 = 25.6$   
 丈後布



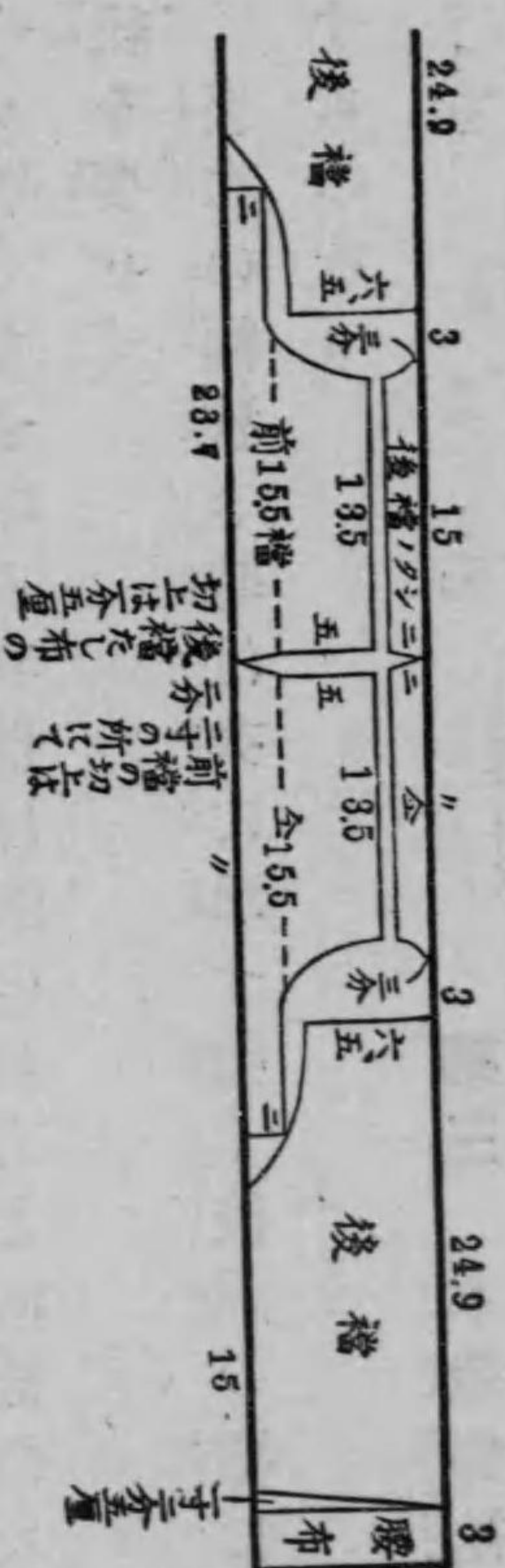
第二 本裁男袴袴裏の裁方及び積り方

幅九寸三分の甲斐絹にて表地幅一尺に對する袴袴裏の裁ち方



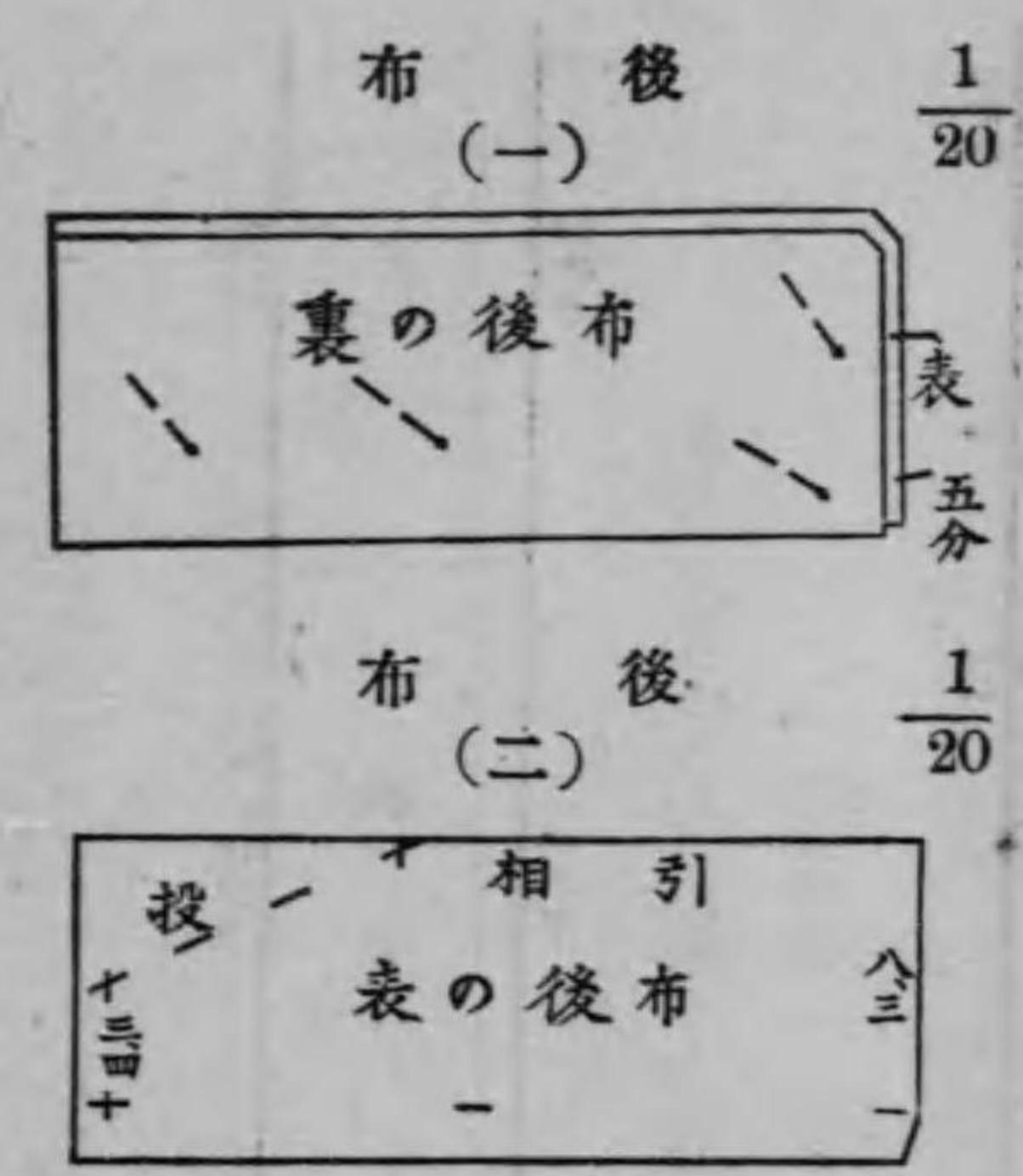
裏の積り方

$15 + 3 = 18$   
 $18 \times 2 = 36$   
 裄丈より五分引たる後丈  
 $25.1 \times 8 = 200.8$   
 $200.8 + 36 + 3 = 239.8$   
 $239.8 - 3.2 = 236.6$   
 腰用布裁縫



切り離し方は單袴に做ふべし。

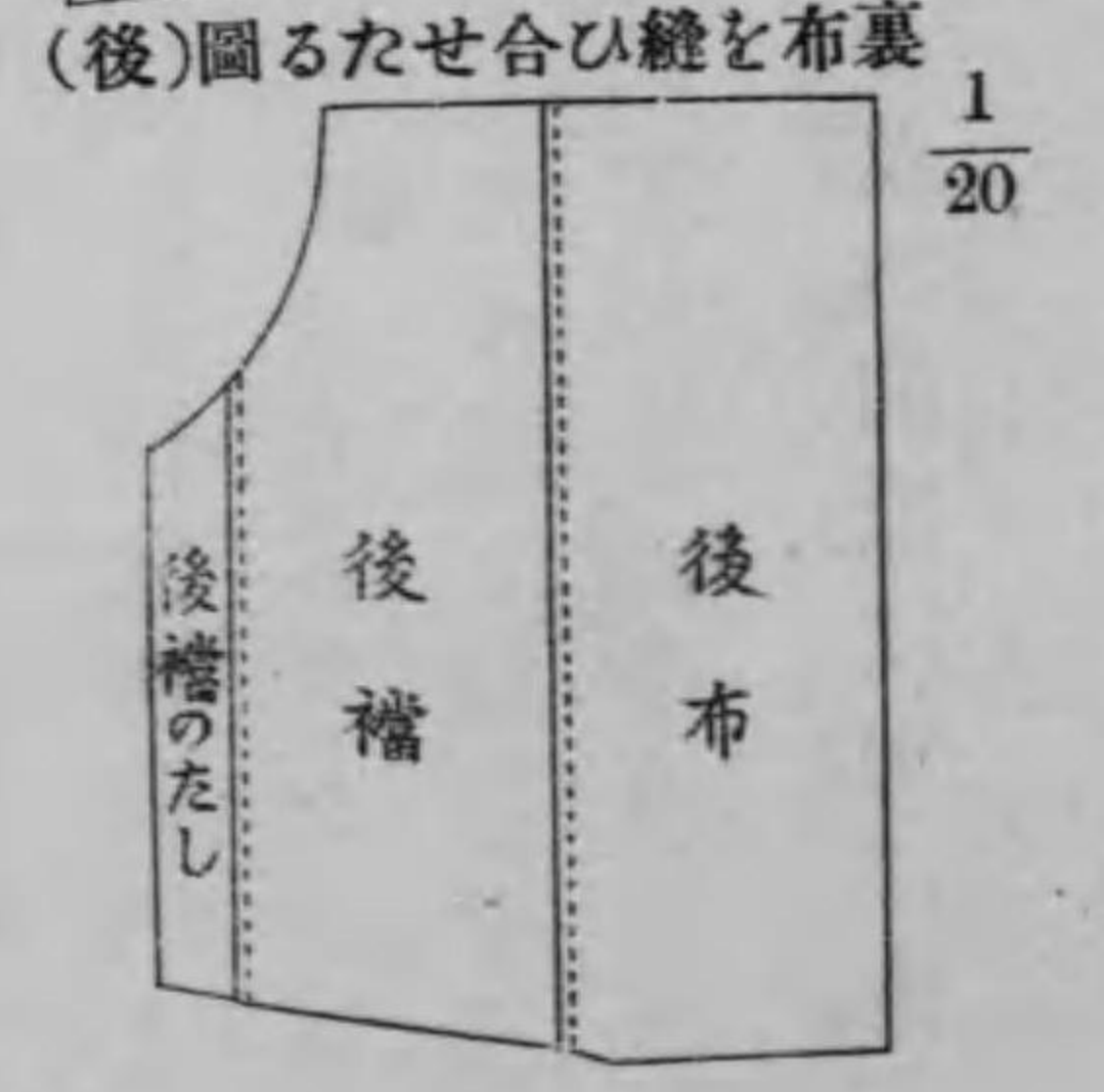
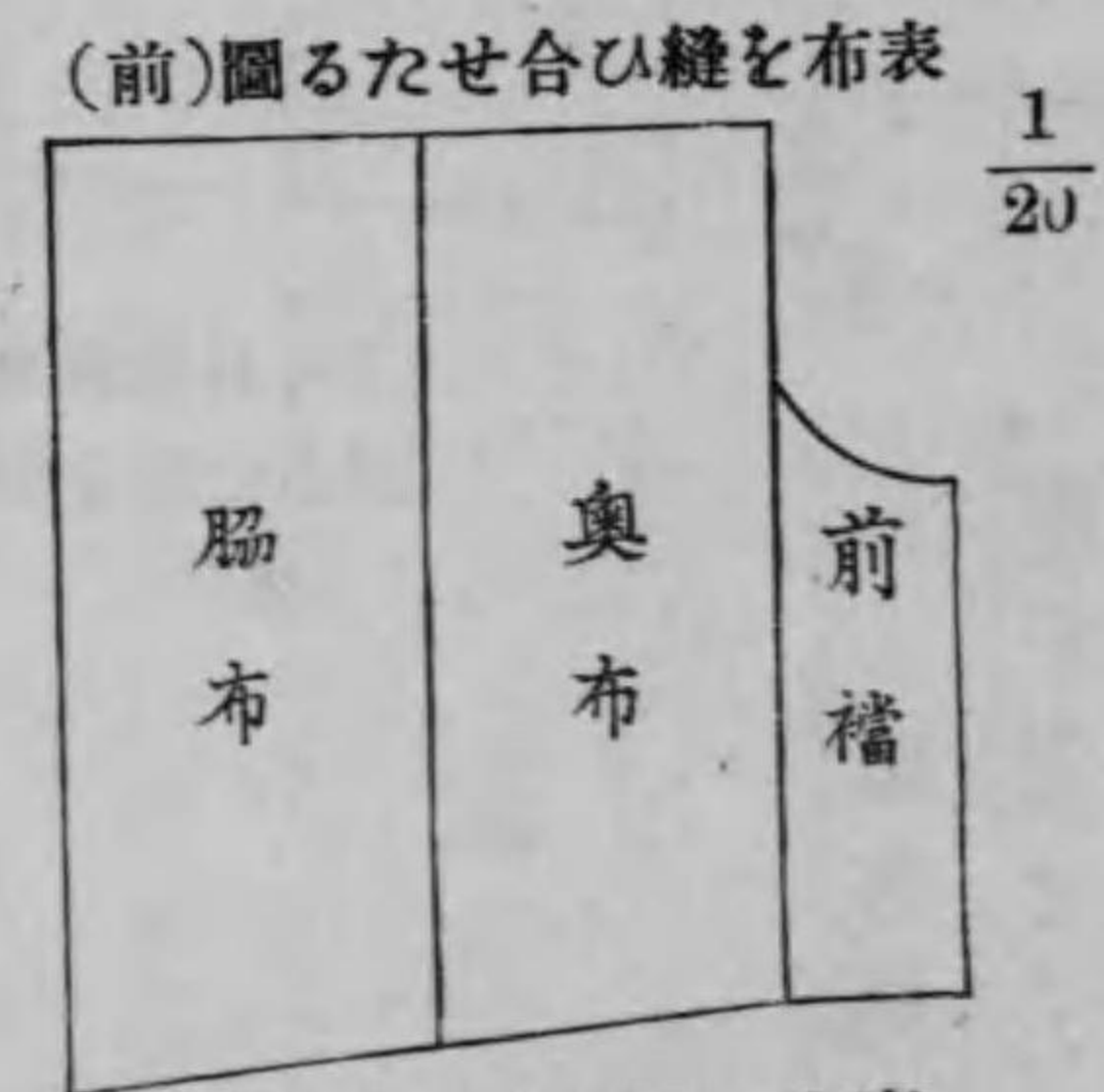
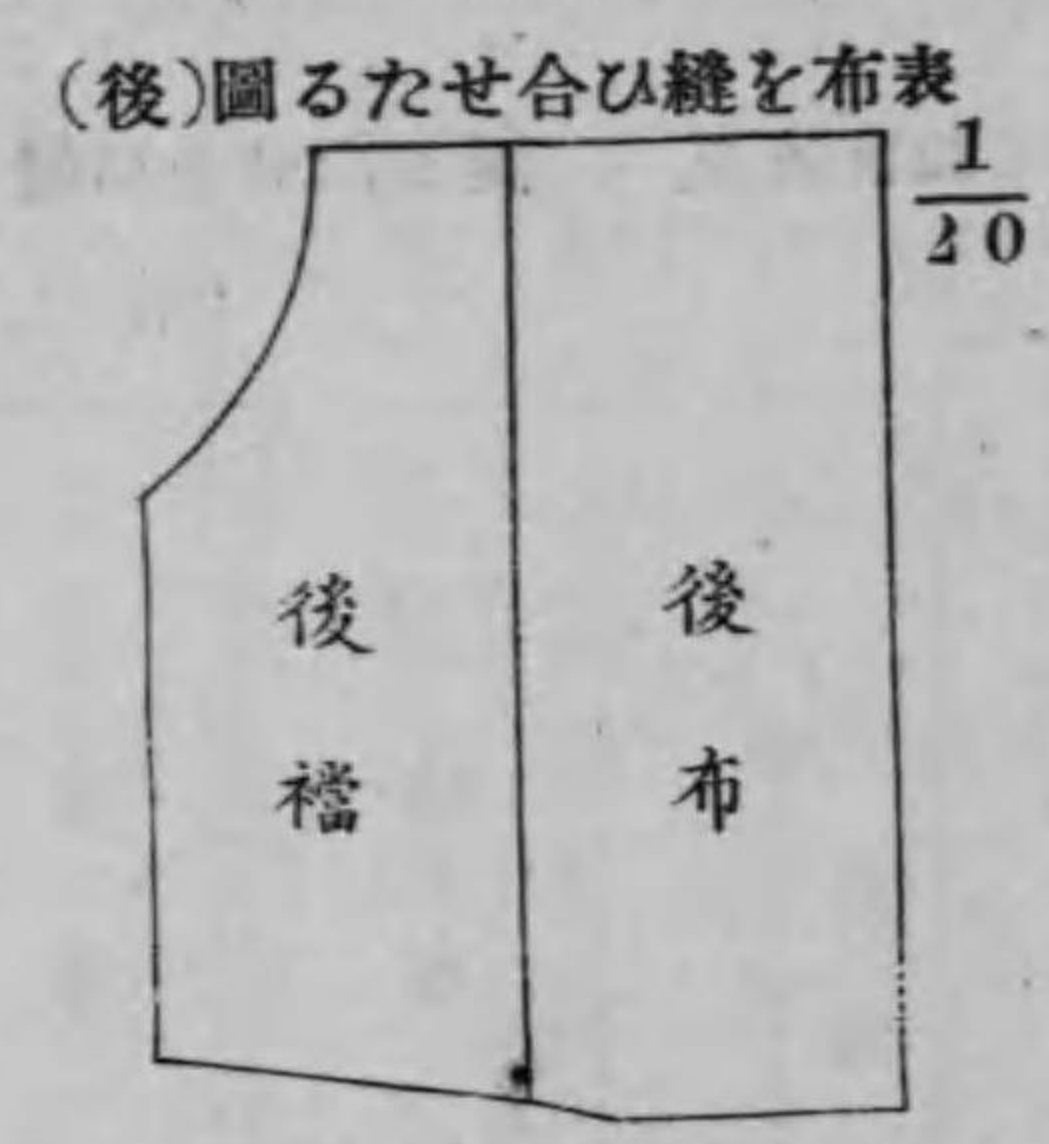
裁方は表布及び裏布の幅同寸の時は裏布の丈各布とも五分つゝ短くなすのみ其他は表の裁方と同様になすべし(但し裏は紐を要せず)  
裏布の幅狭き時は次に示す如く後前の襠にて幅の補ひをなすものなり。



第三 本裁男袴袴附の説明及

び縫合せ圖  
一 表の後布を裾口を右になし  
て切上を向ふにして、其上に裏布  
を第一圖の如く裾口を五分引き、  
手前を揃へて載せ待針を刺し、之  
を返して第二圖の如く表布の方

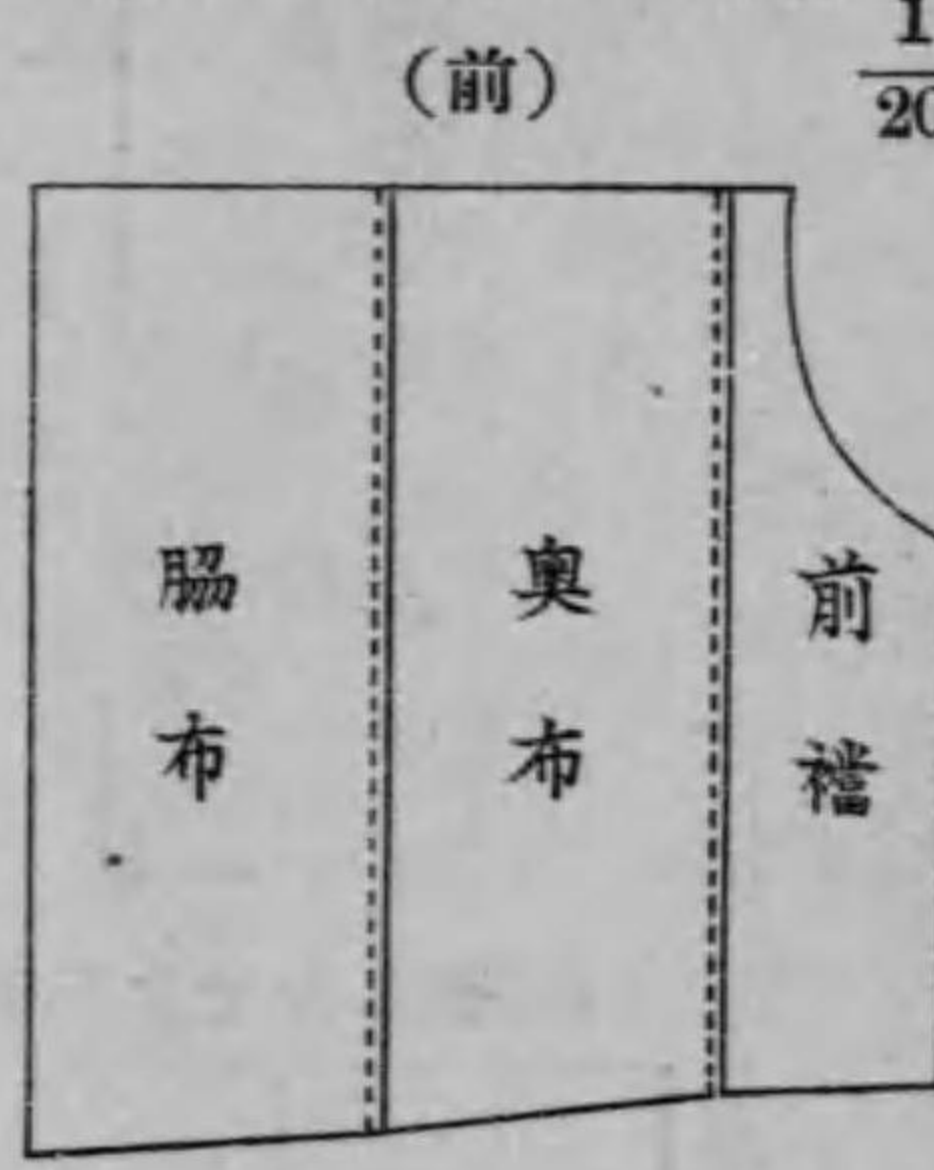
を上にし、丈幅相引及び投の篋を單袴の如く附るべし。  
但し腰幅は一分五厘廣く附け置くべし。





1/20

裏布を縫ひ合せたての図

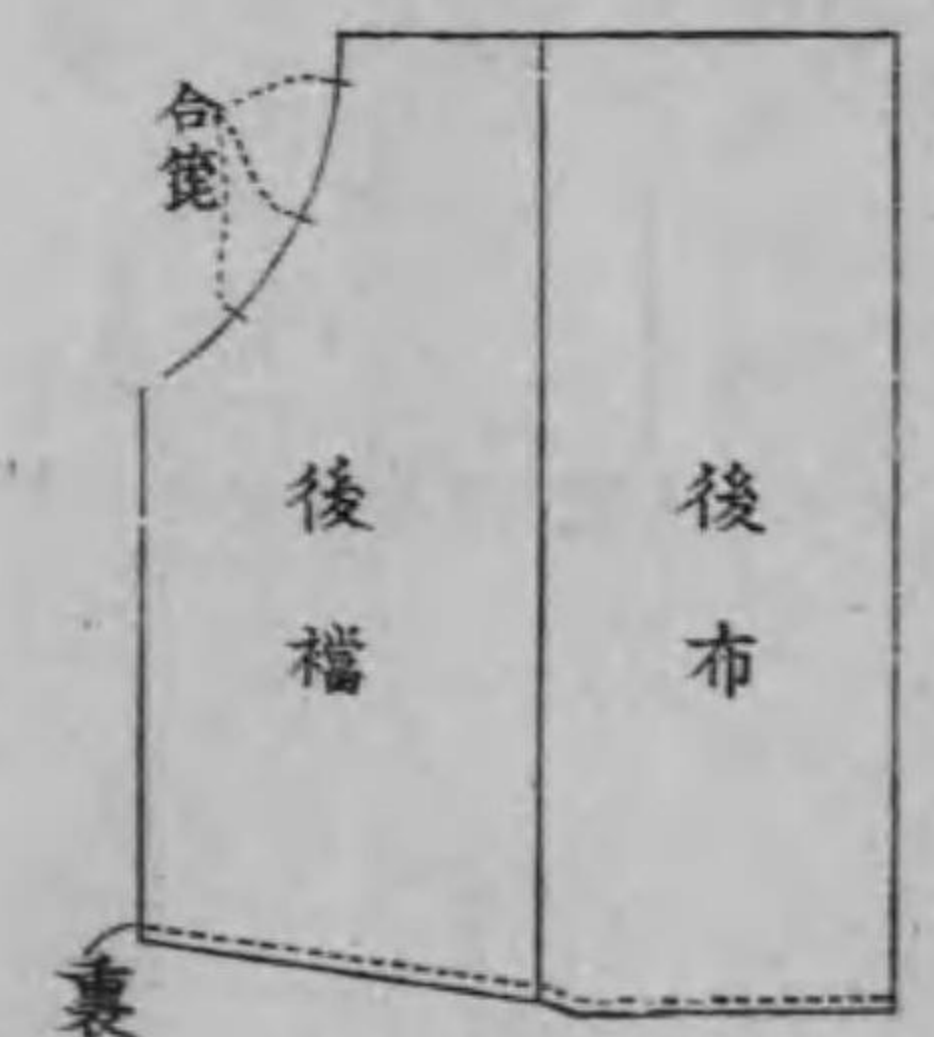


裏重ねて合

図るた附を第

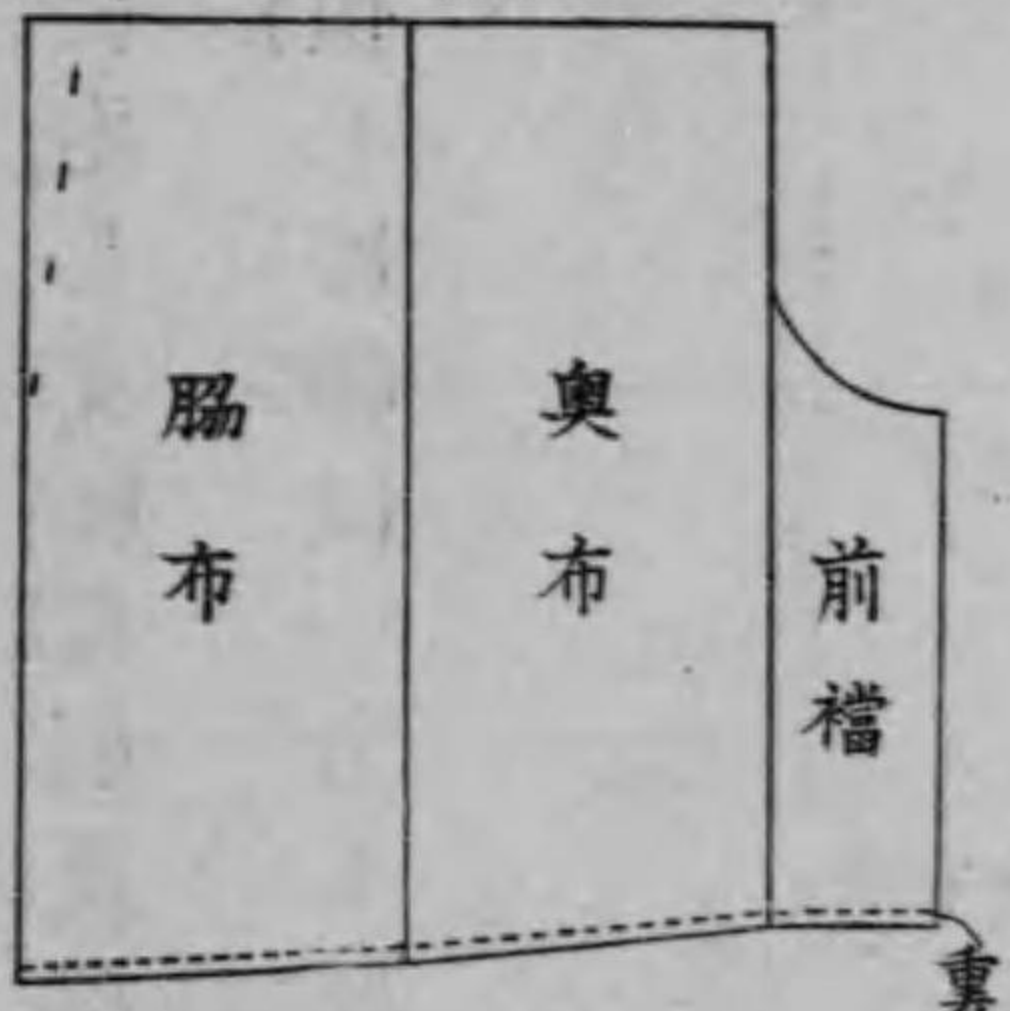
1/20

(後)



裏重ねて第の箇を附たる

(前)



裏布の  
かけ

一 脇布奥布及び前襠は別に箇を要せず。

一 左右とも表の後布に後襠を縫ひ合せ折を付け裏も表に做ひ

第四 本裁男袴縫方順序

て圖の如く縫ひ合はせ折を付け、表布の上に裏布を中表にして、裾口を五分引き相引の方を揃へて載せ、不揃の時、後襠の處を、表に合せて切り揃へ、乗間の處に相箇を圖の如く付け、次に裏の裾口に五分幅位の紙を當て、後幅の角立ちたる處を、表布のみ一分位の襷を取り、表より見て後幅の方の上になる様に二分の縫代にて裾を縫ひ合せ、平鋲を當て裏の方に折り、次に裏の投に五分幅位の眞直なる布を綴ち、付け、表は箇通り裏は腰幅の處にて、箇を二分縫込み、投を縫ひ合せ、伸さぬ様に平鋲を當て、縫込を裏の方に折り、之を表に返し、投を腰幅の處にて、表を裏の方に一分、ふかせて裏表一緒に、襠を掛け、裾口は表を二分五厘裏の方にふかせて裏表一緒に、襠を掛け、置くべし。

ひて縫ひ合せ折を附け、後布と同じく表を合せて裏布を裾口に  
 て五分引き相引の方を揃へて平になし、不揃の時は前裾の處に  
 て表に合せて切り揃へ、笹襷の笹及び乗間の處に合笹を附け、次  
 に裏の裾口に後と同様に紙を當て、裾を縫ひ合せ、平鋏を當て  
 裏の方に折り表を二分五厘裏の方にふかせて裏表一緒に躰を  
 掛け、次に脇布の表裏にて後布を挟み相引を四つ縫ひになし、續  
 きに笹襷の處を表は笹通り裏は上にて笹を二分縫ひ込みて縫  
 ひ合せ、裏の方に折り表を一分位裏の分にふかせて裏表一緒に  
 躰を掛け置くべし。

三 寄襷を單袴の如く寸法を定めて右脚の一、二、三の襷及び左  
 脚の一、二の襷の折目になる處を裏表躰にて綴ぢ合せ、其通りに  
 折を附け、又右脚の後幅及び左脚の後幅より八分奥の處にも折

を附け、火熨斗若しくは鋏を當て、次に右脚の前裾の裏表にて後  
 裾を挟み之を四つ縫ひになし、左脚は下より三分の一だけ四つ縫  
 をなし、夫より上の三分の二は表布のみ縫ひ合せ、裏の方は其儘  
 明け置くべし。

四 左脚の裏表にて右脚を挟み合笹を合せて待針を刺し、乗間  
 を四つ縫ひになし、裏裾の處より引返し、其處を紵け、之を表に返し  
 左右の相引の處に門留をなし、單袴の如く襷を取り、笹襷を紐附  
 の處より五分位上にて度り、其折り山を寄襷の方に寄せ、紐附幅  
 の二分の一例へば八寸なれば、笹襷の端より中襷まで四寸にな  
 る様になして待針を刺し、夫より笹襷を格好よく作り、其直中を  
 躰にて綴ぢ、其上に紙を當て、鋏を掛け躰を取り、中より折山の  
 一分内を六七分の針目に隠し、躰の如く縫ひ、(末端を三分位残し

置く)次に端の合せ目の處を紵け、一方も同様になし其他は單袴に倣ひて仕上をなすべし。

裏表幅同寸の時の縫方

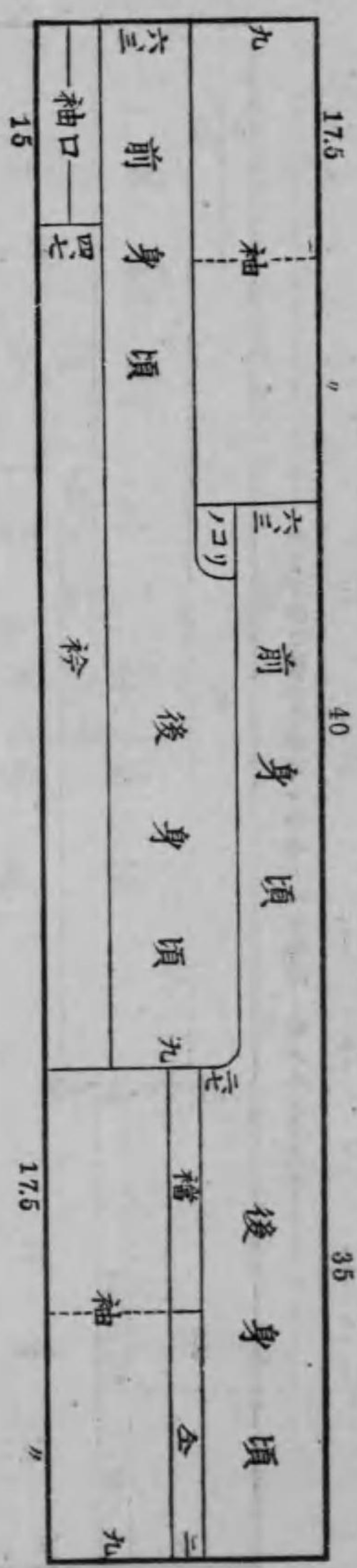
一 裏表の幅同寸の時は、各布とも別々に裏表の裾を縫ひ合せ、次に左右の投を縫ひ表に返し後襠にて後布を挟み四つ縫になし奥布にて脇布を挟み四つ縫ひになし、次に右脚の前襠にて奥布を挟みて四つ縫になし、左脚は裾より三分の一上まで四つ縫になし、夫より上は裏表別々に縫ひ、次に脇布の裏表にて後布を挟み相引を四つ縫になし、笹襷を續きに縫ひ、夫より前襠の縫方及び胯合せ其他は前の袴の縫方と同様なれば其説明を見るべし。

第十章 参考の部

第一 幅二尺長さ一丈一尺の片面物にて本裁

女羽織の裁ち方

1  
25



1/25



(二四)

しへむ込の縫にて背故き多分一リと通普 分八寸二明肩針

第二

1/25

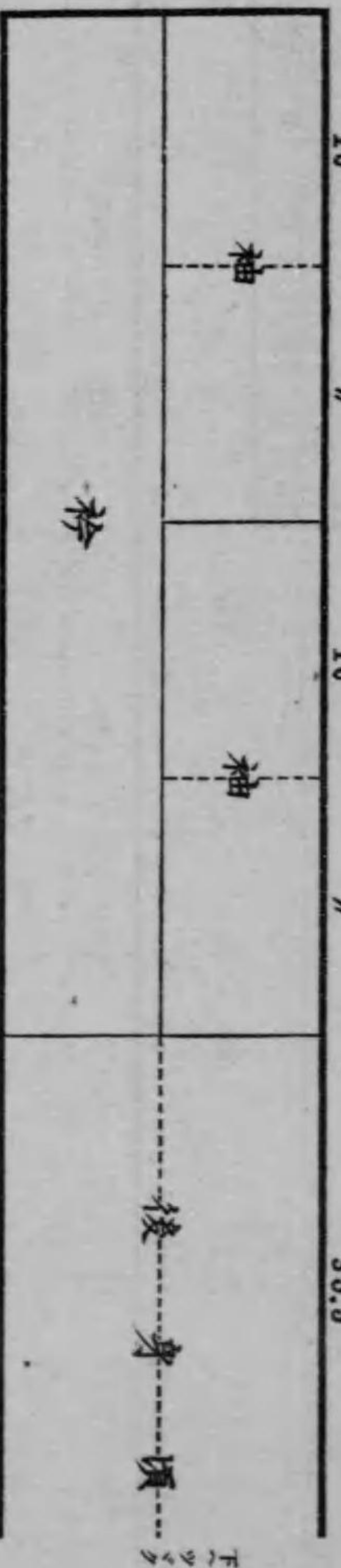
幅二尺長さ一丈一尺五寸の両面物にて  
本裁女羽織表の裁ち方



第三

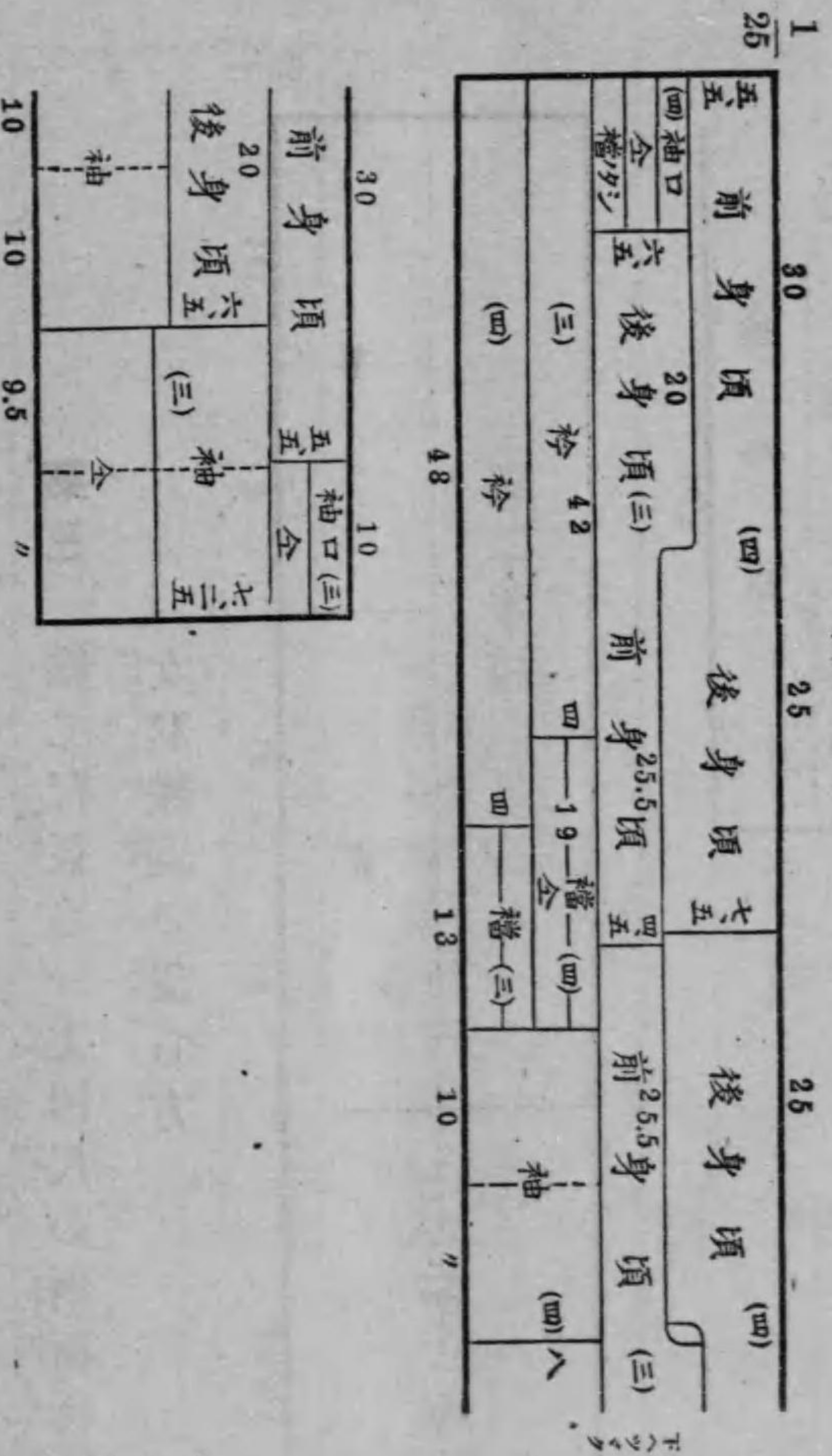
幅二尺長さ一丈四尺の両面物にて本裁  
女羽織表の裁ち方

1/25



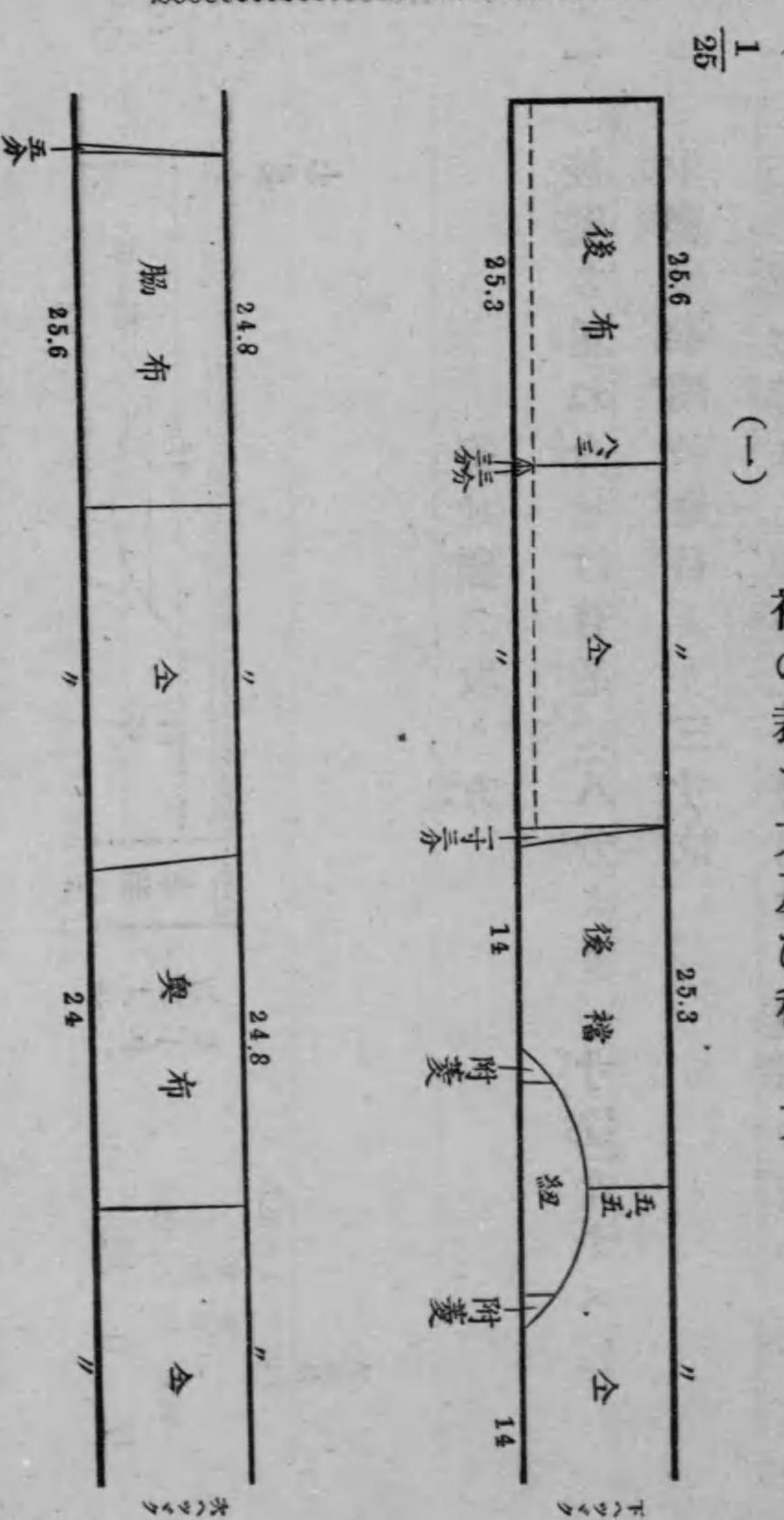
### 第四

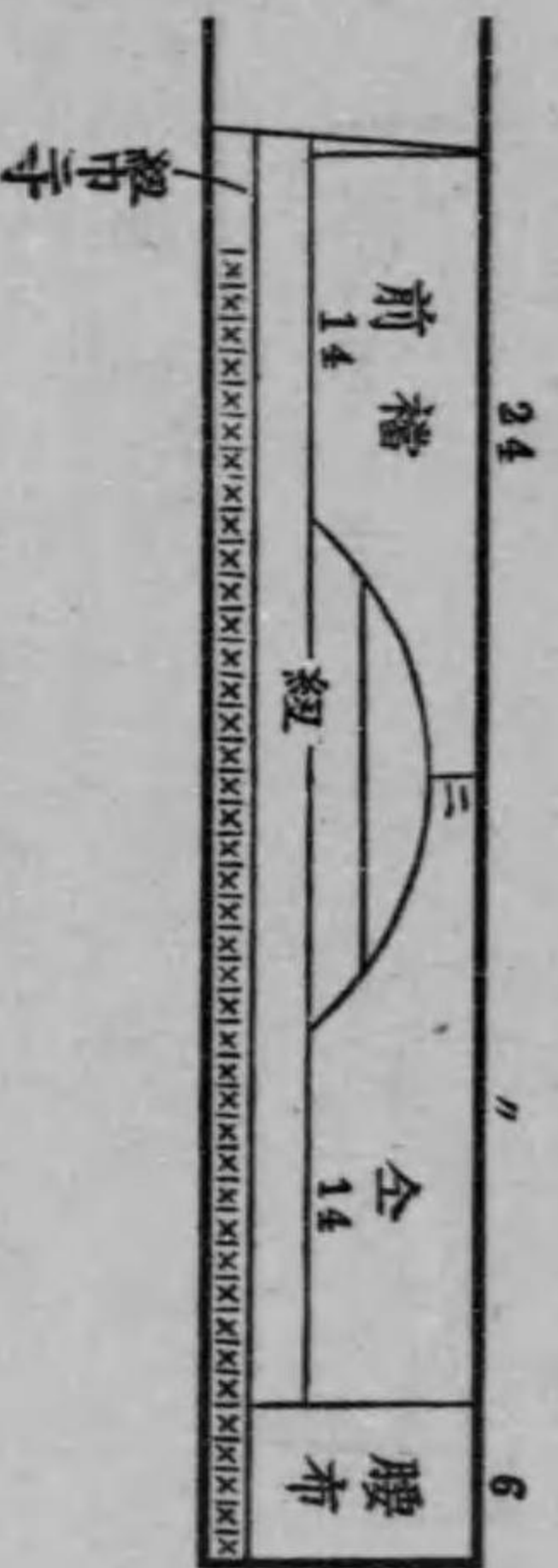
幅二尺長さ一丈二尺の片面物にて元祿袖裁四つ身及び三つ身相當の羽織表の裁ち方



### 第五

長さ二丈五尺五寸の博多織袴地にて男袴の裁ち方及び積り方





紐下二尺  
二寸上り

積り方

$$255 - 6 + 7 = 256$$

腰布

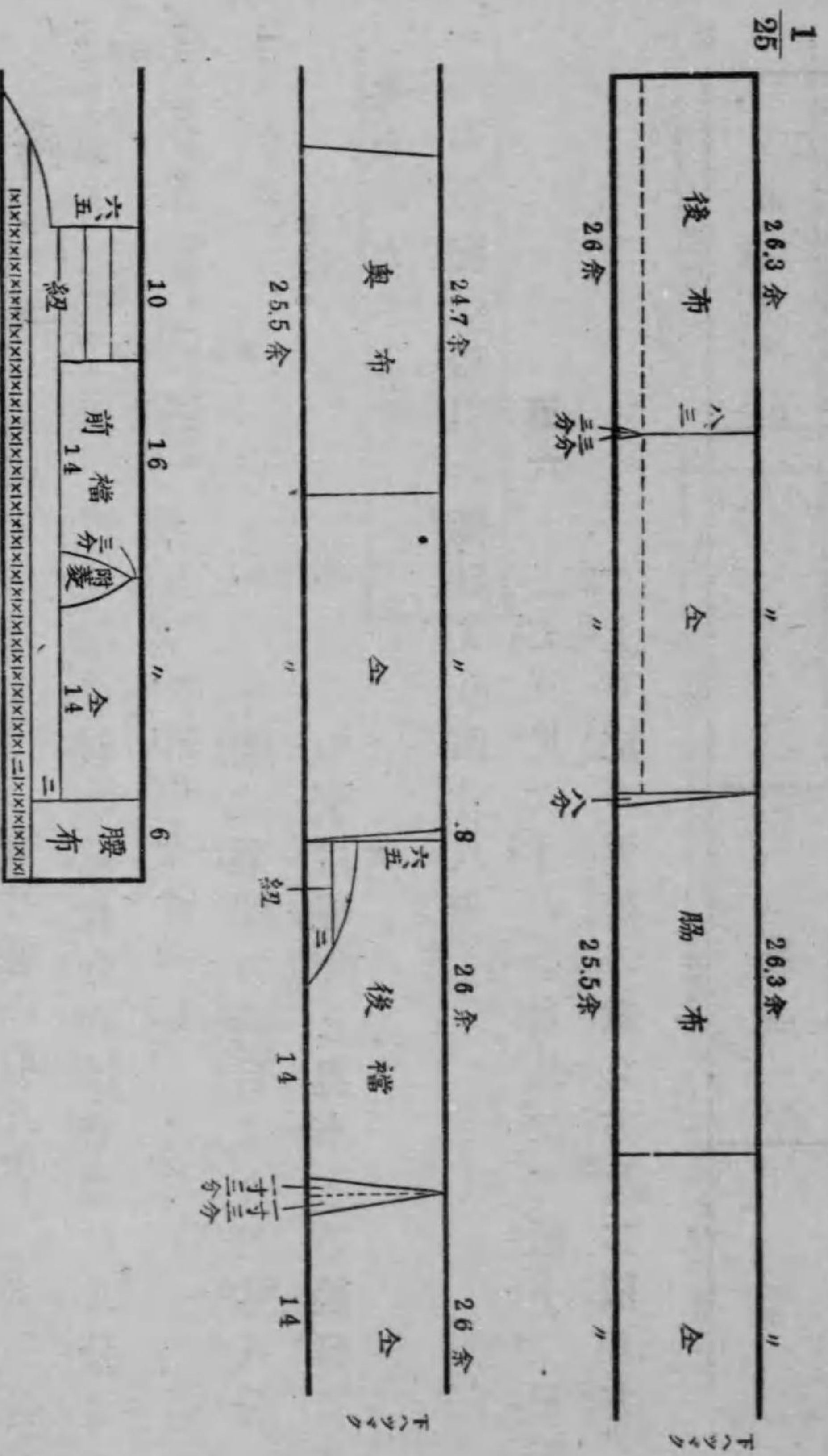
$$256 \div 10 = 25.6$$

後布共

寄せ襷の取り方

- 一 後襷の重ね合せは普通に(八分より一寸位)をすべし。
- 一 中襷は乗間の縫目より三寸位
- 一 二の襷は脇布と奥布との縫目より奥布の方へ二寸五分
- 一 一の襷は相引の縫目より四寸八分

(二)



### 積り方

#### 寄せ襷の取り方

$$16 \times 2 = 32 \quad 32 + 10 + 6 = 48$$

前襟

組腰布

$$255 - 48 = 207 \quad 207 + 3.8 = 210.8$$

$$210.8 \div 8 = 26.3$$

縫後布丸

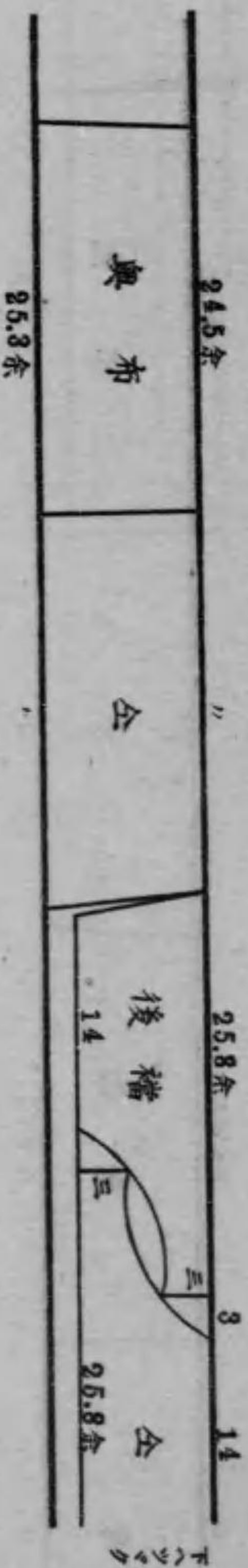
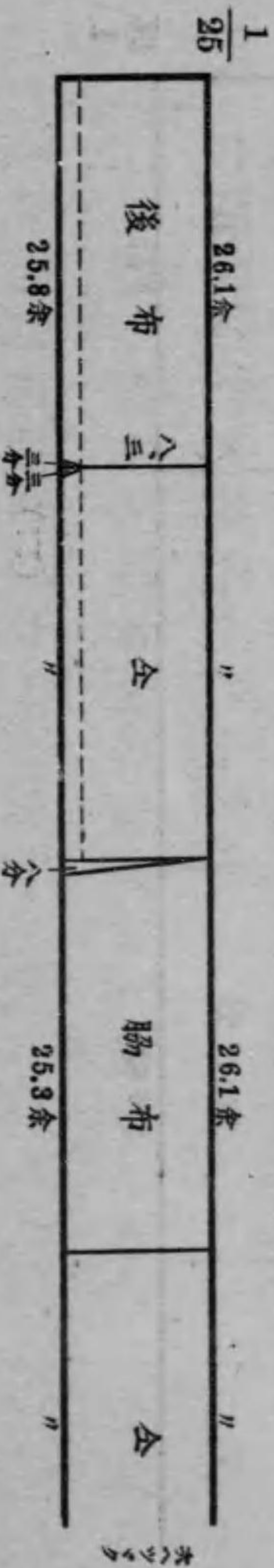
- 一 後襷の重ね合せは普通に(八分より一寸位)なすべし。
- 一 中襷は乗間の縫目より二寸八分
- 一 二の襷は脇布と奥布との縫目より

#### 奥布の方へ二寸

- 一 一の襷は相引の縫目より四寸八分

### 第六

二丈三尺六寸の小倉地にて紐下二尺三寸上り位の男袴の裁ち方及び積り方



### 積り方

$$16 \times 2 + 6 + 14 + 3 + 1.3 = 6.3$$

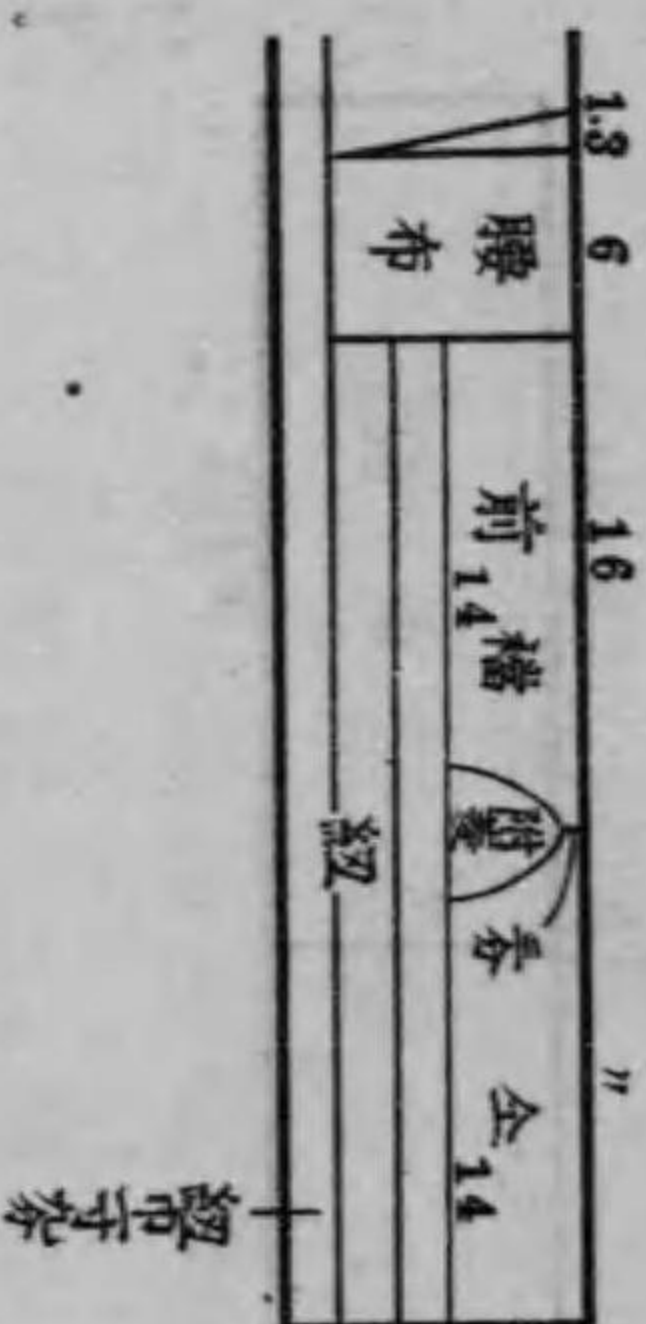
前襟 腰高 脇切 落後

$$236 - 56.3 = 179.7$$

$$179.7 + 3.5 = 183.2$$

$$183.2 \div 7 = 26.1$$

縫後布丸



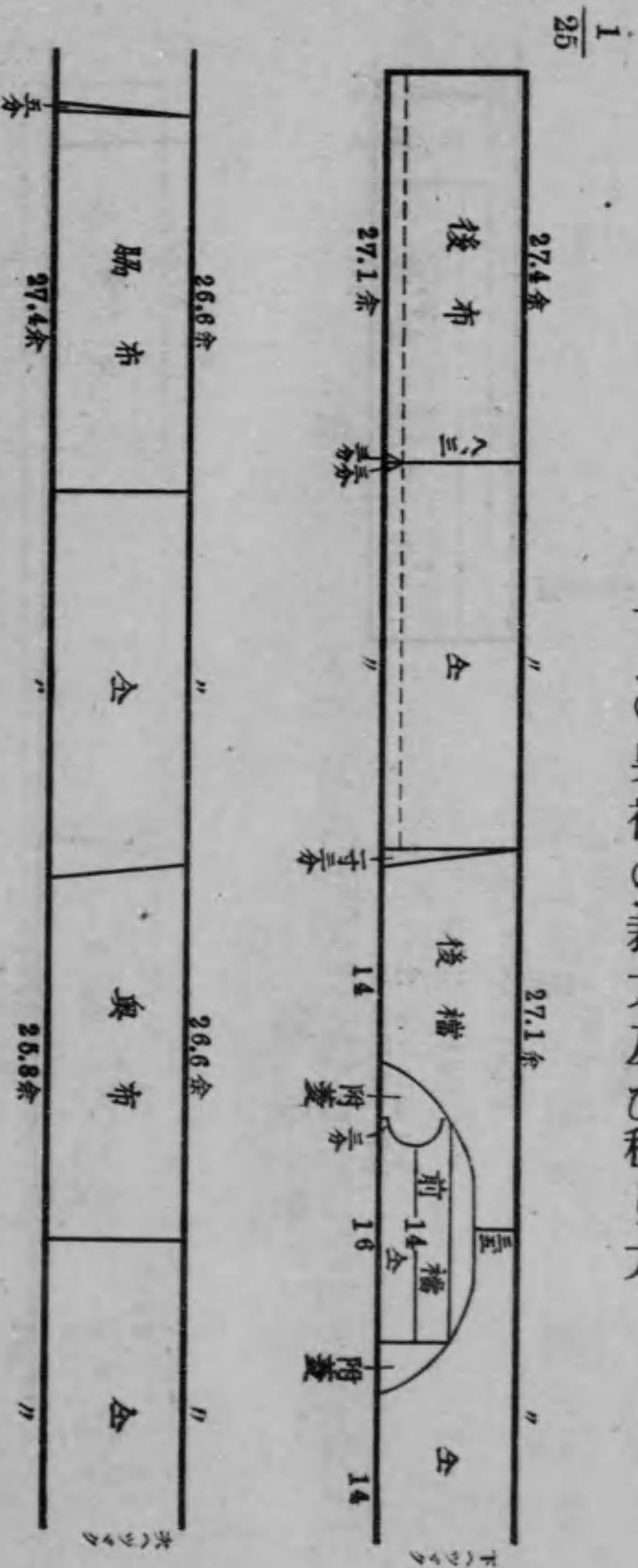
#### 寄せ襷の取り方

- 一 後襷の重ね合せは普通に(八分より一寸位)になすべし。
- 一 中襷は乗間の縫目より二寸八分

- 一 二の襷は脇布と奥布との縫目より奥布の方へ一寸八分
- 一 一の襷は相引の縫目より四寸八分

第七

二丈四尺五寸の袴地にて紐下二尺四寸上りの男袴の裁方及び積り方



積り方

$$23 + 6 = 29 \quad 245 - 29 = 216$$

粗腰布

$$216 + 3.8 = 219.8 \quad 219.8 \div 8 = 27.4$$

布餘丈後



寄せ襷の取り方

後襷の重ね合せは普通に(八分より一寸位)なすべし

中襷は乗間の縫目より二寸八分

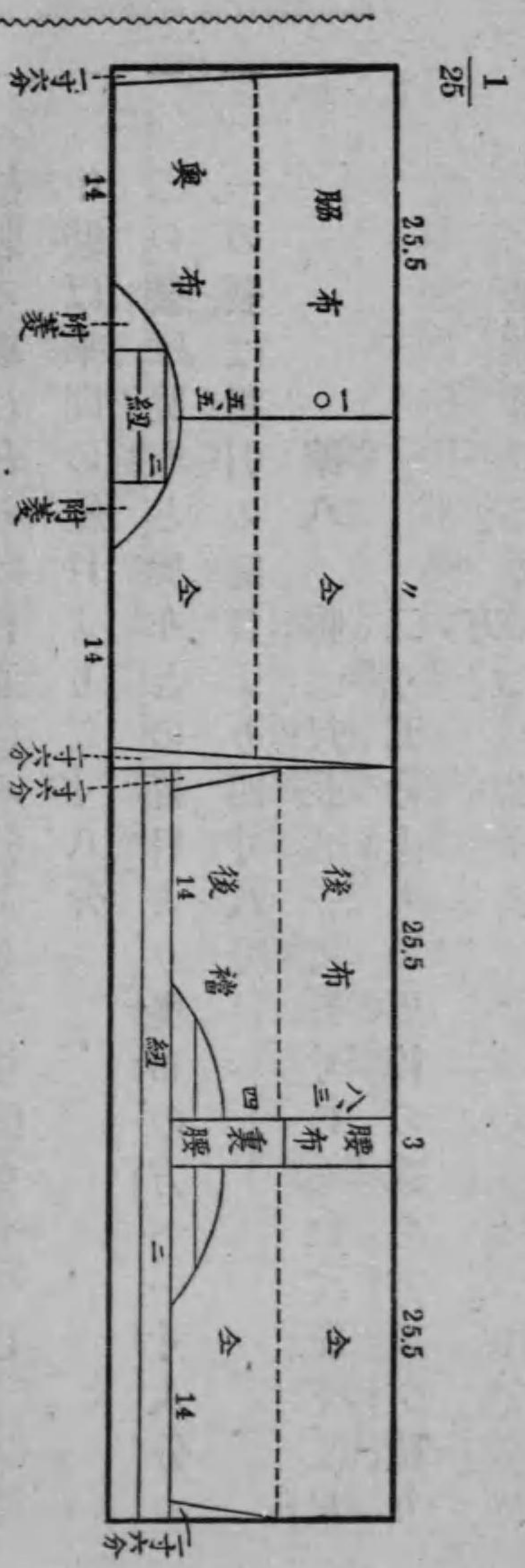
二の襷は脇布と奥布との縫目より奥布の方へ一寸八分

一の襷は相引の縫目より四寸八分

第八

幅二尺長さ一丈五寸の布にて紐下二尺二寸五分上りの男袴の裁ち方及び積り方





積り方

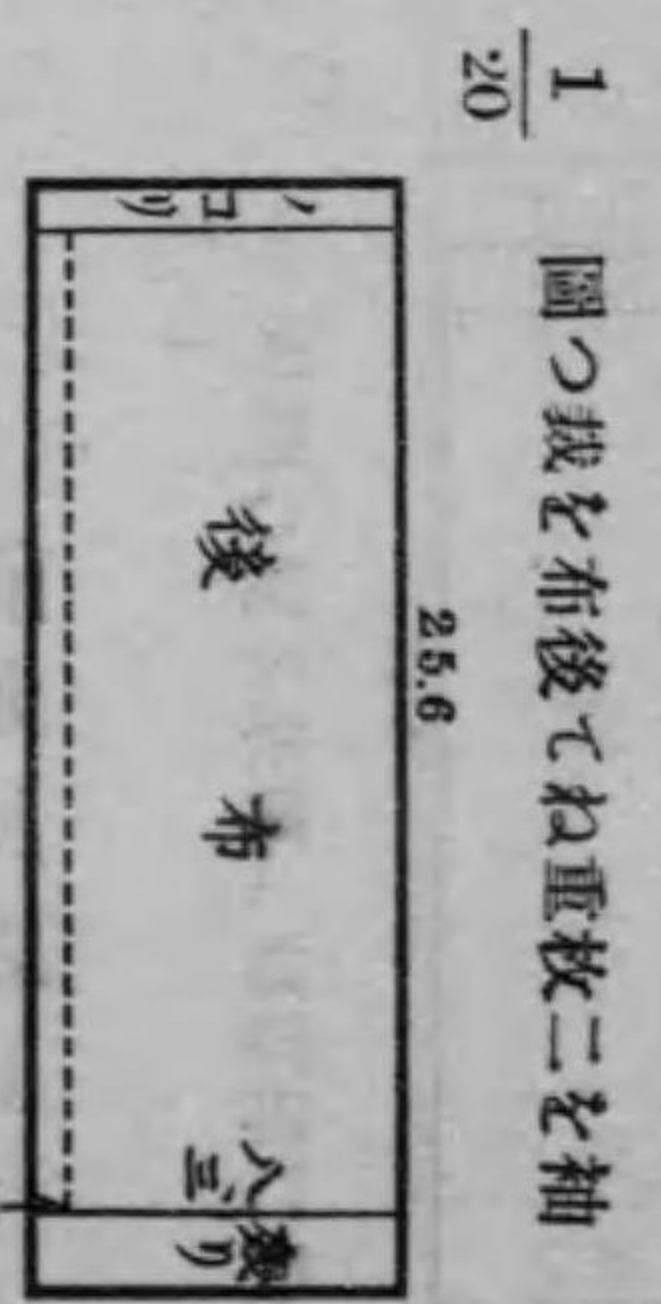
$105 - 3 = 102$  腰布  
 $102 \div 4 = 25.5$  丈後布

- 寄せ襷の取り方
- 一 後襷の重ね合せは普通に(八分より一寸位)なすべし
  - 一 中襷は乗間の縫目より二寸五分

- 一 一の襷は相引の縫目より四寸八分
- 一 二の襷は中襷と一の襷との中間

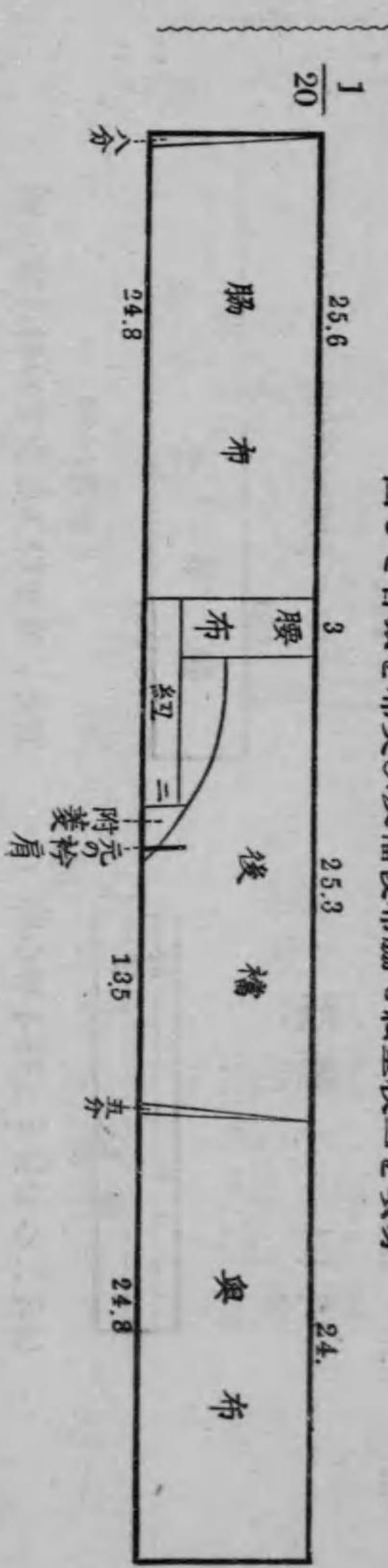
第九 本裁長着を男袴にし

但し袖丈一尺四寸五分  
 身丈三尺九寸



圖の裁を布後てね重枚二を袖

圖るせ合裁を布奥び及襟後布脇てね重枚二を頃身



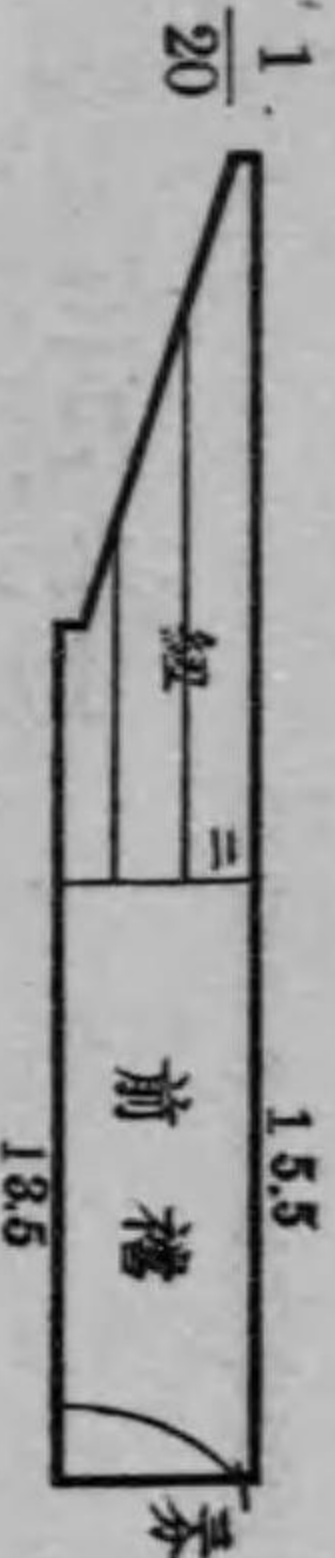
圖の裁を紐及び襦前でね重枚二を衽  
(時の衽棒)



1 圖の裁を紐てり折に二を衽  
20



(時の衽鉤)



紐幅 二寸

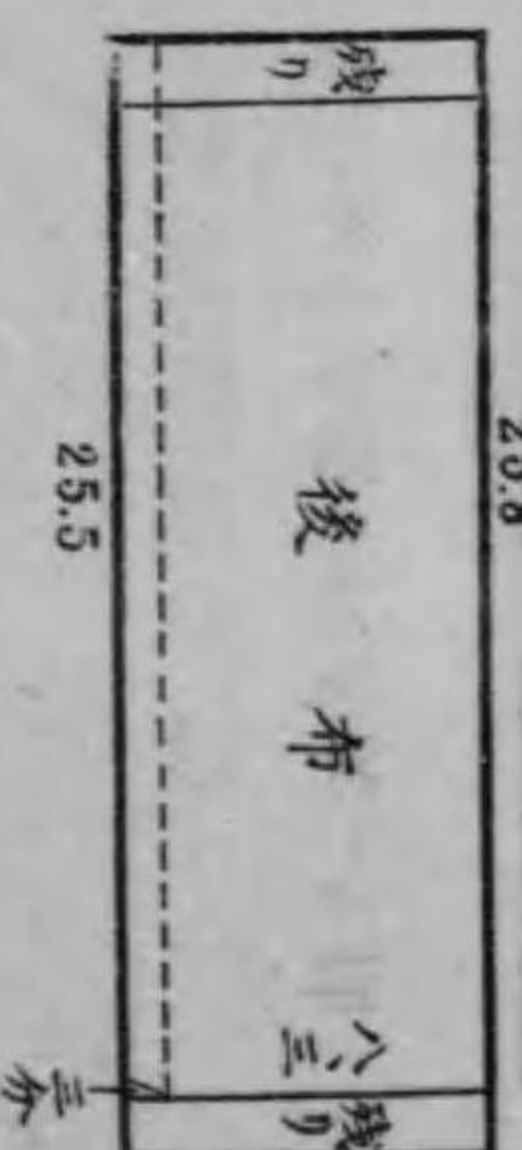
紐丈

後一尺八寸  
前九尺以上

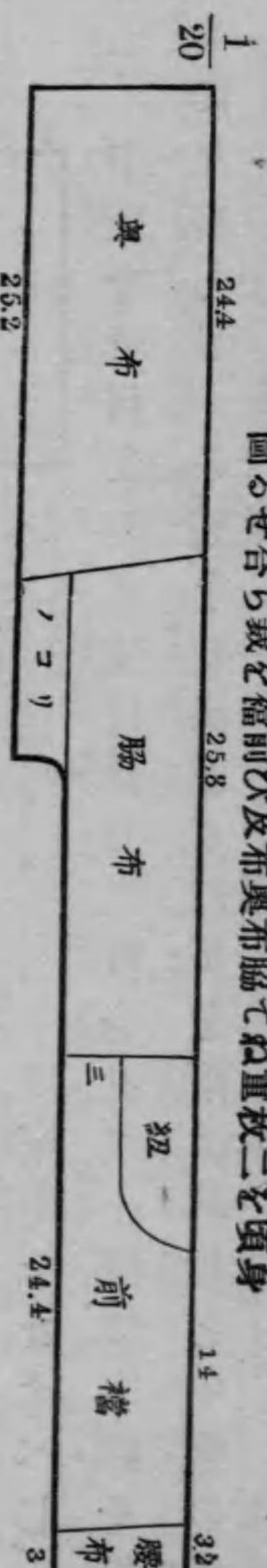
第十 本裁羽織を男袴に仕立替る時の  
裁ち方

但し袖丈一尺四寸五分  
身丈後三尺五寸 前四尺三寸

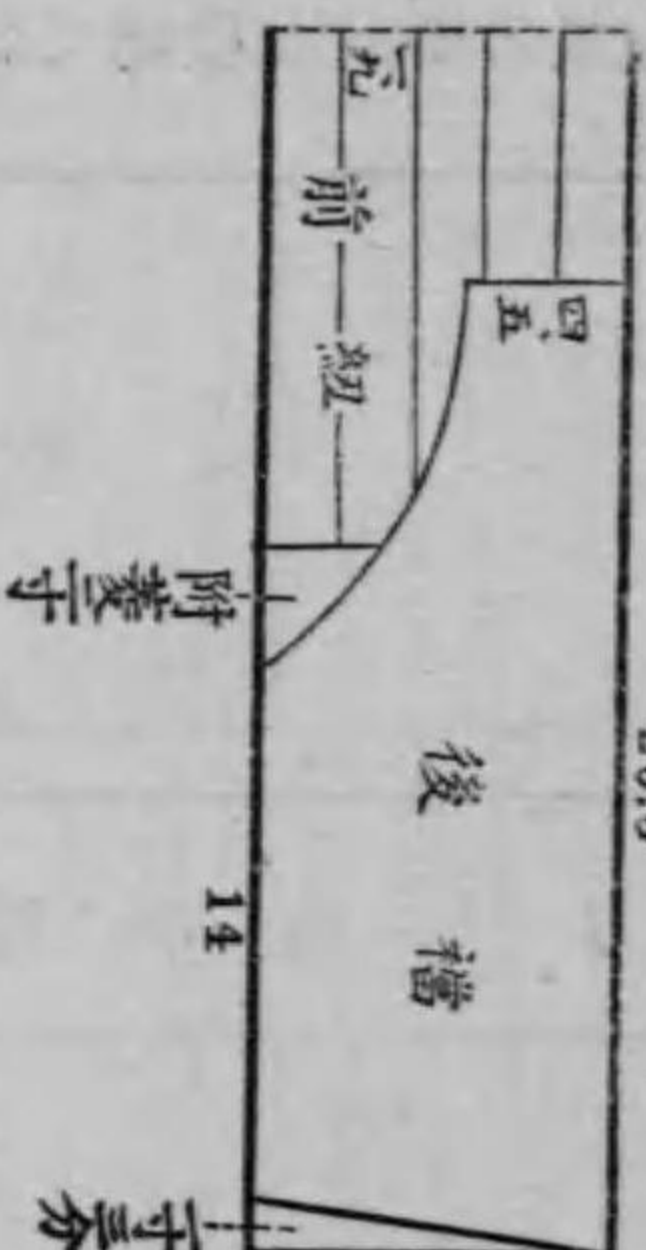
1 20 圖の裁を布後てね重枚二を袖



圖るせ合ち裁を襦前及び布奥布脇てね重枚二を頭身



1 20 圖の裁を紐及襦後り折に二を衽

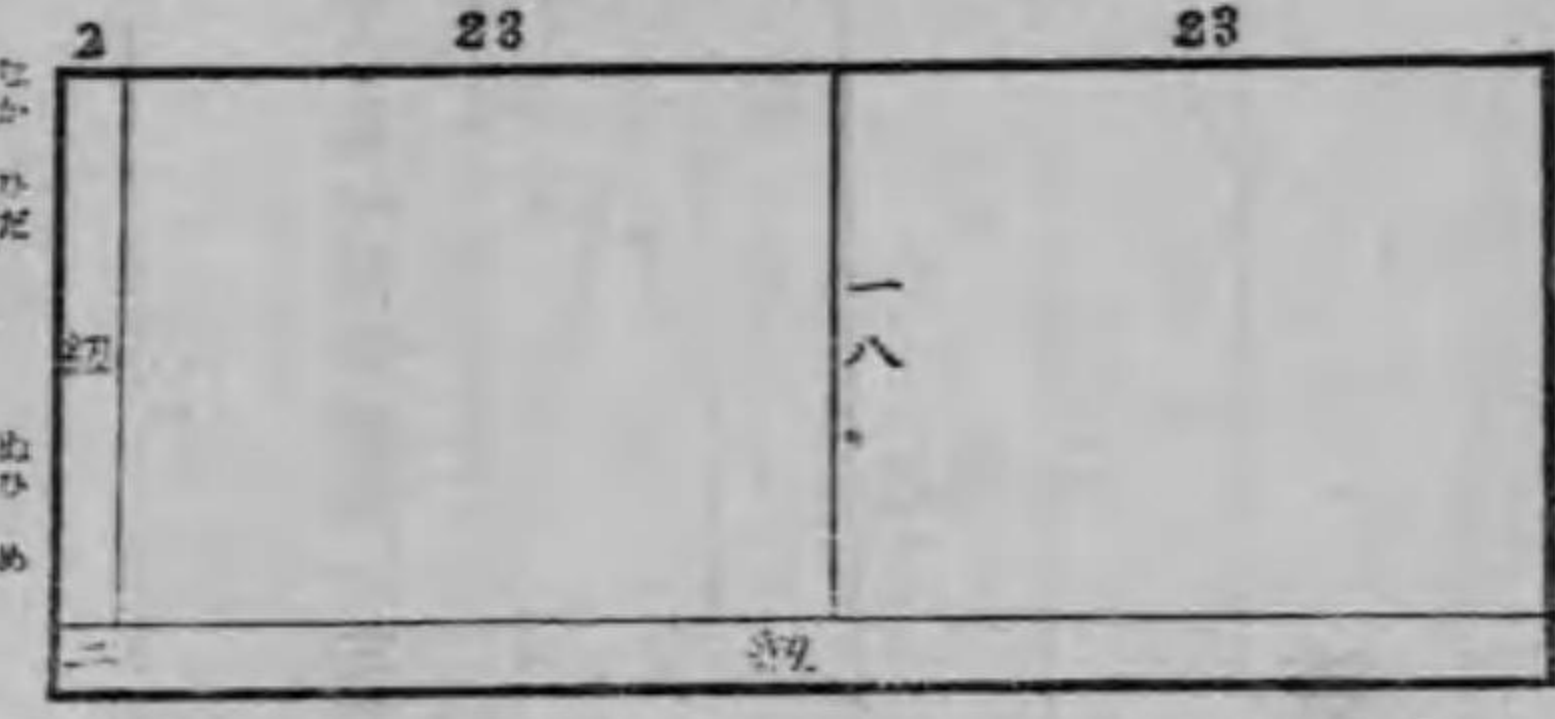


襦の布にて後紐を取り袖口布を  
前紐の足となす。

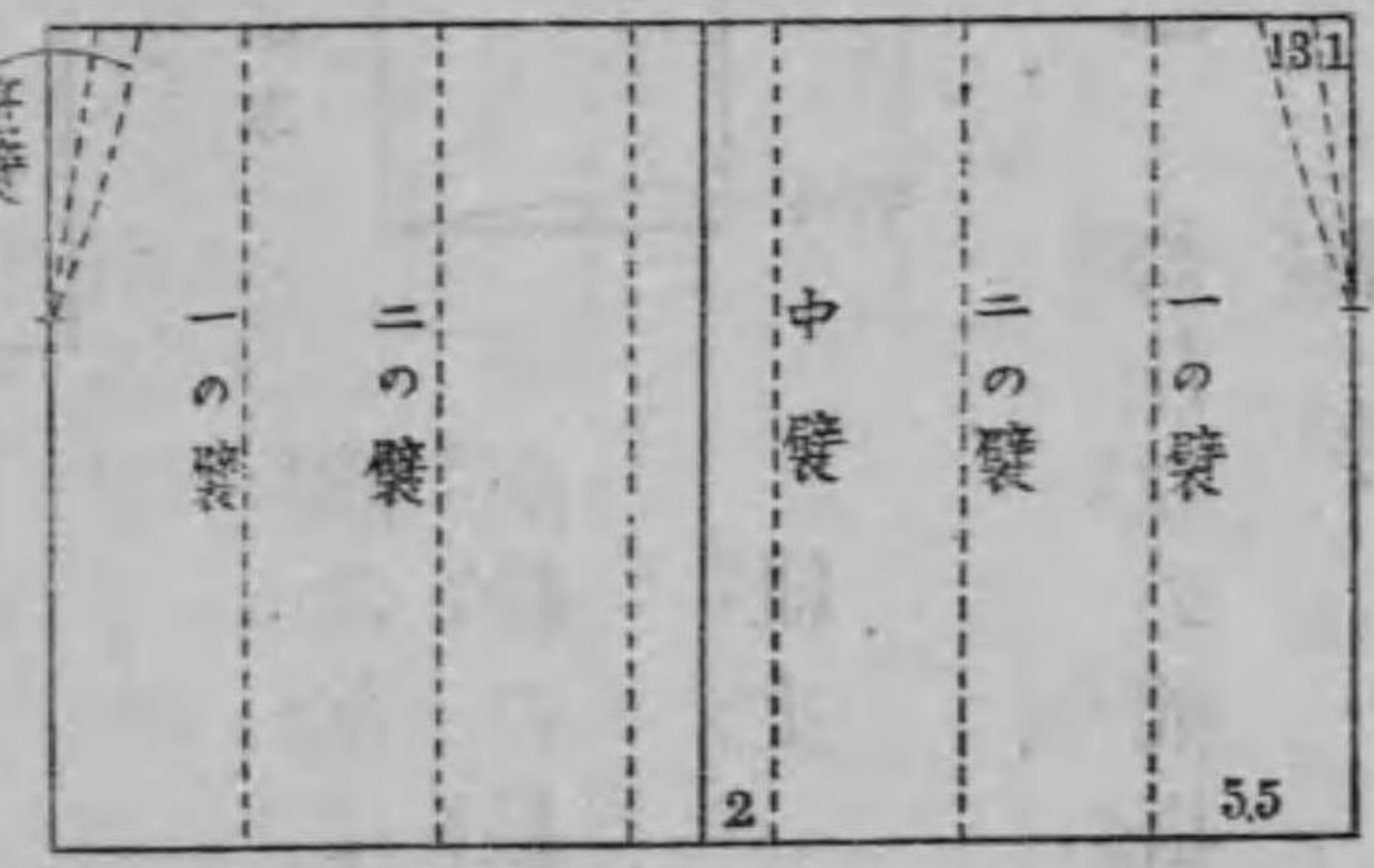
紐丈 後一尺八寸  
前九尺以上

第十一 袴仕立の前掛の裁ち方及び縫方  
順序

布の寸八尺四さ長尺二幅  
方ち裁の掛前立仕袴にて  $\frac{1}{25}$



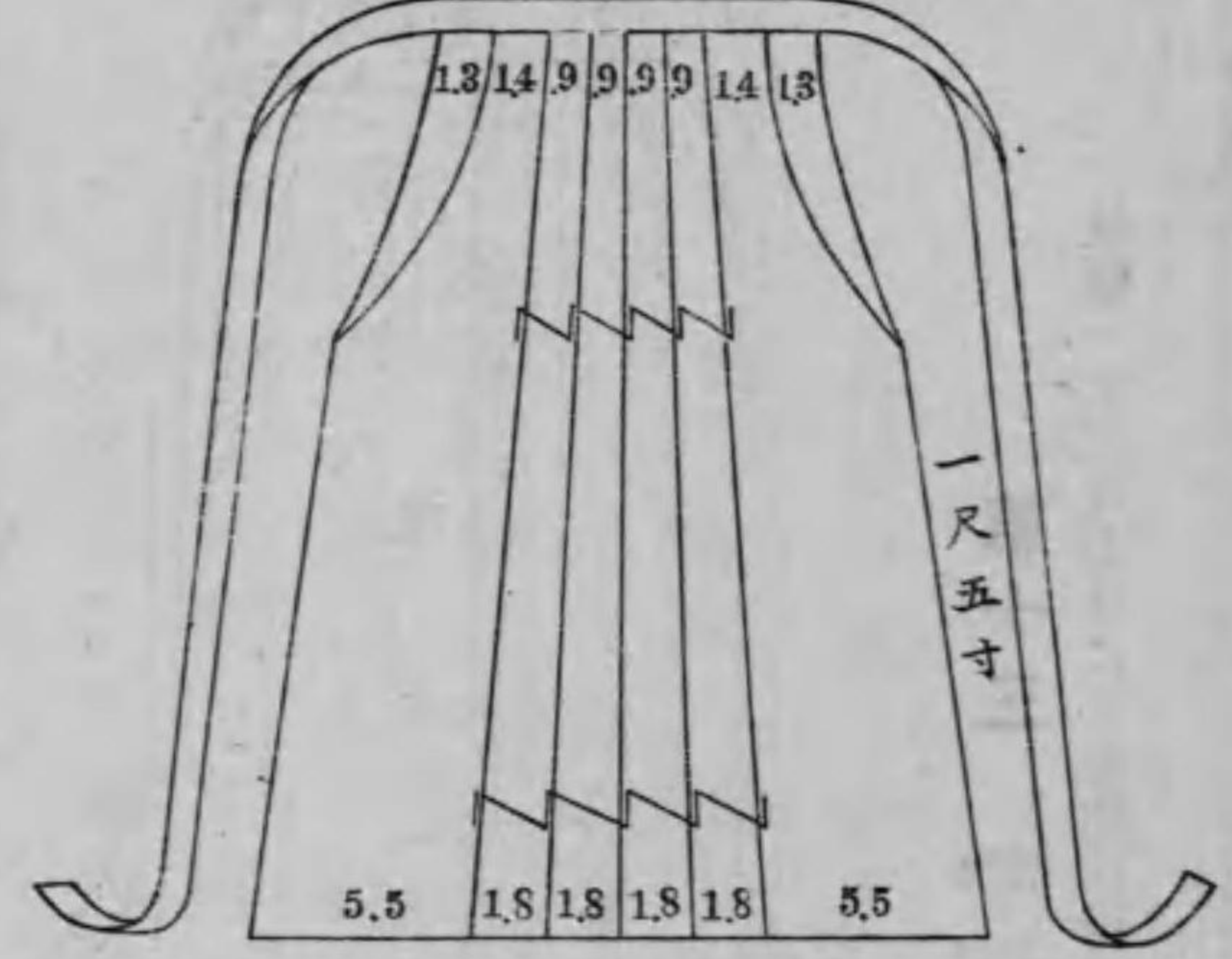
方り取の襷  $\frac{1}{25}$



二 中襷を縫目より二寸に折り二枚合せて上部より襷を掛け、次に左右とも一の襷を寸法通りに折を付け、其折と中襷の折との中間に二の襷の折を付け、出来上り圖の如く襷を寄せ待針を

一 布を外表に二枚合せ裁目の方を一分位の縫代にして縫ひ合せ、之を返して二分位の縫代にて袋縫になし、裾口を右に持ちて手前の方に折を付け、裾を一寸位裏の方に折り八分位の幅に裾紵をなすべし。

圖のり上來出掛前立仕袴

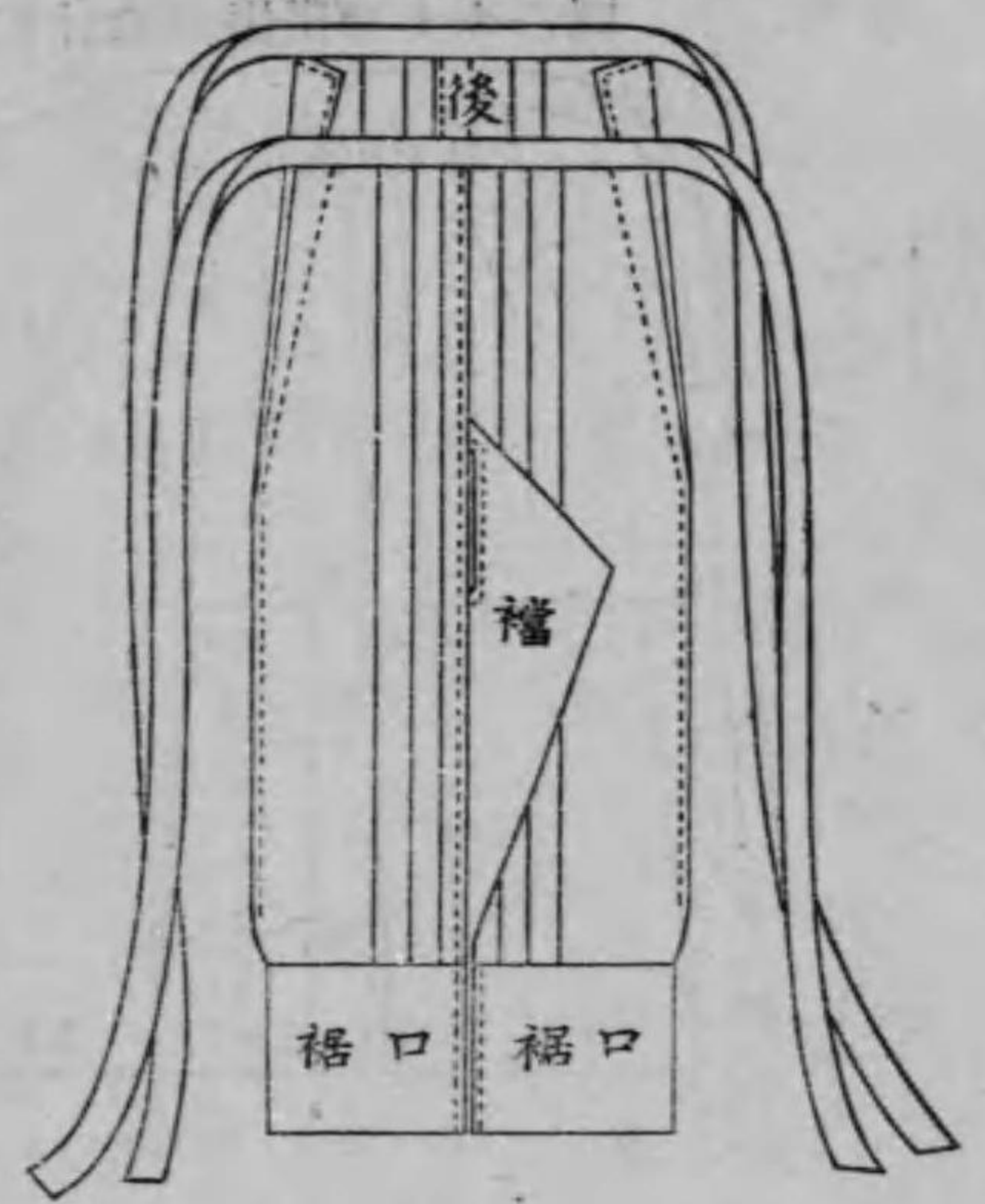


刺し、三ヶ所を躰にて留め、次に笹襷を寸法通りに折りて袴の如くなし、丈を三つ折りに疊み置くべし。

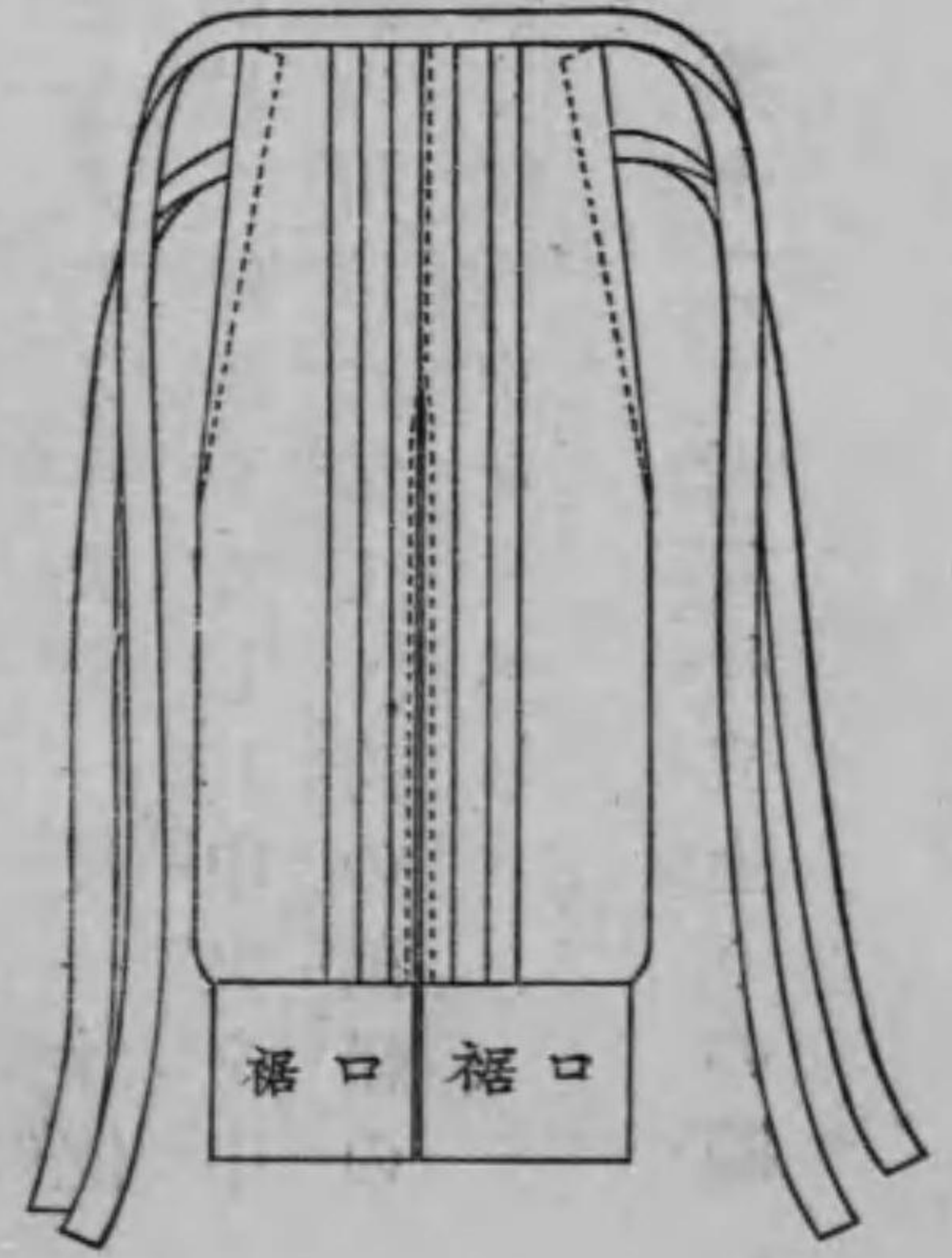
三 紐をはぎ合せ縫目を割りて、鍔を掛け、兩端を裏より縫ひ表に返し、地質の薄きものには芯を入れる、中央を一尺一寸位明けて紐紵をなし、其中央を中襷の折目に當て、袴の前紐の如く紐附をなすべし。

第十二 雪袴仕立上りの圖

(前)圖り上來出袴雪

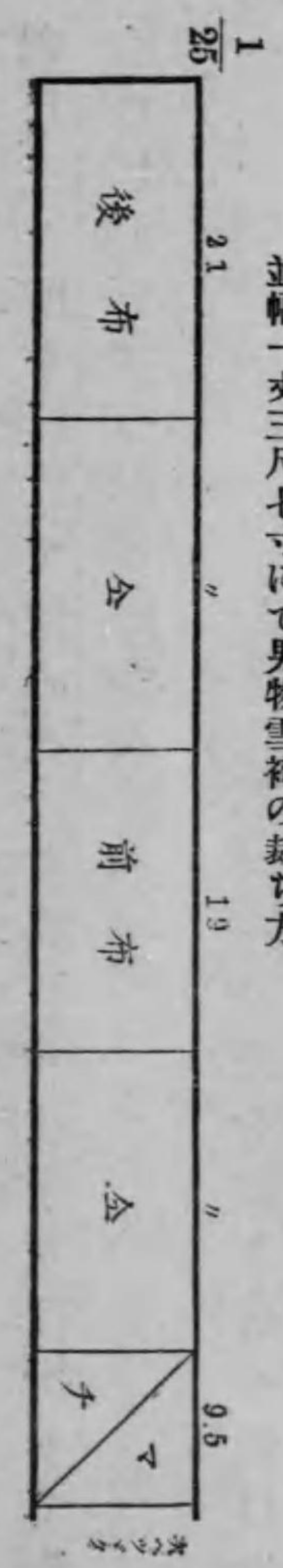


(後)



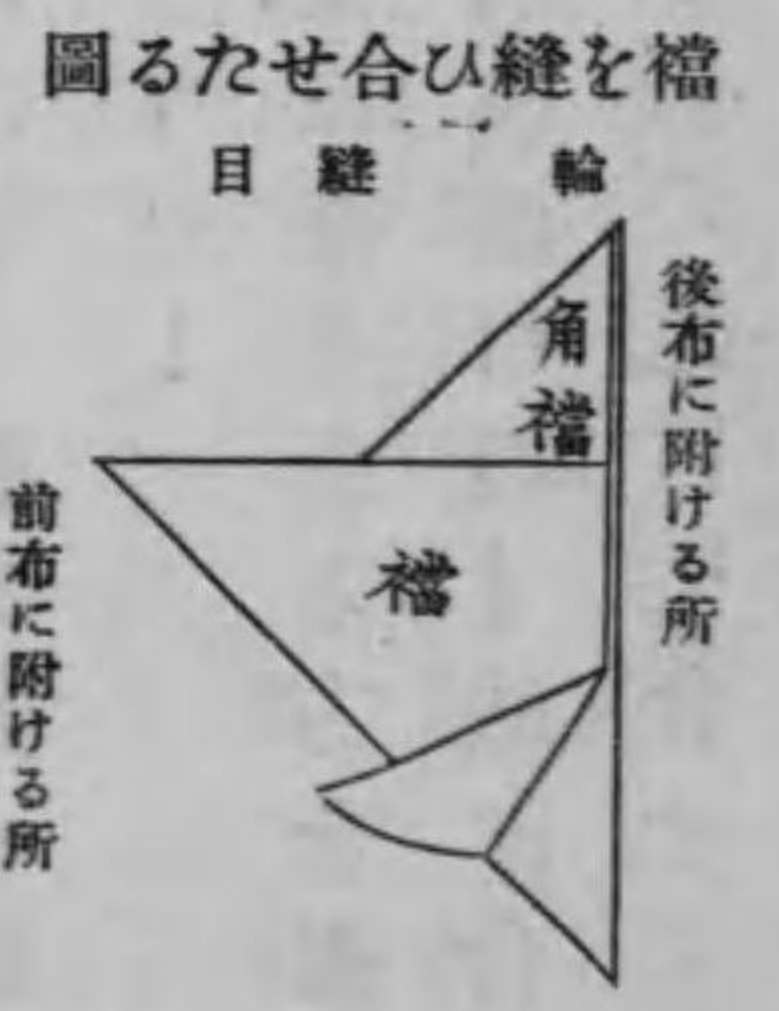
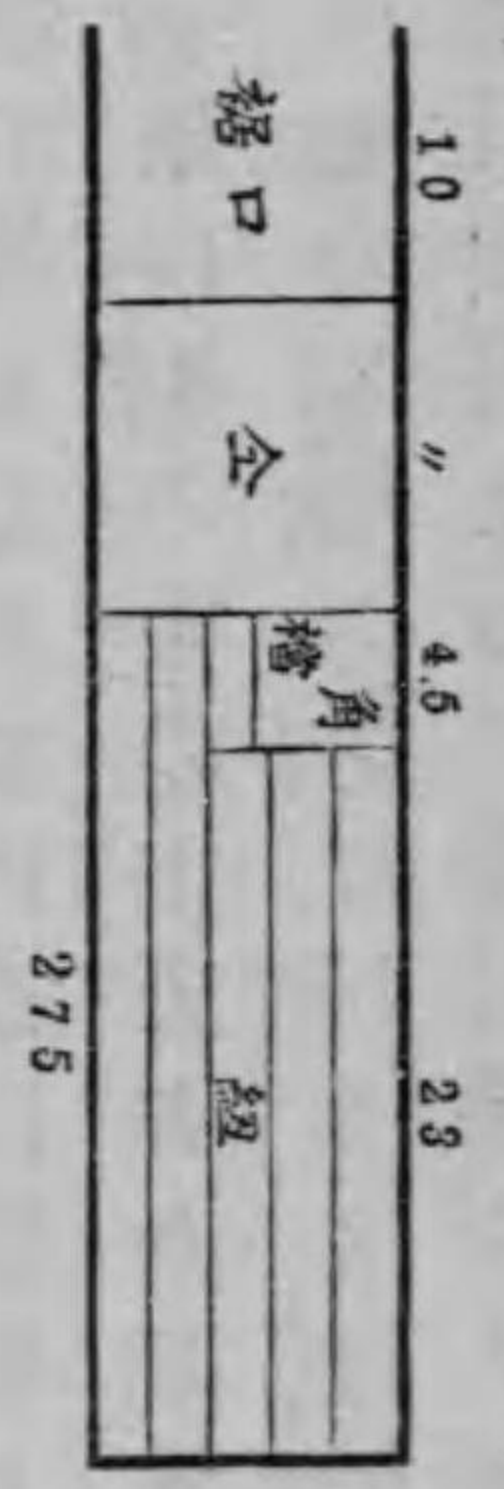
第十三 雪袴の裁ち方及び縫ひ方

並幅一丈三尺七寸にて男物雪袴の裁ち方



雪袴の縫方順序

- 一 角襠を圖の如く三角の襠に縫ひ付け、襠の上部を左右縫ひ合せ、襠の方に折りて隠躰を掛るべし。
- 二 左の後布に裾口布の上部を縫ひ合せ、裾口を縫代だけ残して襠を縫ひ付け、次に右の後布に襠を縫ひ付け、上部を續きに縫ひ合せ、後布の方に折りて隠躰を掛け置くべし。
- 三 右の前布に裾口を縫代だけ残して襠を縫ひ付け、小便穴の



處を三寸縫ひ残す次に左の前布に襷を縫ひ附け上部を續きに縫ひ合せ前布の方に折りて隠躰を掛け穴の上下に門留をなし置くべし。

四 左右の相引を裾口より一尺程縫ひ合せ前布の方に折りて隠躰を掛け次に相引の上部を一寸二分裏に折り返し相引より斜になして隠躰を掛け袴の如く門留をなし置くべし。

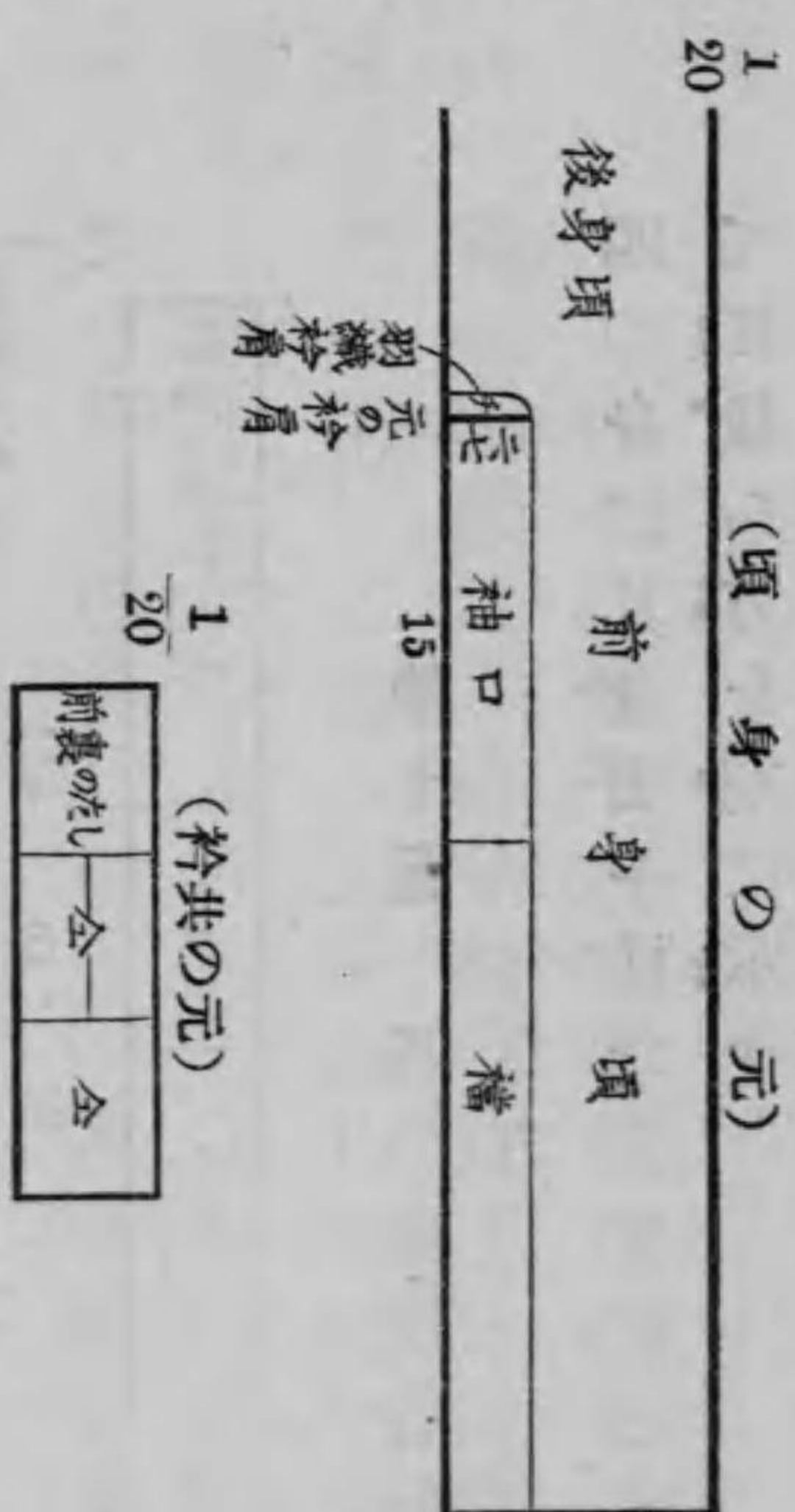
五 後布の上部の幅を左右とも四等分して其所を各々裾口まで真直に折を附け紐附の幅八寸に袴の如く襷を寄せ躰にて假に綴ち置き前布も同様に襷取りをなすべし。

六 裾口布の幅の中央より二分位裏に寄りたる方を撮みて空縫ひをなし裏の方に折りて隠躰を掛け裾口の寸法に合せて輪となし隠躰を掛け次に裾口の縫目を袴の縫目に合せて裾口布

を縫ひ附け裏にて紘け置くべし。

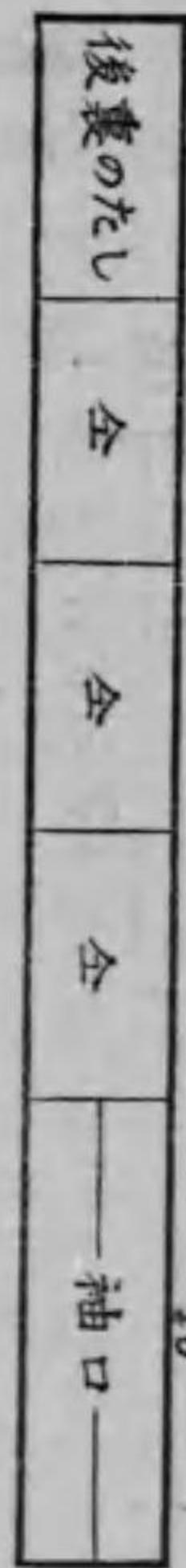
七 紐を後前とも同じ長さにはき合せ丈の長さ分を中央になす縫目を割りて隠躰を掛け紐丈の中央を後前とも縫目に當てて紐附をなし紐先を裏より縫ひて表に返し紐紘をなすべし。

**第十四 方** 本裁長着を羽織に仕立替る時の裁ち



袖は其儘に用ひ身頃は圖の如く前を裁ち落し袖口及び襷となし衿を山接きになして羽織の衿となし元の衿及び共衿を衿芯に用ゆべし衿の折方は四つ身羽織の衿と同様なり

1  
20 (衿の元)



縫を切り拂ふ場合には前の裁ち落し袖口を取り用ひ元の衿に四つに切つて袖口を縫ひ合せて後裏のたし一枚と共につぎの如く三つに切り一枚と半の幅を合せて又裏布を少し前に縫ひ足と合せて此裁ち方に於て間合せる場合に於て

第十五 四つ身長着を羽織に仕立替る時の裁ち方

四つ身は其身丈一様ならざれども假に身丈の寸法を定めて其裁ち方を左に示す  
元の身丈二尺八寸五分裁ち切り羽織の身丈二尺上り  
圖す落ち裁を前てね重枚二を頭身の元



重ねは其儘に用ひ身頃は二枚にして圖の如く袖口を裁ち落しにして残り二枚はき合せて衿となすべし  
元の衿を二つに切りて襷となし共衿を其足し切となす

1  
20 一枚のし落ち裁の前  
圍るたり取を口袖て



又身丈の都合に依り前の裁ち落しにて衿丈を度り袖口の取れざる場合には元の衿にて袖口を取り、其残りを裏に少しく折り返る位になし襷不足の分は共衿を其上部に接ぎ合すべし。  
襷は裾口にて接ぎ合せるよりも上部の方却て目立たぬものなり。

第十六 本裁羽織を長着に仕立替る場合

一 袖は其儘用ひ前身頃の長き分は後丈に合せて裁ち落すか  
或は帶の下にて縫ひ揚をなし、衿肩を少しく切り込み肩幅の出  
來得る限りに脊を縫ひ込むべし。  
一 元の衿を半幅に切り一枚を衿となし、他の一枚を衿及び共

衿となすべし、若し衿丈不足の時には襦或は袖口を下前の衿先に接ぎ合すべし。

第十七

四つ身羽織を長着に仕立替る場合

一 袖は其儘用ひ前身頃の長き分は後丈に合せて裁ち落し衿肩の丸き處を眞直に二分程切り込み脊を二分程深く縫ふべし。  
一 元の衿を衿となし襦袖口工合よく接ぎ合せて衿となすべし。

第十八

羽織を被布に仕立替る場合

一 袖身頃、襦袖口等は其儘用ひ元の衿を豎衿及び小衿となすべし。

第十九

經濟裁袖無羽織衿なし仕立上りの圖及び裁方

圖り上立仕織羽無袖



- 一 仕立上り寸法
- 一 身丈 一尺二寸
- 一 脇明 六寸
- 一 襦幅 上八分 下一寸二分
- 一 紐下り 四寸五分

一 メリンス半幅長さ三尺二寸の布にて  
一 つ身袖無經濟裁表の裁ち方



一 同じく裏の裁ち方

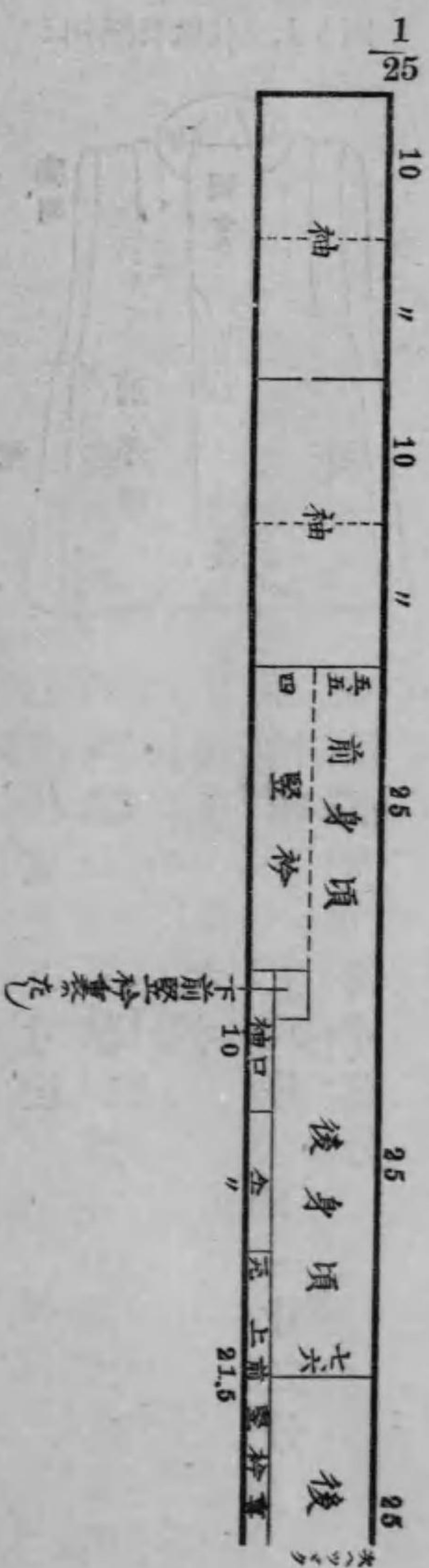


鏡の附け方は普通一つ身袖無羽織と同様なり。

但し前下りを附けず

又縫ひ方も略々同様なれども綿を入れる前に前の裾先を仕立上り圖の如く丸く裏より縫ひ置くべし  
綿を入れたる後紐を表に綴ち附け次に小衿を作りて表身頃に縫ひ附け前身頃を裏表紵け合すべし。

第二十 並幅半反にて四つ身合羽の裁方及び積り方(立衿) 衿は別布を用ゆ



積り方

$$10 \times 4 = 40$$

$$140 - 40 = 100$$

$$100 \div 4 = 25$$

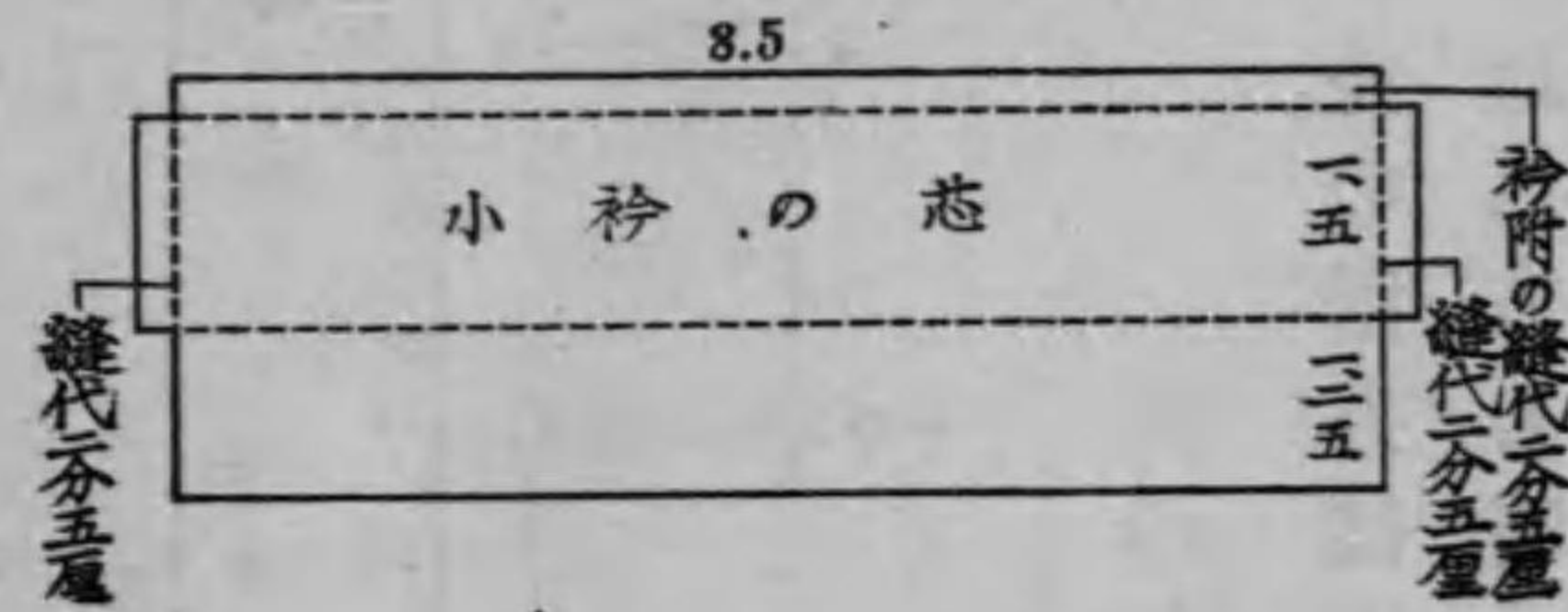
身丈

- 四つ身立衿合羽縫方順序
- 一 鏡の附方は四つ身道行衿合羽と同様なり。
  - 一 縫ひ方も略々同様なれども立衿裏の狭きと裾布の附かざると小衿の異なる點を左に示す
  - 一 立衿を裾口迄縫ふべし。



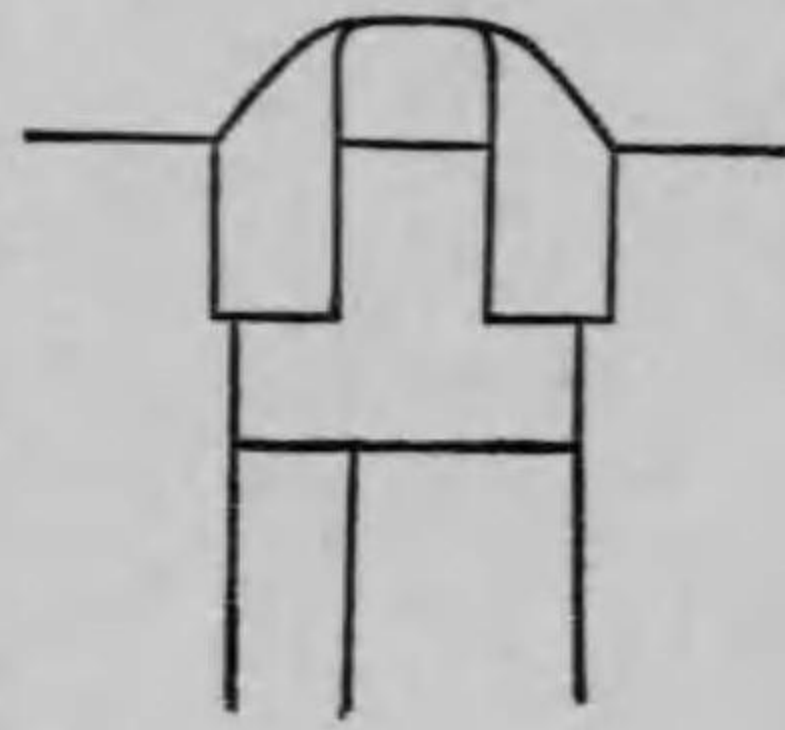
一 裾口を単衣の如く三つ折になし、左右の豎衿幅の中央迄衿  
け附るべし。

小衿の芯の折方及裁び落ちの方の圖



一 左右の豎衿に裏布の裁目の方を縫ひ附  
け、折を裏の方に返し隠躰を掛け、下部を裾衿  
の折山迄斜に折りて衿、豎衿裏の奥は耳の  
儘にて耳衿をなすべし、(豎衿裏の奥に別布を  
接ぎ合せ表の豎衿幅と同様にすもよろし  
一 小衿の芯を呉服紙にて幅は仕立上り寸  
法(着物の衿幅より二三分廣く)の二倍、丈は仕  
立上り寸法(豎衿下りの二倍)に五分加へたる  
もの)に五分加へて裁ち切り圖の如く縫代二  
分五厘に通し、籠を附け、其籠より衿幅を度り

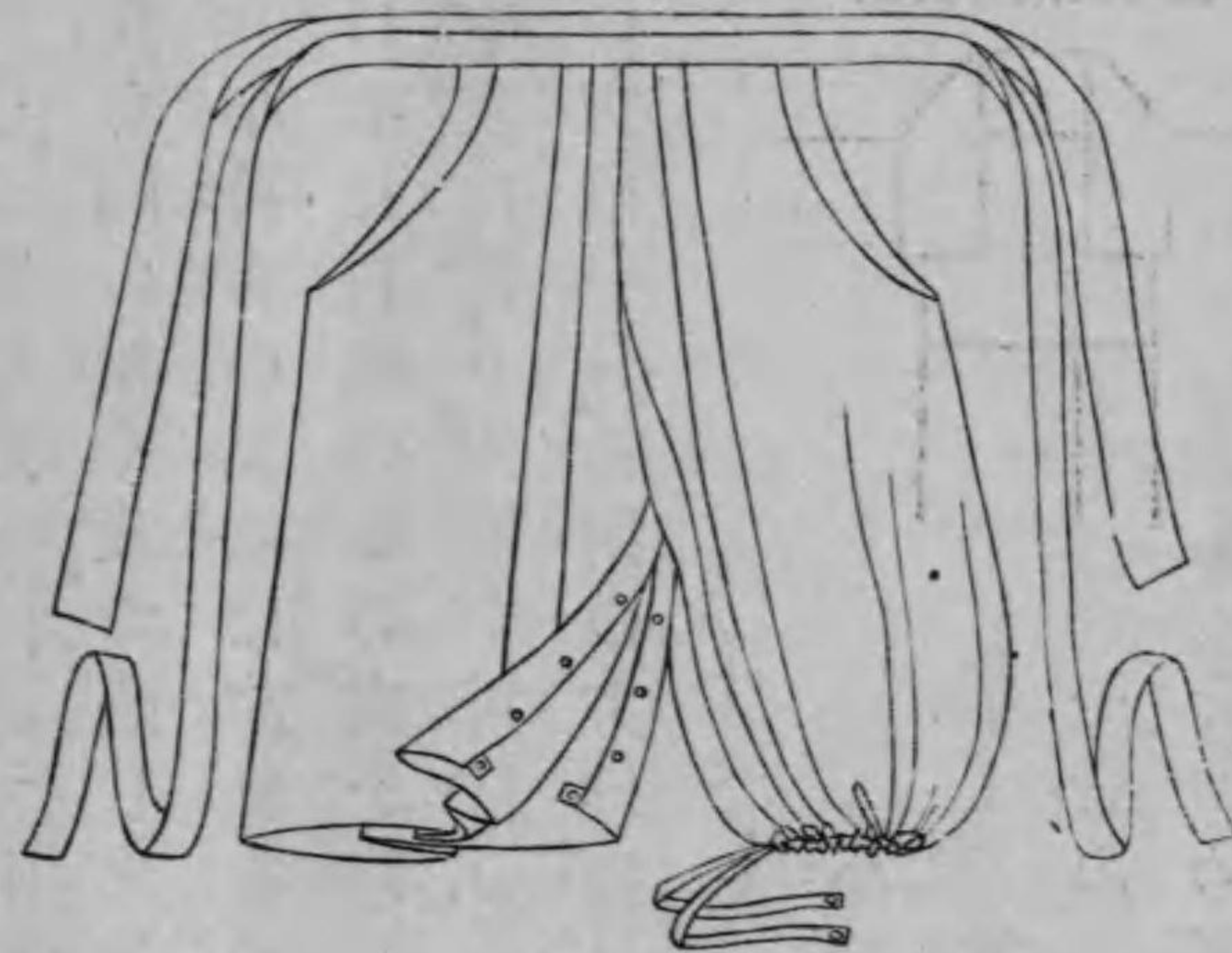
立衿を附る圖



て同しく通し籠を附けて兩端の縫代二分五厘に通し籠をなし、  
四角を圖の如く裁ち落したる後、籠通りに折を附け置くべし。  
一 小衿布の裏側に芯紙を載せ、衿附の處を揃へて躰にて綴ち  
附け、次に衿幅の折の處を同じく躰にて綴ち附け、其折を山にし  
て、中表に折り、兩端を折目の一分先にて一針ぬきの返し針にて  
輪の方は一分、衿附の方は折目より二分残して縫ひ、之を表に返  
すべし。

一 小衿の中央を脊縫の表に當て、待針を  
刺し、豎衿下りの處を二分の縫代になして  
一針ぬきの返し針にて縫ひ附け、衿先の處  
を留め裏の端を折りて衿附にまつり附け、  
次に飾り紐を普通に附るべし。

出上るたり後の方一裾を括るたり



裁方は普通女袴と同様なり。縫方も畧々同様なれども裾をくゝる爲前後とも中央を裾口より八寸位残して縫代四分に縫ひ合せ、後布一幅の時は裾より八寸位裁り込む次に縫残したる處の布の端に細きテツプを入れて三つ折衿になし、其處に丸ホツクを（ホツクの玉の出たる方を右脚の後布に、左脚は其反對に）上より五分位の處に一つ附け、其下を四當

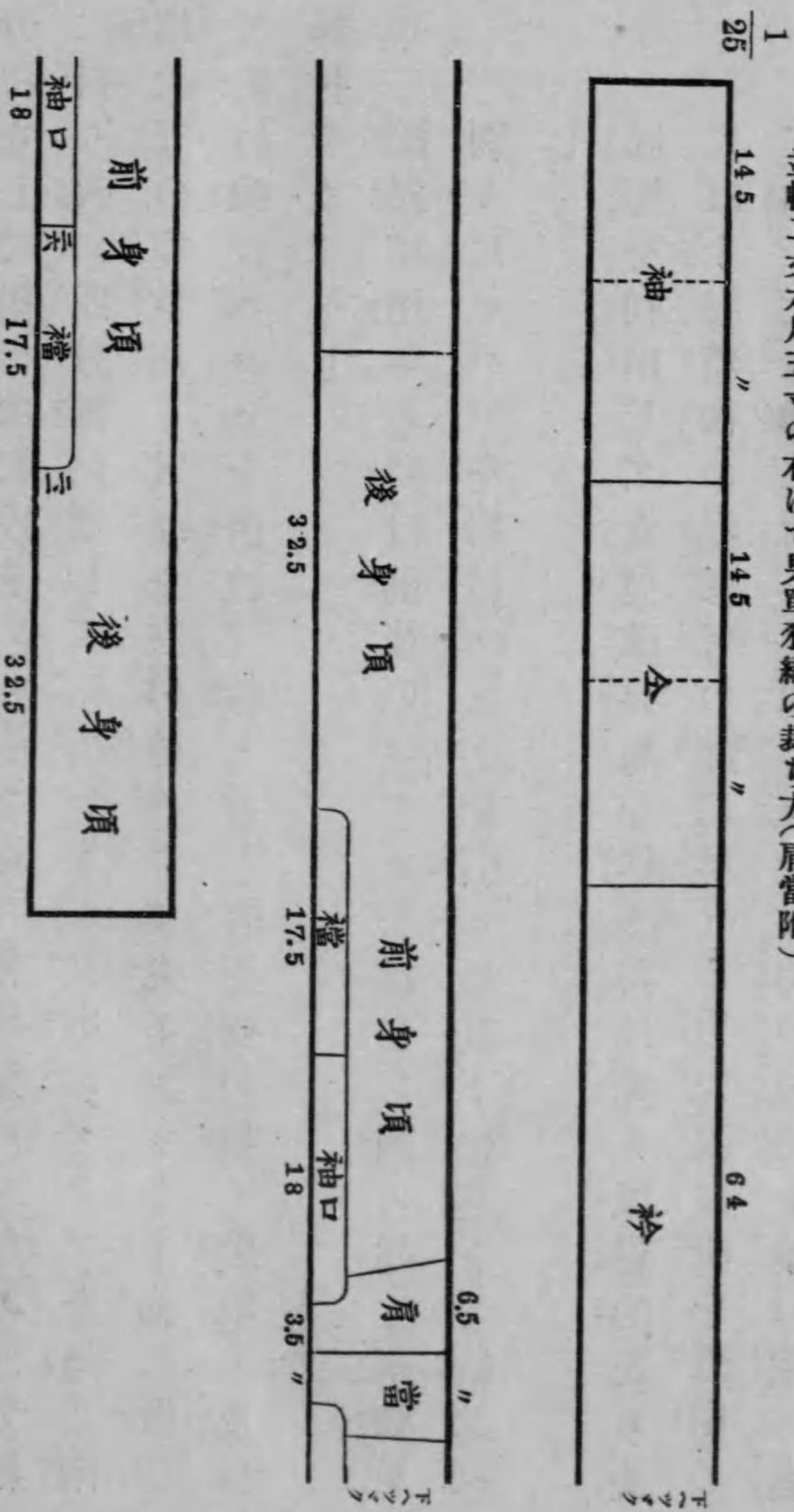
分になして附け、次に左右の相引を縫ひ合せ、裾口を始め二分幅に折り、次に四分幅になして裾衿をなし、其處にテツプを通し、兩端に五分宛位出し、其端を三分位折り、丸ホツクを上部に做ひて附け、次にホツクを掛けて輪となし、普通袴の如く襷取り及び紐付をなすべし。

體操に用ゆる時は、前後のホツクをはづし、圖の如く兩脚を別々にホツクを掛け、テツプを引しめ、其下に巻きて結ぶべし。

此袴を利用して、女兒改良服を作る時は、尤も理想的なり、夫には上卷着物の卷參考の部に示せる、男兒改良服を應用して、袖を元祿袖になし、腰板の處を女袴の後紐を附け、裾の處は此袴の如く左右別々に括るべし。

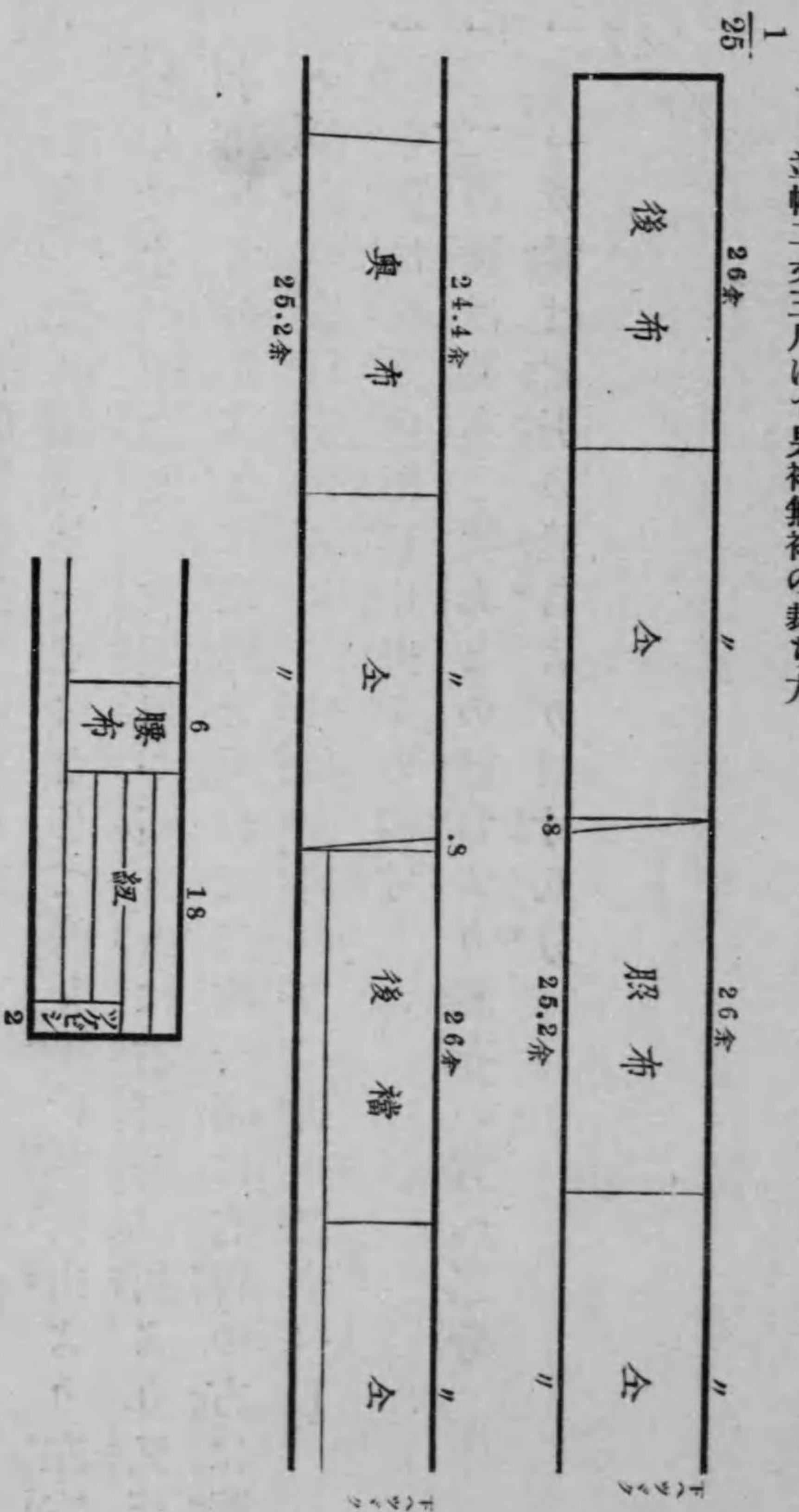
第二十二 並幅物にて男單羽織の裁方(肩當附)

並幅二丈六尺五寸の布にて男單羽織の裁方(肩當附)



第二十三 並幅物にて男襦袢の裁方

並幅二丈三尺にて男襦袢の裁方



男襟無袴寄襲の取り方

- 一 後襲の重ね合せを一寸になして、襟を掛け、其折山より左右とも三寸づつに度りて、其處を折り、次に右脚を其折より又三寸度りて折り、其上に左脚を重ねて二枚一諸に右脚の方に載せ、後襟の縫目中央より二寸位左脚の方に折り返すべし。
- 一 中襲は奥布の縫目中央より四寸
- 一 二の襲は脇布と奥布との縫目より脇布の方へ二分
- 一 一の襲は相引の縫目より四寸八分

新編裁縫全書 終

大正十年九月七日印刷  
大正十年九月十日發行

新編裁縫全書中巻  
羽織袴之巻

定價金壹圓九拾錢

著作  
所有

著者	遠藤 錠子
著者	高田 久子
發行者	大倉保五郎
印刷者	島 連太郎
印刷所	東京市神田區美土代町二丁目一番地 三 秀 舍

發行所……東京市日本橋區通壹丁目  
振替口座東京二三八番  
大倉書店

前共立女子 遠藤錠子・高田久子共著  
職業學校教師

# 新編裁縫全書

和裝菊判美製 全三冊

上卷(着物之卷)定價金貳圓參拾錢(最新刊)  
中卷(羽織袴之卷)定價金壹圓九拾錢(最新刊)

下卷(重物之卷)近刊  
各冊書留送料金拾八錢

本書は多年教授上の経験と其技に實地熟達せられし兩著者が如何なる初心者にも手に取る如く分り易き様に苦心を重ねあく迄親切を以て説かれ、其上に圖は現寸を比例して縮め、一目の下に解り良くなし、又圖を度るに重寶な尺度付の枝折をも添へ尙卷末には特に參考の部を設け最新の研究に係るものを記載し時勢に後れぬことを期して居ります。

女子高等師範 神田 順子 著  
學校助教授

## 裁縫新教授書(上卷)

和裝美製  
紙數二百七十餘頁  
定價金壹圓五拾錢  
書留送料金拾五錢

△著者多年教授上の經驗より成れる結晶  
△本書は各女學校の良教科書なり

日本女子大學家政館編纂

## 最新經濟滋養料理

洋裝三六判全一冊  
口繪四色版及分析表付  
定價金壹圓四拾錢  
書留送料金拾五錢

曩に内務省が節米獎勵のため代用食の宣傳を全國に發したるに際し日本女子大學家政科部長井上秀子之が囑託を受け、同家政館に於て安價にして滋養豐富なる米代用食品料理を研究せしめ傍ら文部省の主權生活展覽會にも國民保健食量に適應せる獻立及び温量に當める食品料理數十種は悉く本書に詳述す其内容は材料に牛の内臟、兎肉、鰈肉、鰯、鰯等の市場に於て低廉に求めらるゝものを始め高粱、小麥、大麥、豆類、南瓜、馬鈴薯、甘藷その他蔬菜一切を用ひ和洋混合の珍料理、蒸パン、焼パン、主副混合經濟料理等悉く新發見の安價滋養料理を説き盡して餘す所なし。文辭平易にして説明懇切加ふるに方法も極めて簡略なれば一般家庭は勿論女學校並に新料理を研究せんとする人一讀して益する處甚だ多き事なり。

東京女子高等師範學校教授 近藤耕藏 閱  
東京府立第一高等女學校教授 國澤きよ子 著

## 家庭に於ける燃料の節約

洋裝菊判全一冊  
紙數二百八十餘頁  
定價金貳圓七拾錢  
書留送料金拾八錢

近時燃料暴騰の最大原因は材料の大缺乏にありて勢の趨く所正に近き將來に於て燃料の一大饑饉を出現せんやも計るべからざるの狀態に在り。是れ我國民生活上食糧と共に大問題なり。此秋に當りて燃料の大部を消費する家庭の主婦たるもの國家の爲め其消費を削減するの用意なくして可ならんや。本書は家庭に於ける燃料節約に關し著者が心血を澆ぎて幾多の實驗を積み理論を融和し之れに趣旨を加へ多數の圖を挿入し親切に明快に解説したるものなれば一般主婦の研究資料たるは勿論各學校に於ける家事教授の指針たるべき最新最初の著にして之を推薦するは當商店の誇りとす所なり。本書を一讀して其本領を會得せんか各家庭の主婦は容易に其消費量を半減し得べし。

女子手藝普及會編新裁縫小物全書 定價金貳圓貳拾錢 書留送料金十八錢	木村淡香著和洋裁縫小ざれ細工 定價金壹圓七拾錢 書留送料金十五錢	中村井秋翠共著家庭袋物細工全書 定價金壹圓貳拾錢 書留送料金十八錢	山田きよ子共著袋物細工之枝折 定價金貳圓 書留送料金十八錢	木村井秋翠共著和洋袋物細工 定價金壹圓五拾錢 書留送料金十五錢	大妻技藝學校教師女子吉岡房次郎著技藝撮み細工全書 定價金壹圓七拾錢 書留送料金十五錢	津田敏子著ろざし圖案集 定價金貳圓八拾錢 書留送料金十七錢	木村淡香著實用刺繡全書 定價金貳圓貳拾錢 書留送料金十八錢	木村淡香著刺繡圖案集 定價金壹圓貳拾錢 書留送料金十一錢	木村淡香著刺繡圖案集 定價金壹圓貳拾錢 書留送料金十一錢	木村淡香著刺繡圖案集 定價金壹圓貳拾錢 書留送料金十一錢
兩生高等師範學校教授 鹿島英二著家庭刺繡圖案 定價金八圓五拾錢 書留送料金十八錢	女子高等師範學校教授 森本義子著家庭編物全書 定價金壹圓六拾錢 書留送料金十五錢	木村淡香著編物圖案集 定價金壹圓參拾錢 書留送料金十三錢	木村淡香著編物圖案集 定價金壹圓參拾錢 書留送料金十三錢	木村淡香著編物圖案集 定價金壹圓參拾錢 書留送料金十三錢	小杉文學博士校閱女子齋藤圓子著數科包結之棗 定價金貳圓 書留送料金十八錢	女子美術學校教授富田輝夫著實用染色工藝 定價金貳圓貳拾錢 書留送料金十八錢	同 絞り染圖案集 定價金壹圓五拾錢 書留送料金十五錢	同 絞り染圖案集 定價金壹圓五拾錢 書留送料金十五錢	同 絞り染圖案集 定價金壹圓五拾錢 書留送料金十五錢	栗井くま子著實用みしん裁縫全書 定價金貳圓參拾錢 書留送料金拾八錢

伊澤峯子著

改訂 實用 小兒洋服裁縫全書

洋裝菊判全一冊  
定價金貳圓參拾錢  
書留送料金拾八錢

小兒を完全に保育せんとするものは小兒洋服の仕立方を知らざるべからず△洋服は小兒の性情に適する理想的の服裝なり△洋服は運動を輕快ならしめて形狀色彩の美を兼ね洗濯に便にして其材料低廉なり△洋服仕立方の基礎を知らざれば洋服裁縫教授を完全になす能はず△洋服仕立方の基礎を知るは應用力を増進する基なり△本書は洋服裁縫の基礎を悉く圖解を附し詳説して洋服裁縫の奥義を容易に知らしむ。

小兒 實用 和洋裁縫小物集

洋裝菊判全一冊  
定價金壹圓五拾錢  
書留送料金拾五錢

子供の着けたる如何に些の裝飾も兒童をしてその心理に非常なる善惡の影響を與ふることは識者の夙に認むるところなり。  
本書は一般家庭の主婦にして心得べき經濟的且つ趣味的なる兒童の和洋小物を豊富なる挿繪を以て全卅五章に亘り詳述せるものなれば主婦令嬢の必讀すべき良書なり。

共立子女職業學校教師

伊遠高  
藤藤田  
文鏡久  
子子子  
共著

# 裁縫おさいく物

附實用小物

手藝中で最も手軽に複雑な道具を使はず普通裁縫の心得ある方に離れにても習得するのはを  
さいくものてありまます本書は其製作順序を細説した上石版刷と寫真版木版など外形から分  
解圖迄も示し實物大の原型圖を掲げ説明と相助けて懇切に書いてあります本書を手本にして  
寸暇を利用すれば立派な美しい家庭で實用になる用具が出来ます

遠藤鏡子・高田久子共著

和裝美製全一冊  
定價金壹圓八拾錢  
書留送料金拾五錢

# 續裁縫おさいく物

次續裁縫おさいく物 (おもちゃ集)

本書は裁ち餘りの小切れて家庭實用の色々のおもちゃが出来る方法を圖を入れて何人にも解る  
様詳しく書いたもので手毬から航空船迄卅餘種

和裝美製全一冊  
定價金壹圓七拾錢  
書留送料金拾五錢

# 續裁縫おさいく物

本書は裁縫おさいくものの續編として生れたもので右目次の大要は小袋・針刺・腕附・手提袋・  
ペン掛・置物・巾着・玩具・涎掛・子供足袋・香入・珠數入・お飯臺・雜種等 八十三種附錄原型六十  
六種口繪石版十三度刷二枚・寫真版十頁を挿入してあります

和裝美製全一冊  
定價金貳圓貳拾錢  
書留送料金拾五錢

終

